

小橋工業(株)のホームページ(以下、弊社サイト)においては、カタログ・取扱説明書・パーツリスト等の電子データの閲覧、ダウンロードのサービス(以下、本サービス)をご提供しております。

本サービスをご利用の際には、以下の注意事項をご確認ください。

電子データの取扱いについて

電子データの内容について

■本サービスにおいては、弊社製品のカタログ、取扱説明書、パーツリスト等、製品に関する全ての印刷物を網羅するものではありません。

■カタログ、取扱説明書、パーツリストの内容は、製品の仕様変更などにより、予告なく変更される場合があります。その為、弊社サイト内に掲載される電子データの内容は、販売店等で配布、掲示されるカタログ、製品購入時に同梱する取扱説明書、印刷物として存在しているパーツリストの内容とは異なる場合がございます。

表記内容は、発行当時の情報であり、弊社純正部品の名称、小売単価、各営業所の名称、所在地などの情報が現在と異なる場合があります。

また、製品安全上の取り扱い、環境対応につきましては、製品販売時の法令、規制に適合するものであり、製品販売後の法令、規制の変更は威容を反映していない場合があります。予めご了承ください。

著作権について

本サービス内の電子データにつきましては、弊社(小橋工業株式会社)が著作権その他知的財産権を保有します。無断で他のウェブサイトや印刷媒体に転載することや複製、翻訳等はできません。
但し、お手持ちの製品ご使用の為、1部に限り印刷することができます。

保証について

弊社の製品保証、安全性の保証は製品付属の書面に基づく保証に限られており、弊社サイト内の電子データに基づく保証は提供いたしません。

お問合せについて

ご使用の製品の取り扱い及び、使用上の安全等に関するお問合せは、ご購入店にご相談頂きますよう、お願ひいたします。

免責事項

弊社サイトのご利用に起因するソフトウェア、ハードウェア上の事故その他の損害等につきましても、一切の責任を負いません。

弊社サイトのご利用に際して生じたお客さまと第三者との間のトラブルにつきましては、一切責任を負いません。
弊社サイトのサービスは予告なく中止、または内容や条件を変更する場合がございます。

以上

小橋工業株式会社

コバシサイバーハロー

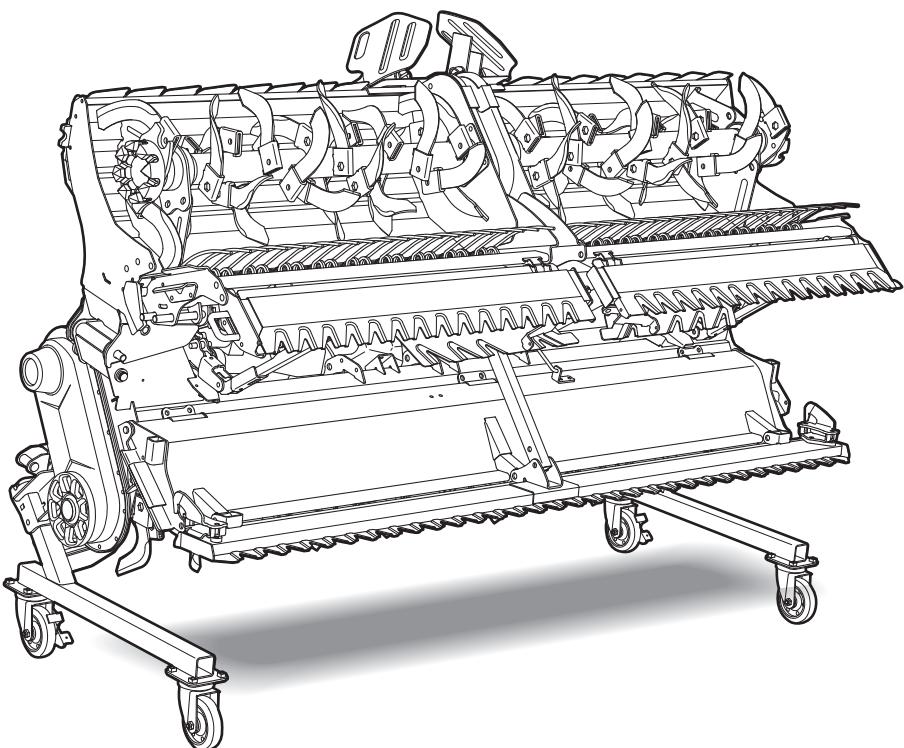
TXF-5 シリーズ 取扱説明書

お役立ちガイド

このたびは作業機をお買い上げいただき、ありがとうございました。

この取扱説明書をよくお読みのうえ、正しくお使いください。

- 特に、「安全について」(→ p.4) は、必ずお読みいただき、安全にお使いください。
- お読みになった後も、必ず作業機の近くに保管し、いつでも読むことができるようにしてください。



CYBER

KOBASHI

目 次

必ず読む▼

| | |
|--------|-------|
| はじめに | ► p.2 |
| 詳細目次 | ► p.3 |
| 安全について | ► p.4 |

使いかた▼

| | |
|---------------------------|--------|
| 各部の名称 | ► p.14 |
| 開梱・組付け | ► p.15 |
| ジョイントの取付け準備 | ► p.16 |
| トラクタへの装着(JIS標準オートヒッチSヒッチ) | ► p.17 |
| トラクタへの装着(JIS標準オートヒッチLヒッチ) | ► p.28 |
| トラクタへの装着 (JIS特殊3Pヒッチ他) | ► p.39 |
| トラクタへの電源接続と配線 | ► p.44 |
| カルコンについて | ► p.52 |
| 移動・圃場への出入り | ► p.63 |
| 作業のしかた | ► p.64 |
| 代かき爪の取付け | ► p.74 |
| 保守・点検 | ► p.77 |
| 消耗品一覧 | ► p.87 |
| 格納・運搬・保管 | ► p.89 |
| 電気配線図 | ► p.90 |

必要に応じて▼

| | |
|--------------------|---------|
| 主要諸元 | ► p.92 |
| トラクタ別装着表 | ► p.99 |
| クボタ W3P 用トラクタ装着表 | ► p.106 |
| フロントウエイト装着表 | ► p.108 |
| フロントウエイト装着表 (Lヒッチ) | ► p.111 |
| 異常診断一覧表 | ► p.113 |
| カルコンのトラブルシューティング | ► p.117 |
| 廃棄について／用語解説 | ► p.121 |

はじめに

作業機を操作する前にこの取扱説明書をよく読み、正しい取扱方法を理解してください。この取扱説明書は、作業機の近くに保管して、操作手順に不安が生じたときにはいつでも読み返せるようにしてください。

使用目的・使用範囲

この作業機は水田の代かき用です。ダイレクトな耕耘、表層碎土、重作業には使用できません。使用目的や適用トラクタ以外の作業や作業機・部品の改造などは、決してしないでください。故障した場合、保証の対象になりません。

取扱上の注意

- 当社は、以下のことを守らないで生じた損害または傷害に対しては一切責任を負うことができないので厳守してください。
 - 取扱説明書記載の指示事項を守ってください。
 - 必ず適用トラクタで作業してください。
 - 作業機・部品を改造しないでください。
 - 操作・保守作業は、通常必要とされる注意をして作業してください。
- 危険性に関する警告は、作業機の本体に貼付けた警告表示ラベル、およびこの取扱説明書に記載してあります。
- この取扱説明書には、知り得る限りの危険性を記載しています。この取扱説明書に記載した警告や指示を守ってください。
また、これら以外にも事故防止対策に関して、十分な配慮が必要です。
- この取扱説明書は、日本語を母国語とする人を対象に作成されています。日本語を母国語としない人がこの作業機を取扱う場合は、必ずお使いになる方に安全指導を行ってください。

貸出時および譲渡時の注意

- 作業機を譲渡または貸与する場合は、この取扱説明書を十分理解してから作業するように指導してください。また、この取扱説明書を作業機に添付してお渡しください。
- この作業機は国内での使用を前提としています。したがって、海外諸国の規格への適応は保証できません。また、海外諸国では使用言語が違うため、国外への持ち出し・転売はしないでください。

取扱説明書について

- この取扱説明書は、作業機の組み立て、操作、および保守の方法を説明するものです。
- この取扱説明書の内容は作業機の改良のため、予告なく変更する場合があります。
- この作業機とこの取扱説明書の図とは異なることがあります。
また、作業機内部の説明を容易にするため、図の一部を省略していることがあります。あらかじめご了承ください。
- この取扱説明書は著作権を当社が有します。当社の事前の文書による同意なしに、この取扱説明書の全体もしくは部分的に複写、翻訳しないでください。また、読み取り可能な、どのような電子装置や機械にも転写しないでください。
- この取扱説明書を紛失または損傷された場合は、速やかにお買い求めの販売店にご注文ください。
- この取扱説明書に記載されている会社名および製品名は、各社の商標または登録商標です。
- さらに詳しい情報が必要となる場合や、ご質問などがある場合、または内容につき不明な点がありましたらお買い求めの販売店へお問い合わせください。

詳細目次

| | |
|--|-----|
| はじめに | 2 |
| 詳細目次 | 3 |
| 安全について | 4 |
| 警告表示について | 4 |
| 安全に作業するために | 4 |
| 電動油圧シリンダの取扱い | 9 |
| カルコンの取扱い | 10 |
| 道路走行時の注意 | 11 |
| 警告表示ラベルと機番プレート | 12 |
| サービスと保証 | 13 |
| 各部の名称 | 14 |
| 本体 | 14 |
| 開梱・組付け | 15 |
| ジョイントの取付け準備 | 16 |
| 注意事項 | 16 |
| 切断方法 | 16 |
| トラクタへの装着 | |
| (JIS 標準オートヒッチ S ヒッチ) | 17 |
| 注意事項 | 17 |
| 装着前の準備 | 18 |
| セーフティカバーの取付け | 20 |
| トラクタへの装着 | 21 |
| 装着後のトラクタとの調整 | 23 |
| トラクタからの取外し | 26 |
| フロントウェイトの取外し | 27 |
| トラクタへの装着 | |
| (JIS 標準オートヒッチ L ヒッチ) | 28 |
| 注意事項 | 28 |
| 装着前の準備 | 29 |
| セーフティカバーの取付け | 32 |
| トラクタへの装着 | 32 |
| 装着後のトラクタとの調整 | 35 |
| トラクタからの取外し | 37 |
| フロントウェイトの取外し | 38 |
| トラクタへの装着 | |
| (JIS 特殊 3P ヒッチ他) | 39 |
| 適用型式 | 39 |
| 注意事項 | 39 |
| トラクタへの装着 | 40 |
| 装着後のトラクタとの調整 | 40 |
| トラクタからの取外し | 42 |
| フロントウェイトの取外し | 43 |
| トラクタへの電源接続と配線 | 44 |
| 注意事項 | 44 |
| 作業時確認 | 45 |
| 事前準備 | 45 |
| 配線のポイント | 45 |
| カルコンホルダの取付け | 50 |
| カルコンについて | 52 |
| 注意事項 | 52 |
| カルコンとボタン説明 | 53 |
| その他の機能 | 57 |
| 防水キャップの取付け | 61 |
| カルコンの充電 | 62 |
| 電源の入れ方 | 62 |
| 移動・圃場への出入り | 63 |
| 注意事項 | 63 |
| 作業のしかた | 64 |
| 注意事項 | 64 |
| 圃場の準備 | 64 |
| 作業速度と PTO 軸回転速度と深さ | 65 |
| 作業機の開閉 | 65 |
| 作業深さの調整 | 67 |
| オート装置と深さ | 68 |
| 代かき作業 | 68 |
| EX レベラの使用 | 69 |
| エプロン加圧の使用 | 69 |
| サイバーハンドの使用 | 70 |
| 土寄せ作業 | 73 |
| 代かき爪の取付け | 74 |
| 注意事項 | 74 |
| 代かき爪の種類と本数 | 74 |
| 代かき爪の取付け | 74 |
| 爪配列図 | 75 |
| 保守・点検 | 77 |
| 注意事項 | 77 |
| 保守・点検の準備 | 77 |
| 保守・点検一覧表 | 78 |
| 作業内容 | 79 |
| 消耗品一覧 | 87 |
| 格納・運搬・保管 | 89 |
| 注意事項 | 89 |
| 保管・格納 | 89 |
| 作業手順 | 89 |
| 電気配線図 | 90 |
| 主要諸元 | 92 |
| トラクタ別装着表 | 99 |
| S ヒッチ (TXF355T-4S) | 99 |
| S ヒッチ (TXF385・415T-4SD) | 102 |
| L ヒッチ (TXF385・415T-4L) | 104 |
| クボタ W3P 用トラクタ装着表 | 106 |
| クボタ / New Holland W3P A フレーム (TA-K) | 106 |
| フロントウェイト装着表 | 108 |
| フロントウェイト装着表 (L ヒッチ) | 111 |
| 異常診断一覧表 | 113 |
| カルコンのトラブルシューティング | 117 |
| 廃棄について | 121 |
| 注意事項 | 121 |
| 用語解説 | 121 |

必ず読む

はじめに / 詳細目次

安全について

ここに示した注意事項は、作業機を安全に正しく使用していただき、使用者や他の方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

警告表示について

警告レベルの定義

誤った取扱いをすると、生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を明示するために、「危険」、「警告」、「注意」に区分して記載しています。

| | |
|-------------|--|
| △ 危険 | 誤った取扱いをしたときは、死亡、後遺症などの大きな被害の可能性が高いことを意味します。 |
| △ 警告 | 誤った取扱いをしたときは、死亡、後遺症などの大きな被害を負う恐れがあることを意味します。 |
| △ 注意 | 誤った取扱いをしたときは、軽度の傷害が発生する可能性があることを意味します。 |

その他の表示

上記以外の表示は、次のとおりです。

| | |
|----------|--|
| (取扱上の注意) | 誤った取扱いをしたときは、作業機が故障する可能性があることを意味します。 |
| (お知らせ) | 作業機本来の能力が発揮できないこと、あるいは、特に知っておいていただきたいことを意味します。 |

絵表示

危険に対する注意・表示は次の3種類の記号を使って表しています。

| | |
|--|---------------------|
| | 禁止（してはいけないこと）を示します。 |
| | 強制（すること）を示します。 |
| | 注意を示します。 |

安全に作業するために

全般

△ 危険

禁止
使用目的以外の作業や作業機・部品の改造をしないでください。

* 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行
取扱説明書はいつでも読むことができるよう、作業機と一緒に大切に保管してください。

* 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行
取扱説明書をよく読み、作業機・部品の使いかたを理解してから使用してください。

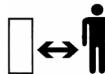
トラクタの『取扱説明書』も併せてよく読んでください。



* 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。

必ず実行
操作、作動しているときは周りの人はもちろん、本人も作業機から離れ、かつ周囲との距離が十分ある状態で行ってください。

* 作業機に挟まれ、事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行
故障・異常に気付いたら、直ちに作業を中止し、修理してから使用してください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



⚠ 警告



禁止

適応トラクタ以外には装着しないでください。

主要諸元表を熟読の上、適応馬力内のトラクタに装着してください。

* 特にトラクタ馬力が小さい場合、トラクタとの重量バランスが悪くなり、事故・大ケガにつながる恐れがあります。



禁止

次のような状態では、運転しないでください。

- ・飲酒運転
- ・いねむり運転
- ・病気や薬物の作用で正常な運転ができないとき
- ・若年者
- ・妊娠中の方



作業機の操作に熟練し、必要な運転免許証を携帯し、心身ともに健康な状態で運転してください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

作業機を他人に貸出す場合は、取扱説明書も添付し正しい取扱いを指導してください。



* 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行

作業中の服装は、ヘルメット、丈夫な手袋、すべらない靴、キンとした作業服を着用してください。



ボタンもキンととめてください。

* 回転部分に巻込まれ、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注意



必ず実行

共同作業者がある場合は、動作ごとに合図を徹底してください。



* 作業機が急に動き、事故・ケガにつながる恐れがあります。

作業前点検

⚠ 注意



必ず実行

各部のボルト、ナットなどの緩みや、ピンの脱落がないか確認してください。



* 事故・ケガ・故障につながる恐れがあります。

トラクタへの着脱

⚠ 警告



必ず実行

トラクタと作業機の着脱の際は、いつでも逃げられる安全な態勢で操作し、トラクタは必ずブレーキで止めてください。



* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

作業機への着脱・調整は、平坦で十分な広さがあり地盤のしっかりした場所で行ってください。



特に夜間の作業機の着脱は、適切な照明を用いてください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

取付け各部のトメピンがすべて確実に装着されているか確認してください。

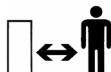


* 事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



必ず実行

作業機の着脱は、基本的に1人で作業を行ってください。



* 作業機が急に動き、事故・大ケガにつながる恐れがあります。



注意

トラクタを移動して作業機を装着する場合は、トラクタと作業機の間に人が入らないように注意してください。



* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

必ず実行 **!** 2人以上で着脱を行う場合は、お互いに合図を徹底してください。
* 作業機が急に動き、事故・ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行 **!** ジョイントのノックピンが確実に PTO 軸溝、または作業機入力軸溝にはまつたか確認してください。
* ジョイントが抜け、事故・ケガにつながる恐れがあります。



カバーの取付け

⚠ 危険

必ず実行 **!** ジョイントなど、作業機のカバー類は必ず取付けてください。
* 卷込まれて、死亡事故・大ケガにつながる恐れがあります。



トラクタへの装着

⚠ 危険

必ず実行 **!** 作業機とトラクタとの重量バランスを確認してください。
• トラクタの前輪に最低限 20 % 以上のウェイトがかかるよう、フロントウェイトを取付けてください。
• 作業機に泥が付着して重くなる場合があるため、泥を取り除いてください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
作業機を装着すると、重量バランスが変わります。



トラックへの積み・降ろし

⚠ 危険

必ず実行 **!** 禁止 途中でクラッチを切ったり、変速を中立にしたりしないでください。
低速で積み・降ろししてください。
* 転倒などし事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行 **!** 積み・降ろしの場所は、平坦で安全な場所で行ってください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行 **!** アユミ板は、滑り止めの付いている丈夫なものを使用してください。
確実に固定し、傾斜角度、平行度を確認してください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行 **!** 積み・降ろしの際は、トラックが移動しないようしっかりとサイドブレーキをかけてください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行 **!** トラクタの左右のブレーキペダルを連結し、脱輪しないようにしてください。
* ブレーキが片効きをし、転倒などし事故・大ケガにつながる恐れがあります。



注意 **!** 作業機を装着しての積み・降ろしは、泥の付着などがあるため注意してください。
トラクタの重量バランスが変わります。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



△危険

注意

積み・降ろしの際、折りたためる作業機、EX レベラは折りたたみ、トラックの荷台からはみ出さないように注意してください。



強度が十分あるロープで確実に固定してください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

一般走行**△危険**

高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回をしないでください。



禁止

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



周囲の人やものに注意して旋回してください。



必ず実行

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

△警告

禁止

トラクタ・作業機には、運転者以外の人を乗せないでください。



* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



走行するときは次のことを守ってください。



必ず実行

- ・ 左右のブレーキペダルを連結すること
- ・ 作業機の回転を止めること
- ・ 作業機の落下速度調節レバーを締めて、必ず油圧ロックをすること

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

△警告

坂道での走行は次のことを守ってください。



必ず実行

- ・ クラッチを切ったり、変速を中立にしたりしないこと

- ・ スピードを落とし、低速で走行すること

- ・ エンジンブレーキを使用し、急ブレーキをかけないこと

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

作業機は左右がトラクタの機体幅より広いため、走行時は注意してください。



注意

移動時は、作業機の折りたためる箇所は折りたたみ走行してください。

また、キャスタースタンドが付いている場合も必ず取外してください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

△注意

注意

路肩に草が茂っている場所を走行するときは、路肩の強度に注意してください。



* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

圃場への出入り

⚠ 警告

必ず実行

⚠ 圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げる、うねや段差に対して直角に進んでください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

⚠ 圃場の出口が傾斜している場合は、バックして上がるか、または丈夫なアユミ板を使用してください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

⚠ うねや段差に対しては、作業機を低くして重心を下げ、直角に進んでください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



作業中

⚠ 危険

必ず実行

⚠ いねむり運転、わき見運転しないようあらかじめ体調を整えてください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



⚠ 警告

禁止

⚠ 作業機の下にもぐったり、足をふみこんだりしないでください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



禁止

⚠ 作業中は、周りに人を近寄らせないでください。
• 特に子供には十分注意すること
• 補助作業者がいる場合は、動作ごとに合図をかわすこと
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



⚠ 警告

回転部分など、動くところには触れないでください。
禁止 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



作業機のカバーは土礫が飛散するため、取外さないでください。
禁止 * ケガにつながる恐れがあります。



次の作業をする場合は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。

- 運転者が運転位置を離れて作業機を調整するとき
 - 爪軸などへの草やワラのからみ付きを取除くとき
- * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



取扱上の注意

- ぬかるみにはまっても作業機は絶対に外さないでください。
牽引点を低くし、他の車に引き上げてもらってください。
故障につながる恐れがあります。

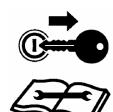
作業中の点検

⚠ 警告

必ず実行

作業機の点検を行うときは以下のことを確認してから作業してください。

- トラクタの駐車ブレーキをかけている
 - PTO変速レバーが中立になっている
 - エンジンが停止している
 - トラクタのキーを抜いている
 - 油圧ロックを行っている
- * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



⚠ 警告

点検のために外したカバー類は、必ず元通りに取付けてください。



必ず実行
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

ラジエータやマフラーには触れないでください。



禁止
* 火傷をする恐れがあります。



点検整備に必要な工具類は、適切な管理を行い、正しく使用してください。



必ず実行
* 整備不良で事故につながる恐れがあります。

トラクタ停車**⚠ 警告**

傾斜に止める場合は、タイヤに必ず車止めをしてください。



必ず実行
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

平らな場所に止め、作業機を降ろしてエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてください。



必ず実行
* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

その他**⚠ 警告**

作業機指定の PTO 回転速度 540 rpm (1速・正転) を守ってください。



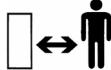
* 作業機を高速回転、または逆転で使用すると、作業機が異常動作し事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。



トラクタのエンジン始動時は以下のことを確認してください。

禁止

- ・周りに人がいないこと
- ・作業機が下がっていること
- ・作業機が不意に下がり、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

**⚠ 注意**

代かき作業をしないときは、電源カプラ 3P (白) を必ず外してください。



* バッテリ上がりおよび誤作動する恐れがあります。

電動油圧シリンダの取扱い**⚠ 危険**

絶対に分解したり、修理・改造・調整をしたりしないでください。



* 油が吹き出したり、異常動作したりしてケガする恐れがあります。

* 調整ネジを緩めるとシリンダが急に伸縮し、作業機が落下するため、事故・大ケガにつながる恐れがあります。



火気・熱気の中に投じないでください。



* タンク内には可燃物である作動油が加圧されて入っているため、火災・爆発により事故・ケガにつながる恐れがあります。

カルコンの取扱い

- 手持ちコントローラを「カルコン」と表記しています。
- 本システムは電波を使用したコバシ作業機専用の無線コントロールシステムです。本製品は総務省の電波法に基づく基準認証を受けており、免許や資格なしでどなたでもご使用いただけます。
- 送信機（カルコン）と受信機（制御ボックス）の間で誤作動防止のため作業機固有のIDコードを使用した通信を行います。このため作業機に付属しているカルコン、制御ボックス以外の組合せ（ペア）では操作することができません。

△危険



液漏れした電池に触れる場合は、ゴム手袋、保護用メガネを着用してください。

- 必ず実行
- 漏れた液が皮膚や衣類に付着した場合は、きれいな水で洗い流してください。
 - 漏れた液が眼に入った場合は、きれいな水で洗った後、直ちに医師の治療を受けてください。
- * 素手で触れてそのままにしておくと、化学物質による火傷や、失明につながる恐れがあります。

△注意



制御ボックスは機種専用のため、異なる機種の制御ボックスを使用しないでください。

* 故障や予期せぬ作動の原因となり、ケガをする恐れがあります。



可燃性ガスが発生する可能性のある場所では使用しないでください。

* 火災の原因になる恐れがあります。



制御ボックス内の配線の継替えは行わないでください。

* 予期せぬ作動を起こし、ケガをする恐れがあります。

△注意



必ず実行 心臓ペースメーカーなどの医療用電子機器を使用されている方は、医師や医療用機器メーカーに電波の影響を確認してからご使用ください。

電波仕様

周波数 : 2.4 GHz 帯域

通信方式 : 双方向通信方式

出力 : 最大 1 mW

* 心臓ペースメーカーなどの医療用電子機器に影響を与える恐れがあります。



必ず周囲の安全が確認できる位置で操作を行ってください。

必ず実行 電波の通信距離は使用条件、周囲の環境（屋外、屋内、障害物、天候、近くに強い電波を出す設備がある場合など）により大きく変わることがあります。

* 作業機が急に動き、ケガにつながる恐れがあります。

取扱上の注意

- 本コントロールシステムは日本国内の電波法に基づき作製されています。ご使用は国内のみしかできません。
- カルコン、制御ボックス（作業機に搭載）を分解、改造、異なった用途で使用しないでください。法律で罰せられることがあります、正常な作動、安全性を保障できなくなります。
- カルコンおよび制御ボックスには技術適合証明シールが貼付されています。剥したり、その上に他のシールを貼ったりするなど確認ができない状態で使用することも法律で禁止されています。
技術適合証明シールにはマークが付いています。
- 使用中に製品から煙が出たり、異臭がしたり操作と異なる動作をした場合や割れ、変形がある場合は、使用を中止し販売店にご連絡ください。
- カルコン、制御ボックスを金属などで覆つたり、塗装をしたりしないでください。電波が届きにくくなることがあります。
- 制御ボックスは樹脂カバーで覆われています。カバーを外した状態での代かき作業、洗車作業をしないでください。故障の原因になります。



道路走行時の注意

運転免許について

特定小型特殊自動車（全幅 1.7 m 以下、全高 2.0 m 以下、全長 4.7 m 以下、かつ最高速度 15 km/h 以下のトラクタ）であっても、作業機を装着した場合に何れかの寸法を超えるときは、大型特殊自動車の運転免許（『農耕用に限る』を含む）を取得している必要があります。

作業機について

危險

必ず実行

作業機をトラックで運搬する際は折りたためる箇所は折りたたんでください。また、作業機が動かないように強度が十分あるロープで確実に固定してください。



* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

**積み・降ろしの際、落下防止措
置を行ってください。**

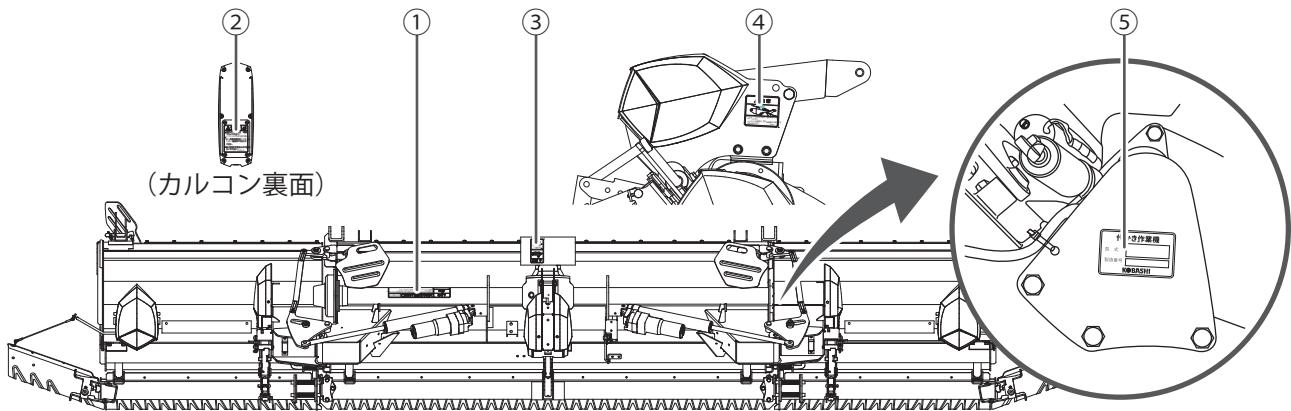


- * トラックのあおりを不用意に開けると作業機が滑り落ち、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

警告表示ラベルと機番プレート

この作業機には、警告表示ラベルを貼って注意喚起しています。よくお読みになって、理解した上で作業してください。また、機番プレートについてはアフターサービスのときに参照してください。（「サービスと保証」（→ p.13））

- いつも汚れや泥をとり警告表示ラベルがハッキリと見えるようにしてください。
- 警告表示ラベルが損傷や破損したときは、新しいものと交換してください。
- 警告表示ラベルを貼ってある部品を交換したときは、必ず新しい部品に、取外した部品と同じ場所に警告表示ラベルを貼ってください。



① コードNo. 9994463

| 危険 | 警告 | 注意 |
|--|--|--|
| 危険 ●セーフティカバーは、常に装着して使用してください。 ●エンジンまたはジョイントが回転中は、体を近づけないでください。 ●巻込まれて死傷するおそれがあります。 | 警告 ●転落事故を防ぐためには、発進や登坂時にトラクタの前輪が浮き上がりないように充分な前部ウエイトを取り付けてください。 ●作業機にタッチメントを装着する時には、特にバランスを注意とともに、タッチメントの取扱説明書をよく読んで、適切な処置や調整を行ってください。 ●ロータリの回転部に接触すると、ケガをするおそれがありますので、回転部に近づかないでください。 | 注意 使用前に取扱説明書をよく読んで 安全で正しい作業をしてください。 ●作業機を着脱するときは、トラクタと作業機の間に立たないでください。 ●エンジン始動時や作業中は、周囲の安全を確認し、人がいないか、特に子供には注意し、近づけないようにしてください。 ●作業機の上へ人を乗せないでください。 ●点検整備時には、必ずエンジンを止め、駐車ブレーキをかけて、油圧降下防止用ストップバルブを締めてください。 また、絶対に作業機の下にはいって作業をしないでください。 ●ジョイントのノックピが確実にロックされていることを確認してください。 9994463 |

② コードNo. 9994514

| 注意 |
|--|
| ●操作は周囲の安全を十分確認して行ってください。 ●バッテリ上がり及び誤作動防止のため作業終了時は本機マスト付近にある電源カプラを外してください。 ●単4型指定充電池以外は使用しないでください。 9994514 |

③ コードNo. 9992126

| 危険 |
|---|
| ●セーフティカバーは、常に装着して使用してください。 ●巻込まれて、死傷するおそれがあります。 9992126 |

④ コードNo. 9994606

| 注意 |
|---|
| ●代掻き作業をしない時は、電源供給カプラを外してください。 バッテリーの消耗や、思わぬ誤動作が発生する 恐れがあります。 9994606 |

⑤ 機番プレート

| 代かき作業機 |
|--------|
| 型式 |
| 製造番号 |

KOBASHI

※ 型式により、ない場合
があります。

サービスと保証

保証書

この作業機には保証書を添付しています。保証書はお客様が保証修理を受けられる際に必要となるものです。保証内容は保証書をご覧ください。お読みになった後は大切に保管してください。

アフターサービス

作業機の調子が悪いときに点検、処置してもなお不具合があるときは、下記の点を明確にして、お買い求めの販売店まで連絡してください。

- ・お客様名
- ・作業機の型式と製造番号
(「警告表示ラベルと機番プレート」(→ p.12))
- ・使用状況（作業速度、回転速度はいくらで、どんな作業をしていたときに）
- ・どのくらい使用したか（約〇〇アール・約〇〇時間使用後）
- ・不具合が発生したときの状況（できるだけ詳しく）

補修用部品の供給年限

この作業機の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打切り後9年といたします。

したがって、その後のご注文に対しては、在庫限りの供給とさせていただきます。

純正部品を使いましょう

補修用部品は、安心してご使用いただける純正部品をお買い求めください。

市販類似品をお使いになりますと、作業機の不調や作業機の寿命を短くする原因になります。

また、部品の改造はしないでください。

型式について

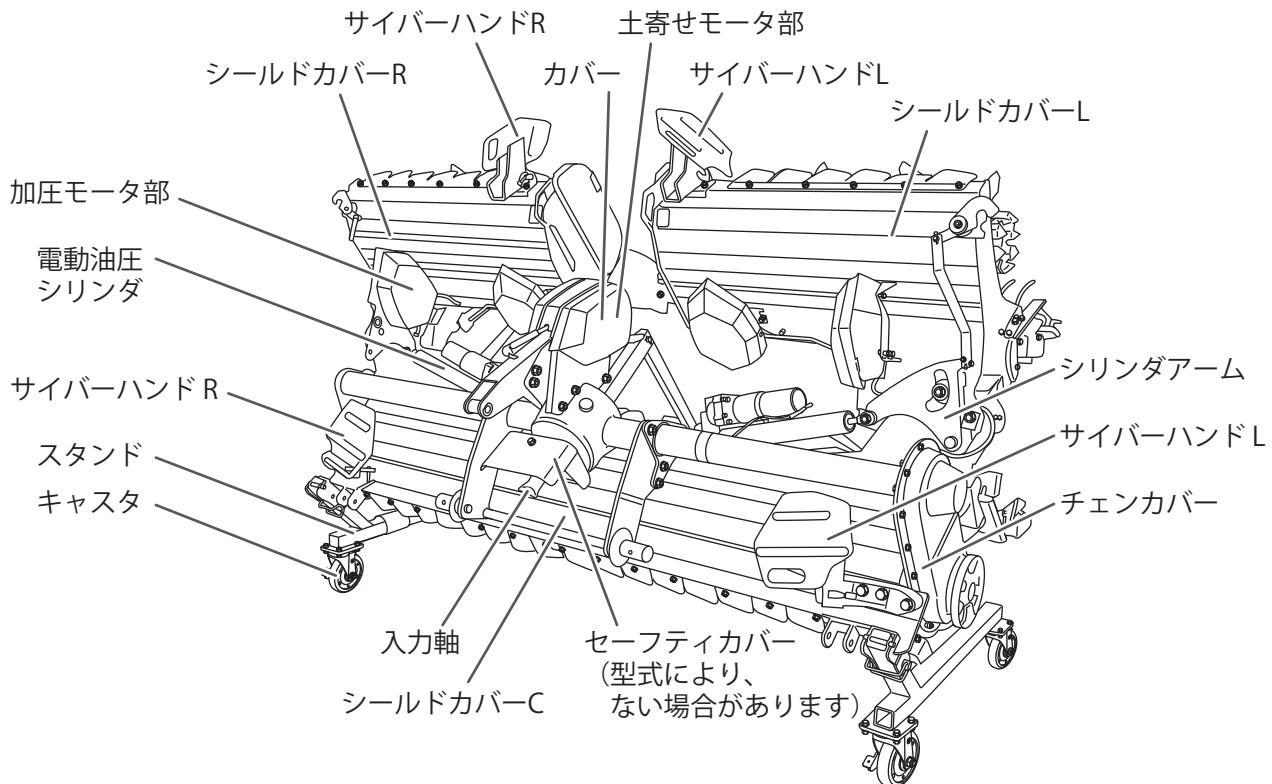
お買い上げいただいた作業機の型式名を保証書と機番プレートで確認し、該当箇所をお読みください。

各部の名称

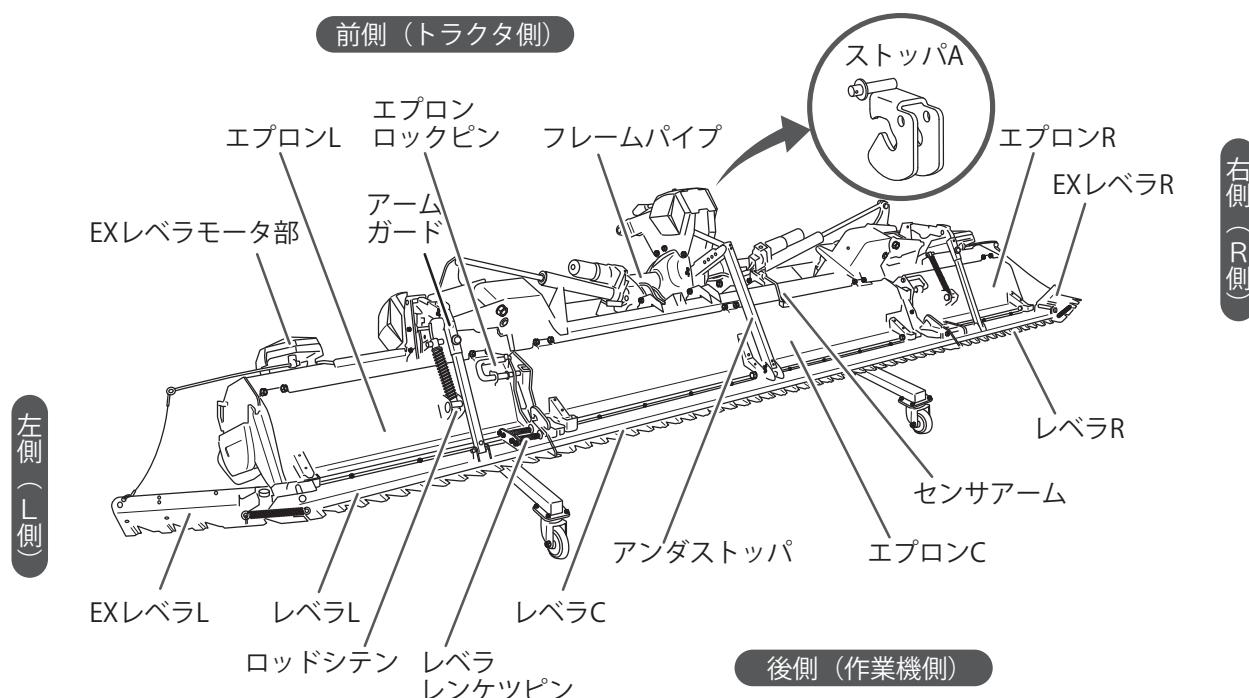
作業機本体の各部の名称と前後左右の定義について記載しています。

本体

■前面（トラクタとの接続側）



■背面



開梱・組付け

作業機は鉄枠梱包されています。別冊の『開梱・組付け要領書』に従って開梱・組付けしてください。

使いかた

各部の名称／開梱・組付け

ジョイントの取付け準備

トラクタによっては、標準のジョイントが長い場合があります。
以下の手順で、ジョイントの取付け準備を行ってください。

注意事項

取扱上の注意

- ・長すぎるジョイントを装着すると、トラクタのPTO軸と作業機の入力軸を突き、破損させます。
- ・短すぎるジョイントを装着すると、ジョイントの噛み合わせが不足して、チューブが破損します。

切断方法

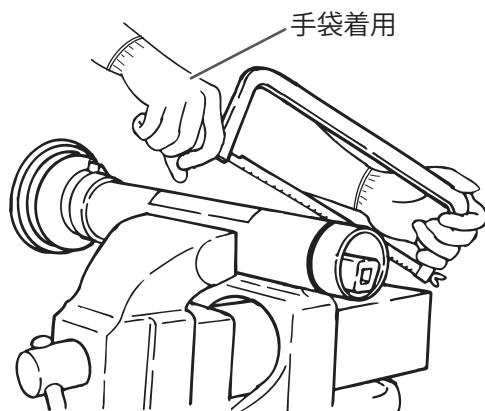
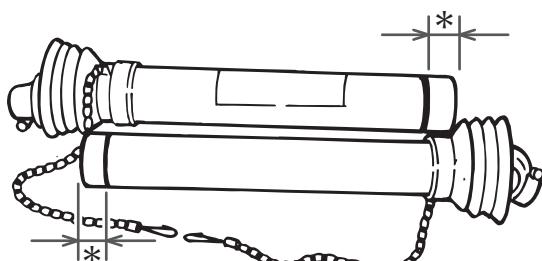
△ 注意

- !** 高速カッタを使用する場合は、十分注意して作業してください。
必ず実行 * ケガにつながる恐れがあります。
- !** 高速カッタ、または金ノコを使用する場合は、手袋を着用してください。
必ず実行 * ケガにつながる恐れがあります。
- !** ジョイント切断時にセーフティカバーを取り外した場合は、ジョイントに取付けてください。
必ず実行 * ケガにつながる恐れがあります。

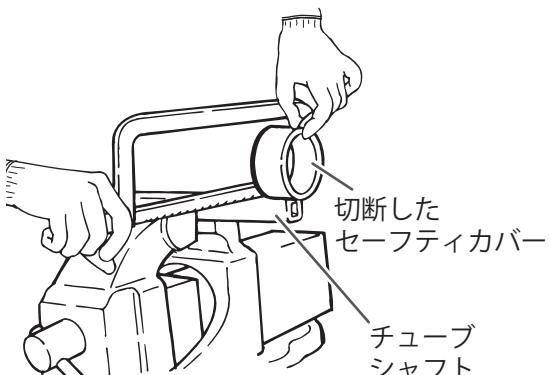
取扱上の注意

- ・ジョイント切断寸法は、「トラクタ別装着表」(→ p.99) で確認してください。

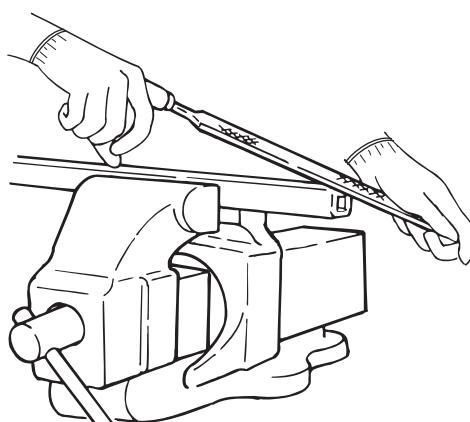
- 1** 金ノコまたはカッタで、セーフティカバーをオス、メス両方、長い分だけ切断（*）します。



- 2** 切りとったセーフティカバーと同じ長さで、チューブシャフトを金ノコ、またはカッタでオス、メス両方切断します。



- 3** 切り口をヤスリでなめらかにして、切り粉を取除きます。



- 4** グリスを塗布して、オスとメスを組合せます。

トラクタへの装着 (JIS 標準オートヒッチ S ヒッチ)

トラクタへの装着と取外しについて記載しています。

注意事項

警告

-  **必ず実行** * セーフティカバーを取り付けた状態で使用してください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
 -  **必ず実行** 平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
 -  **必ず実行** キャスタスタンドを着脱する際は、トラクタのエンジンを停止し、作業機を持ち上げ、油圧ロックし、落下防止をしてから行ってください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
 -  **必ず実行** 作業機の着脱は、基本的に1人で作業を行ってください。
必ず実行 * 作業機が急に動き、事故・大ケガにつながる恐れがあります。
 -  **注意** トランクを移動して作業機を装着する場合は、トラクタと作業機の間に人が入らないように注意してください。
* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

注意

- 必ず実行 **！** トラクタメーカーの純正ウエイトを取付けてください。

必ず実行 **！** トラクタ型式や着脱方式によりフロントウエイトが必要になります。

* 事故・ケガにつながる恐れがあります。
 - 必ず実行 **！** キャスタスタンドで作業機を移動する際は、平坦な広い場所で、周囲に人がいないことを確認し、足元に注意して行ってください。

* ケガにつながる恐れがあります。
 - 必ず実行 **！** キャスターやキャスタスタンドが損傷した場合は、直ちに修理・交換を行ってください。

* 事故・ケガにつながる恐れがあります。
 - 必ず実行 **！** キャスターで無理に段差を越えないでください。

* 作業機が損傷し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

△ 注意

-  キャスタースタンドは、圃場内での使用や圃場内への放置はしないでください。
禁止 泥の浸入により回動しにくくなることがあります。泥が浸入して回動しにくくなつた場合は、よく洗浄してグリスを塗布してください。

* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

 2人以上で着脱を行う場合は、お互いに合図を徹底してください。
必ず実行 * 作業機が急に動き、事故・ケガにつながる恐れがあります。

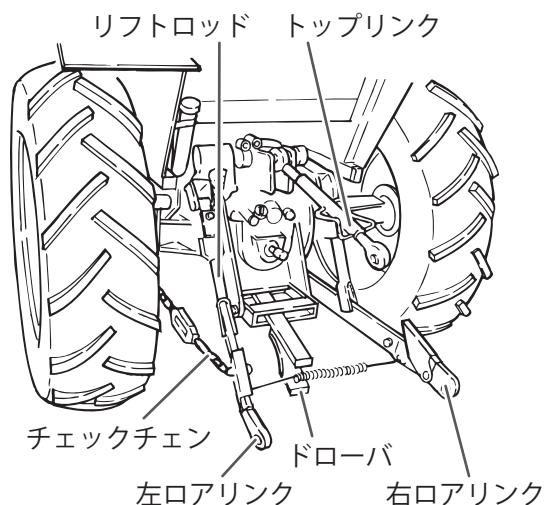
 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります。

装着前の準備

トラクタの準備

本機の装着方法は、標準3点リンク式のヒッチです。ドローバがジョイントに干渉する場合は、ドローバの位置を変えるか、取外してください。

取付け位置は、「トラクタ別装着表」(→ p.99) を参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認し、取付けてください。



オートヒッチアームの取付け

△ 危険

必ず実行 必ずトラクタの駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し、PTO軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

△ 注意

必ず実行 オートヒッチアームは、JIS規格に準拠したものを使用してください。

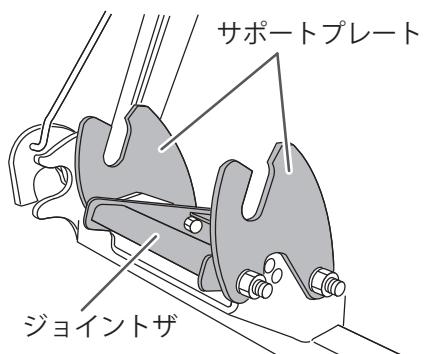
必ず実行 類似規格のものは、使用しないでください。

* 故障し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

1 オートヒッチアームの状態を確認します。

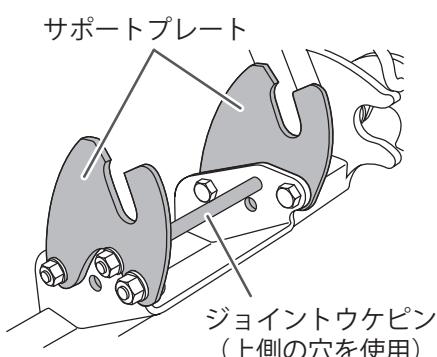
(a) KHC ジョイントの場合

- KHC ジョイントは TXF385T-4SD と TXF415T-4SD に標準装備されています。
- サポートプレートとジョイントザが確実に取付けてあることを確認します。
- オートヒッチアームにジョイントウケピンがないことを確認してください。

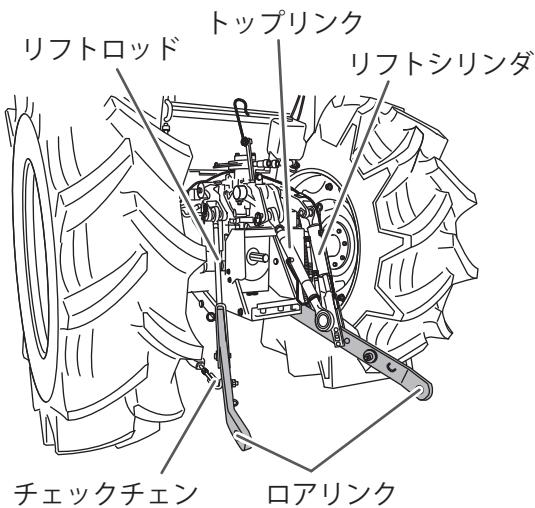


(b) TC ジョイントの場合

- TC ジョイントは TXF355T-4S に標準装備されています。
- サポートプレートとジョイントウケピンが確実に取付けてあることを確認します。
- オートヒッチアームにジョイントザがないことを確認してください。



- 2** トラクタのポジションコントロールレバーを下げる、ロアリンクをいっぱいまで下げます。



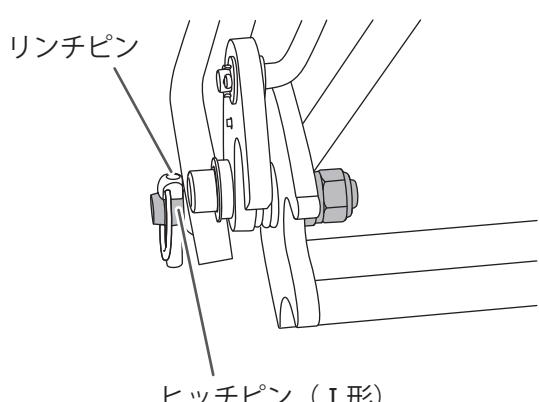
- 3点リンクの取付け位置は、「トラクタ別装着表」(→ p.99) を参照の上、トップリンク長さやロアリンク、リフトロッドの穴位置を指定の位置に取付けてください。

(取扱上の注意)

- トップリンクは目安の長さです。作業時に再度水平を確認し調整を行ってください。

- 3** オートヒッチアームの左右ヒッチピンをトラクタのロアリンクに取付けます。

- 取付け後は、リンチピンで抜け止めをしてください。
- 左右のロアリンクにオートヒッチのロアリンクピンを取付けてください。



- 4** オートヒッチアームとトップリンクを取付けます。

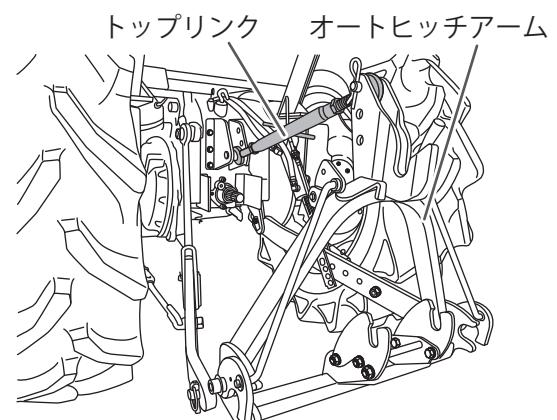
△注意



取付け後は、各ピン部の抜け止めがされているか確認してください。

必ず実行 * 作業機が脱落し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

- 取付け後は、リンチピン（または R ピン）で抜け止めをしてください。トップリンクとリンチピン（または R ピン）はトラクタ付属品を使用してください。



ジョイントの取付け

トラクタへ装着する前にジョイントを取り付けてください。

△警告



ジョイントを取付けるときは必ずトラクタのエンジンを止め、PTO 変速レバーがニュートラル (OFF) の位置になっていることを確認してください。

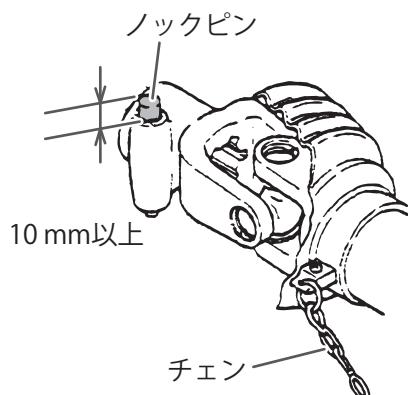
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- 1** ジョイントの広角側をトラクタの PTO 軸に取付けます。

- ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入し、軸の溝にノックピンをはめ込み、抜け止めをします。

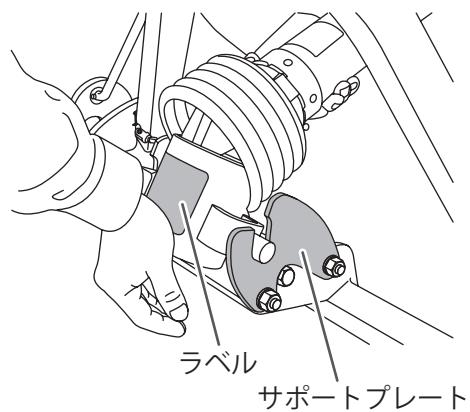
(2) トラクタ側と作業機側のノックピンの取付け状態を確認します。

- ・ノックピンが正確に軸溝にはまっているか。
- ・ピンの頭が 10 mm 以上 出ているか。



2 ジョイントのラベル面を上にし、手でジョイントを折り曲げます。

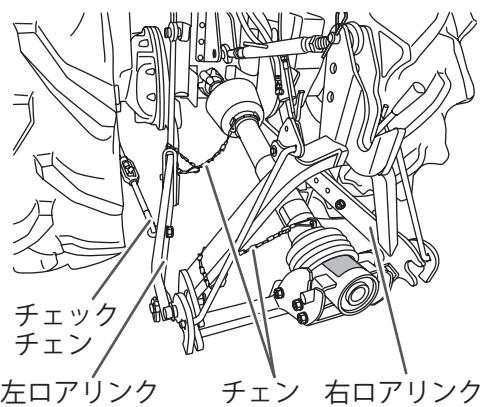
- ・軸の細い部分からサポートプレートの長穴にセットします。



3 ジョイントセーフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。

取扱上の注意

- ・このとき作業機をいっぱい下げてもチェンが緊張しないように、たるみを持たせてください。



4 チェックチェンを張って、オートヒッチアームをトラクタの中心部に合わせます。

- ・ロアリングの左右の高さも均等にしてください。

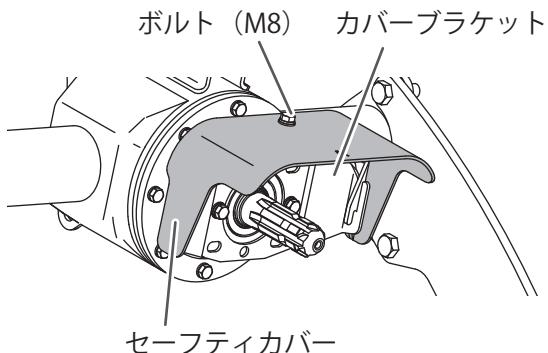
5 各部のトメピンやトップリンクピンの抜け止めが確実にされていることを確認します。

セーフティカバーの取付け

危険

セーフティカバーは必ず取付けてください。
必ず実行 * 巻込まれて、死亡事故・大ケガにつながる恐れがあります。

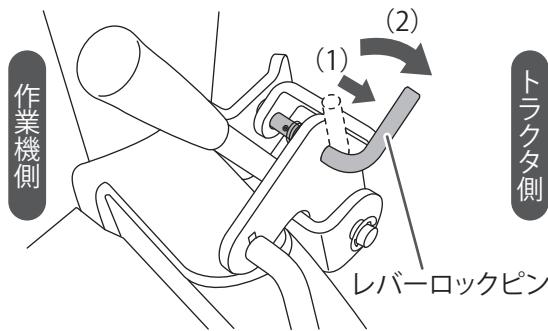
ボルト (M8) でセーフティカバーとカバーブラケットを固定してください。



トラクタへの装着

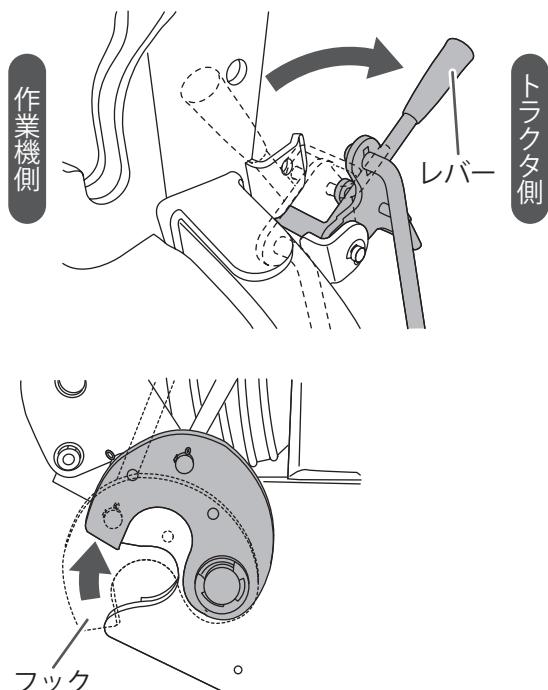
1 オートヒッチアームのロックを解除します。

- (1) レバーロックピンを引っ張ります。
- (2) レバーロックピンを解除方向へ回します。
⇒ レバーのロックが解除されます。



(3) レバーをトラクタ側へ倒します。

⇒ オートヒッチフックのロックが解除され、フックが開きます。



△ 注意



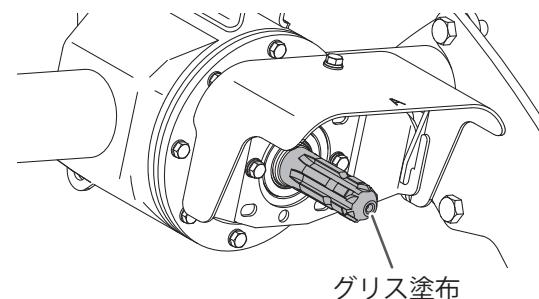
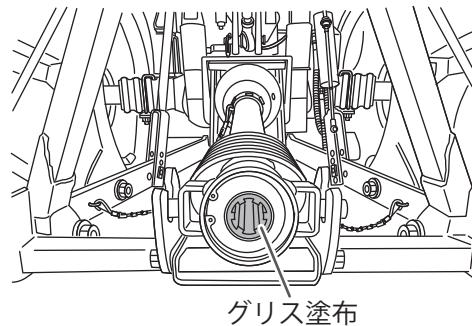
必ず実行

レバーを倒した状態で、作業機昇降装置を上下すると、レバーとトラクタが干渉する場合があります。干渉に注意して装着してください。

干渉する場合は、干渉しない位置まで下げるからレバーを操作してください。

* トラクタが破損し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

2 作業機の入力軸とジョイントの結合部に十分にグリスを塗布します。



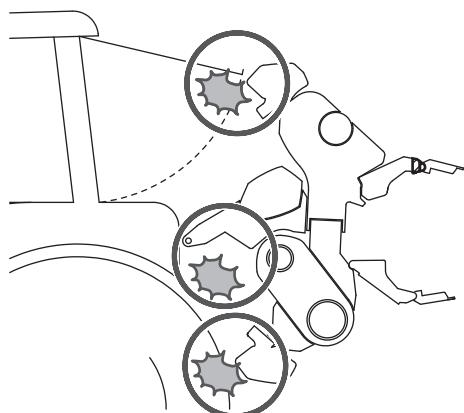
取扱上の注意

- 入力軸の保護カバーを必ず取外してください。外さないで使用すると、破損につながる恐れがあります。

3 作業機をトラクタに装着します。

取扱上の注意

- 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。
トラクタの背面ガラスを割らないように注意してください。
- トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。
また、作業機が勢いよく上がるため、10 cm 以上の余裕を持って、上げ規制をしてください。
- ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
- トップリンクやロアリンクの取付け位置、リフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも、干渉の有無を確認してください。
- 水平制御装置付トラクタの場合は、作業機を持ち上げた際、手動で左右に傾けてトラクタと作業機が干渉しないことを確認してください。(操作方法はトラクタの『取扱説明書』をご覧ください。)
- 移動時に急ブレーキをかけた場合、反動で作業機が上がり、トラクタに接触することがあるため注意してください。
- キャビン付きトラクタのリヤーガラスを開けたまま作業機を上げたり、開閉操作を行ったりしないでください。
- 作業機を急激に落下させないでください。破損の原因になります。
- サイバーハンドがトラクタと接触する場合は除外してください。

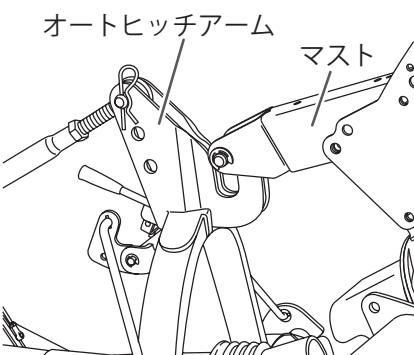


(1) トラクタの PTO の変速をニュートラルにします。

(2) オートヒッチアームを下げます。

(3) トラクタをゆっくりバックさせ、作業機に近づけます。

マストのピンの下側にオートヒッチアームのフックを合わせます。



取扱上の注意

- トラクタと作業機がまっすぐになるようにしてください。

(4) ポジションコントロールレバーを「上げる」にし、フックに合わせて作業機をゆっくりとリフトアップします。

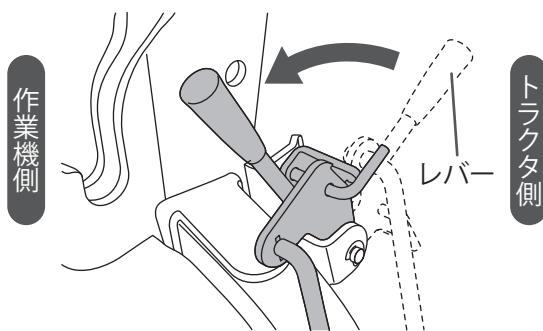
⇒ ジョイントのスプライン部は、自動的に接続されます。

取扱上の注意

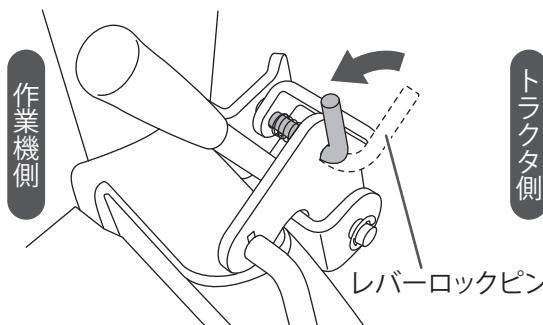
- ジョイントが噛み合わなかったなどの場合、ポジションコントロールレバーを下げ、一度トラクタを前進させてからやり直してください。
また、トップリンクの長さが適切か確認してください。

4 オートヒッチアームをロックします。

- (1) 作業機のガイドカラーとオートヒッチアームが、しっかりと入っていることを確認します。
- (2) 作業機の入力軸とジョイントのスプラインが、しっかりと入っていることを確認します。
- (3) 確認できたらレバーを上に起こします。
⇒ 作業機とオートヒッチアームがロックされます。



- (4) レバーロックピンをロック方向に回します。



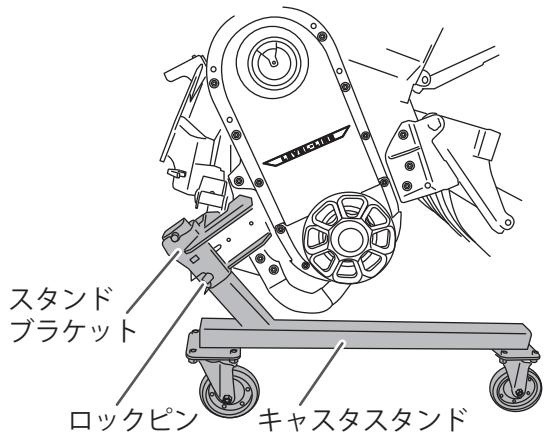
⇒ レバーロックピンとレバーがロックされます。

取扱上の注意

- ・ レバーロックピンは作業中の不意な解除を防止するものです。
作業するときは、必ずロックしてください。

5 キャスタスタンドを取外します。

- (1) 作業機両側のスタンドブラケットのロックピンを取り外し、キャスタスタンドを取外します。



- (2) 取外した後は、作業機をゆっくり上下させ、干渉などの確認をします。

装着後のトラクタとの調整

チェックチェンの調整

左右の横振れを確認し、必要に応じてチェックチェンを調整してください。

- 1 作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクタの PTO 軸を後方より見て直線上に合わせます。

- 2 左右の横振れが 10 mm 以内になっていることを確認します。

- 10 mm を超える場合は、10 mm 以内になるよう左右均等にチェックチェンを張ります。

リフトロッドの調整

左右の水平を確認し、必要に応じてリフトロッドを調整してください。

- 1 作業機を持ち上げ、後方より見て左右が水平になるようにします。
- 2 トラクタの油圧水平スイッチを操作し、リフトロッドを調整します。
 - ・油圧水平スイッチがない場合は、リフトロッドを回して調整します。

トップリンクの調整

トップリンクの長さを調整して、適正な作業姿勢になるようにします。

適正な作業姿勢とは以下の状態です。

- ・作業時の LEVEL-LINE (チェンカバーに貼ってあるラベル) が水平方向 5°以内
- ・作業機側のジョイント角度差が 14°以内

トップリンクの長さは、「トラクタ別装着表」
(→ p.99) を参照して調整してください。

トップリンクの値は、あくまで目安です。

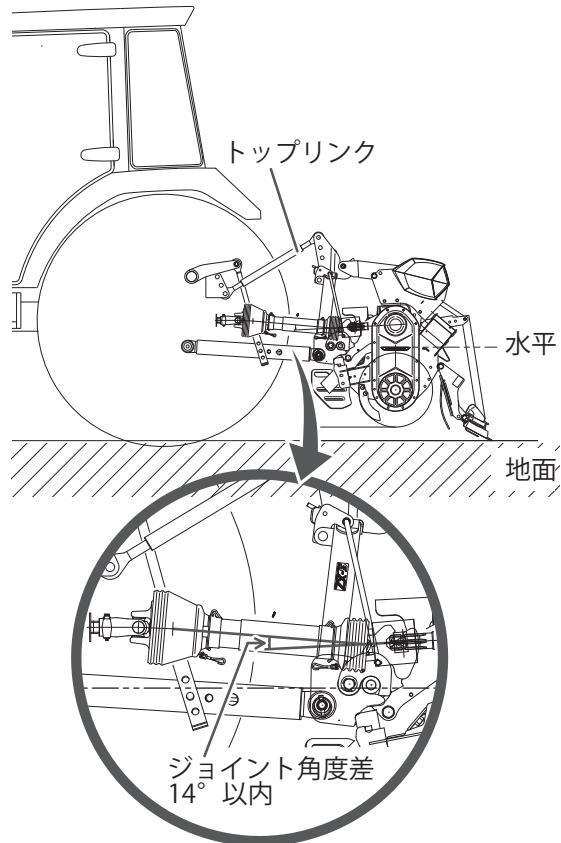
⚠ 警告



トップリンクの調整は、作業機を接地させてから行ってください。

必ず実行 * トップリンクが抜けて、作業機が落下し、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

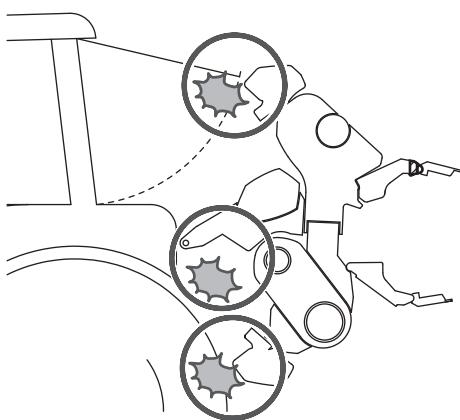
前後の傾きを確認し、必要に応じてトップリンクを調整してください。



取扱上の注意

- ・最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。
特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
- ・トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。
また、作業機が勢いよく上がるため、10 cm 以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
- ・ポジションコントロールレバーで作業機を上下させてカバーの隙間が適正か確認してください。(「ジョイントの確認」(→ p.25))
- ・トップリンクやロアリンクの取付け位置、およびリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも、干渉の有無を確認してください。
- ・左右の水平調節についても注意してください。
- ・移動時に急ブレーキをかけた場合、反動で作業機が上がりトラクタに接触があるので注意してください。

- キャビン付きトラクタのリヤーガラスを開けたまま作業機を上げたり、開閉操作を行ったりしないでください。
- 作業機を急激に落下させないでください。破損の原因になります。
- サイバーハンドがトラクタと接触する場合は取外してください。
- 推奨外の条件で使用しないでください。作業機が持つ本来の性能を発揮できないだけでなく、作業機が破損する恐れがあります。使用条件を守り、正しい使いかたをしてください。



お知らせ

- 作業機を最上げにした状態での異音発生については、上げ規制またはPTO停止をしてください。作業高さ付近での異音発生については、作業時のLEVEL-LINE（チェンカバーに貼ってあるラベル）の角度が水平方向5°以内の範囲で、異音が発生しないようトップリンクを調整してください。

ジョイントの確認

広角ジョイントの場合、ジョイント伸縮部と作業機の入力軸とが直線に近いほど異音が少くなります。

取扱上の注意

・トラクタによっては、作業機を最上位置に上げた状態で回転させると、異音が発生することがあります。

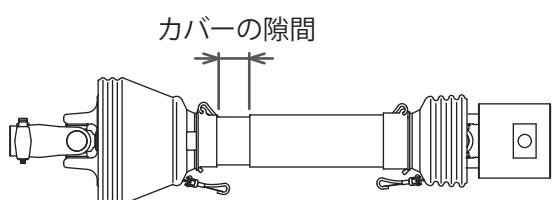
ジョイントに負荷がかかり、損傷の原因になる恐れがあります。

この場合、PTOを切るか、回転しても振動や音が出ない位置に作業機の最上位置を規制してください。

1 ゆっくり作業機を上げます。

2 ジョイントが一番縮んだ状態で、軸を突かないことを確認します。

3 作業機を上下してカバーの隙間が下表の範囲であることを確認します。



| ジョイントの種類 | ジョイントの 切断寸法 (mm) | カバーの 隙間 (mm) |
|----------|------------------------|--------------------------------------|
| TC84M | - | 44～347 |
| TC74M | - | 44～247 |
| TC71M | - | 44～211 |
| KHC79M | - 30 50 70 | 34～208 34～178 34～158 34～138 |

フロントウェイトの装着

トラクタ型式や装着方式によりフロントウェイトが必要になります。

⚠ 危険

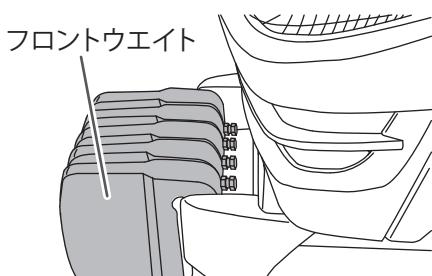


作業機とトラクタとの重量バランスを確認してください。

- 必ず実行
- ・トラクタの前輪に最低限 20 % 以上のウェイトがかかるように、フロントウェイトを取り付けてください。
 - ・作業機に泥が付着して重くなる場合があるため、泥を取除いてください。
 - * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。作業機を装着すると、重量バランスが変わります。

「フロントウェイト装着表」(→ p.108) を参考にして装着してください。

記載されていないトラクタについては、お買い求めの販売店に相談してください。



トラクタからの取外し

⚠ 警告



必ず実行

作業機を取り外す場合は、平坦で地盤のしっかりした場所で、取外しのためのスペースが十分にとれる場所で行ってください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

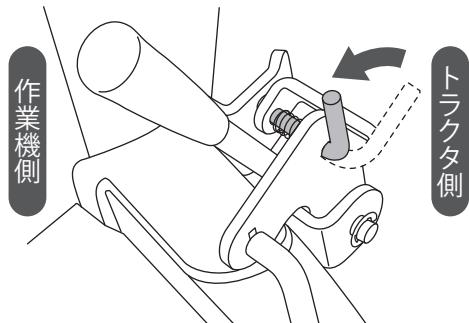
⚠ 注意



必ず実行

作業機を取り外し、オートヒッチアームを作業機に取付けて格納する場合は、レバーロックピンを図のようにオートヒッチアームのロックプレートの穴に必ず挿入してください。

* オートヒッチアームが落下し、事故やケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

レバーを倒した状態で、作業機昇降装置を上下すると、レバーとトラクタが干渉する場合があります。干渉に注意して装着してください。

干渉する場合は、干渉しない位置まで下げるからレバーを操作してください。

* トラクタが破損し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

- 1 電源ハーネスをカプラ部で切り離します。

⚠ 警告



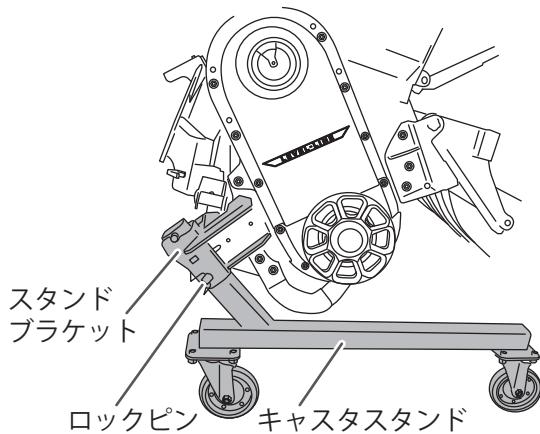
必ず実行

作業機をトラクタから取り外す前に、必ず電源ハーネスを切り離してください。

* 電源ハーネスが損傷し、ショートして火災につながる恐れがあります。

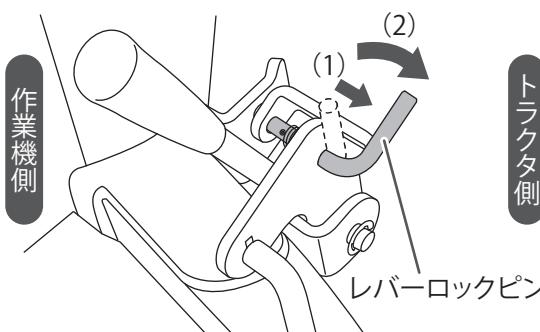
2 キャスタスタンドを取付けます。

- (1) 作業機を持ち上げます。
- (2) キャスタスタンドを作業機両側のスタンドブラケットに取付け、ロックピンで固定します。

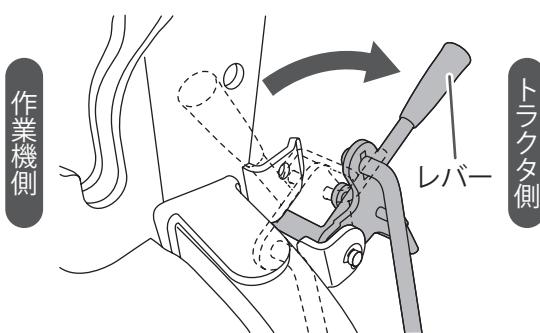


3 オートヒッチアームのロックを解除します。

- (1) レバーロックpinを引っ張ります。
- (2) レバーロックpinを解除方向へ回します。
⇒ レバーのロックが解除されます。



- (3) レバーをトラクタ側へ倒します。
⇒ オートヒッチフックのロックが解除され、フックが開きます。



4 作業機を下げます。

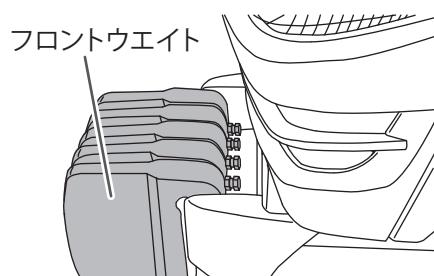
- (1) トラクタの PTO の変速をニュートラルにします。
- (2) ポジションコントロールレバーを「下げる」にします。
- (3) 作業機を下げ、トラクタをゆっくり前進させます。
 - 外れない場合は、場所が平坦でないかトラクタがまっすぐ前進していないなどの原因があります。再度動作をやり直してください。
⇒ 作業機が外れます。

取扱上の注意

- 作業機を急激に落下させないでください。破損の原因になります。

フロントウェイトの取外し

作業前に取付けたフロントウェイトを取り外してください。



トラクタへの装着 (JIS 標準オートヒッチ L ヒッチ)

JIS 標準オートヒッチの L ヒッチ (I 形) について記載しています。

注意事項

△警告

- !** セーフティカバーを取付けた状態で使用してください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
- !** 平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
- !** キャスタスタンドを着脱する際は、トラクタのエンジンを停止し、作業機を持ち上げ、油圧ロックし、落下防止をしてから行ってください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
- !** 作業機の着脱は、基本的に 1 人で作業を行ってください。
必ず実行 * 作業機が急に動き、事故・大ケガにつながる恐れがあります。
- !** トラクタを移動して作業機を装着する場合は、トラクタと作業機の間に人が入らないように注意してください。
注意 * 事故・ケガにつながる恐れがあります。

△注意

- !** トラクタメーカーの純正ウエイトを取付けてください。
必ず実行 トラクタ型式や着脱方式によりフロントウエイトが必要になります。
* 事故・ケガにつながる恐れがあります。
- !** キャスタスタンドで作業機を移動する際は、平坦な広い場所で、周囲に人がいないことを確認し、足元に注意して行ってください。
必ず実行 * ケガにつながる恐れがあります。
- !** キャスタやキャスタスタンドが損傷した場合は、直ちに修理・交換を行ってください。
必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります。
- !** キャスターで無理に段差を越えないでください。
必ず実行 * 作業機が損傷し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

△注意

- !** キャスタスタンドは、圃場内での使用や圃場内への放置はしないでください。
禁止 泥の浸入により回動しにくくなることがあります。泥が浸入して回動しにくくなつた場合は、よく洗浄してグリスを塗布してください。
* 事故・ケガにつながる恐れがあります。
- !** 2 人以上で着脱を行う場合は、お互いに合図を徹底してください。
必ず実行 * 作業機が急に動き、事故・ケガにつながる恐れがあります。
- !** 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります。

装着前の準備

トラクタの準備

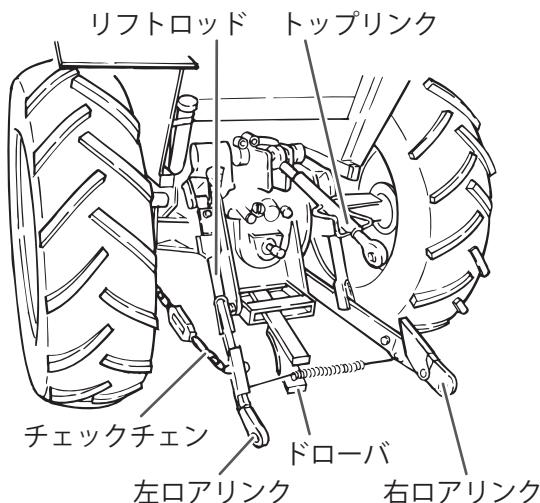
本機の装着方法は、JIS 標準リンク式のヒッチです。ドローバがジョイントに干渉する場合は、ドローバの位置を変えるか、取外してください。

取付け位置は、「トラクタ別装着表」(→ p.99) を参照の上、トップリンク長さやリフトロッド位置を確認し、取付けてください。

取扱上の注意

- この作業機は、中型トラクタ (SL、YT-3、NT (A)、GA など) 向けです。大型トラクタでは使用しないでください。

作業機が、破損する恐れがあります。



オートヒッチアームの取付け

危険



必ず実行

必ずトラクタの駐車ブレーキをかけてエンジンを停止し、PTO 軸への動力が切れていることを確認してから作業してください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

△ 注意



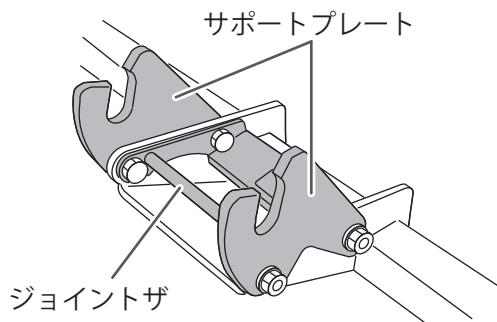
オートヒッチアームは、JIS 標準に準拠したものを使用してください。

必ず実行 類似規格のものは、使用しないでください。

* 故障し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

1 オートヒッチアームの状態を確認します。

- サポートプレートとジョイントウケピンが確実に取付けてあることを確認してください。オートヒッチアームにジョイントザがないことを確認してください。



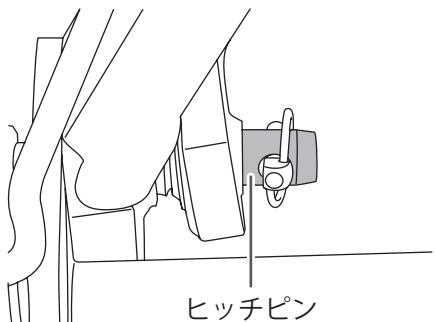
2 トラクタのポジションコントロールレバーを下げ、ロアリンクをいっぱいまで下げる。

3 左右のロアリンクにオートヒッチアームのロアリンクピンを取付けます。

お知らせ

- トップリンクの長さは、装着表の長さに合わせてください。
- ロアリンクピンは、内向きに組替えてください。
- 取付け後は、リンチピンで抜け止めをしてください。

(a) ロアリンクの穴が I 形の場合



(b) トラクタのロアリンクの穴が II 形の場合



取扱上の注意

- ヒッチピンに II 形用カラーを挿入してください。

4 オートヒッチアームとトップリンクを取り付けます。

△ 注意



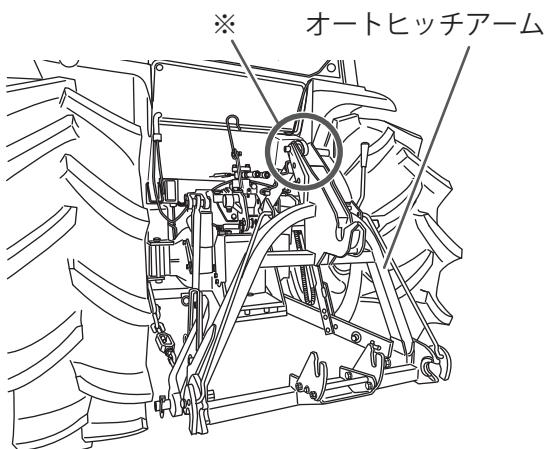
取付け後は、各ピン部の抜け止めがされているか確認してください。

必ず実行 * 作業機が脱落し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

お知らせ

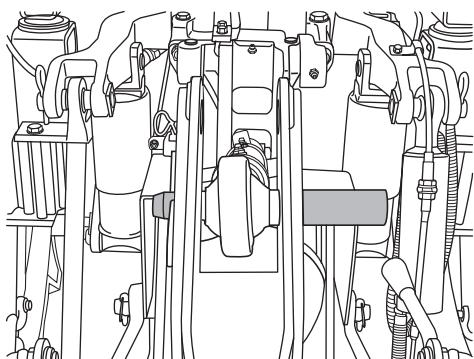
- 取付け後は、リンチピン（または R ピン）で抜け止めをしてください。トップリンクとリンチピン（または R ピン）はトラクタ付属品を使用してください。

- 付属のトップリンクピンは、カテゴリー I、II 形兼用です。



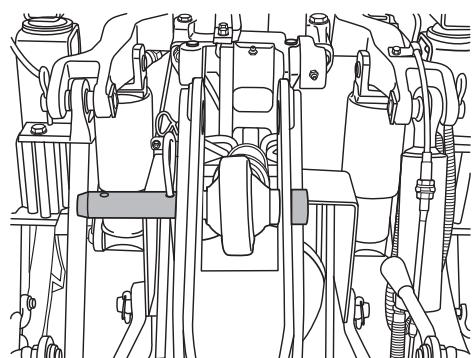
< I 形の場合 >

※拡大図



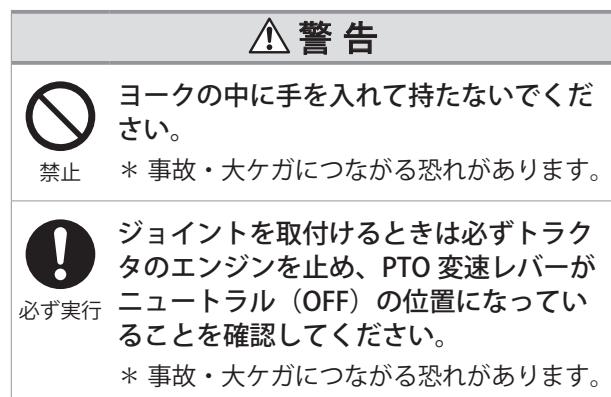
< II 形の場合 >

※拡大図

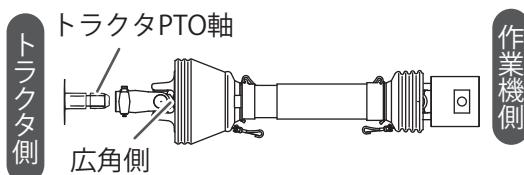


ジョイントの取付け (4 セットの場合)

4 セットの場合、作業機をトラクタに装着する前にジョイントを取付けてください。



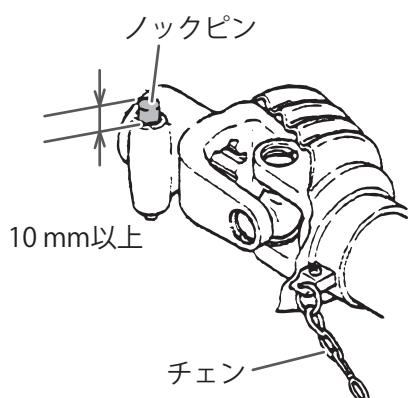
1 ジョイントの広角側をトラクタの PTO 軸に取付けます。



(1) ジョイントのノックピンを押しながら軸に挿入し、軸の溝にノックピンをはめ込み、抜け止めをします。

(2) トラクタ側と作業機側のノックピンの取付け状態を確認します。

- ・ノックピンが正確に軸の溝にはまっているか。
- ・ノックピンの頭が 10 mm 以上 出ているか。

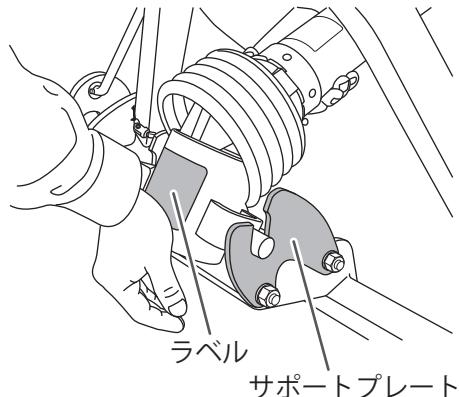


取扱上の注意

- ・ジョイントは叩いて強引に入れないとください。

2 ジョイントのラベル面を上にし、手でジョイントを折り曲げます。

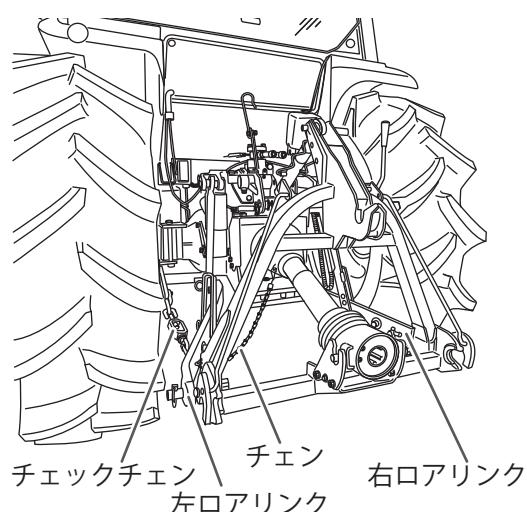
- ・軸の細い部分からサポートプレートの長穴にセットします。



3 ジョイントセーフティカバーのチェンを固定し、回り止めをします。

取扱上の注意

- ・このとき作業機をいっぱい下げてもチェンが緊張しないように、たるみを持たせてください。



4 チェックチェンを張って、オートヒッチアームをトラクタの中心部に合わせます。

- ・ロアリングの左右の高さも均等にしてください。

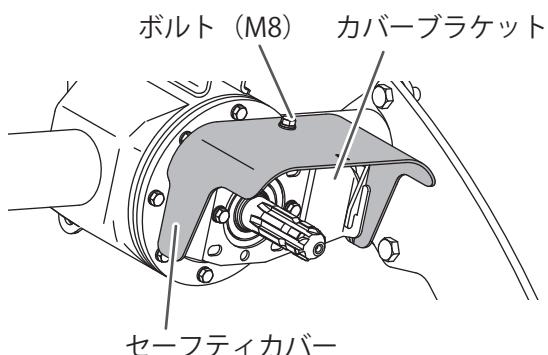
5 各部のトメピンやトップリンクピンの抜け止めが確実にされていることを確認します。

セーフティカバーの取付け

△危険

! セーフティカバーは必ず取付けてください。
必ず実行 * 巻込まれて、死亡事故・大ケガにつながる恐れがあります。

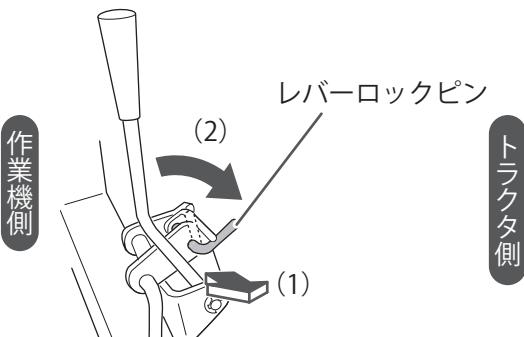
ボルト(M8)で、セーフティカバーとカバーブラケットを固定してください。



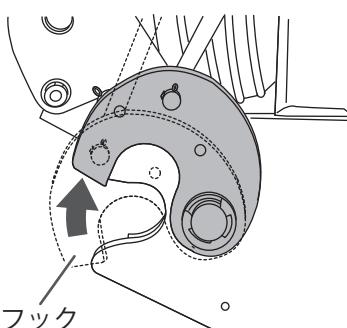
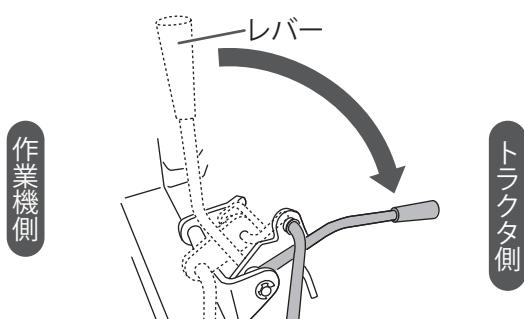
トラクタへの装着

1 オートヒッチアームのロックを解除します。

- (1) レバーロックピンを引っ張ります。
- (2) レバーロックピンを解除方向へ回します。
⇒ レバーのロックが解除されます。



- (3) レバーをトラクタ側へ倒します。
⇒ オートヒッチフックのロックが解除され、フックが開きます。

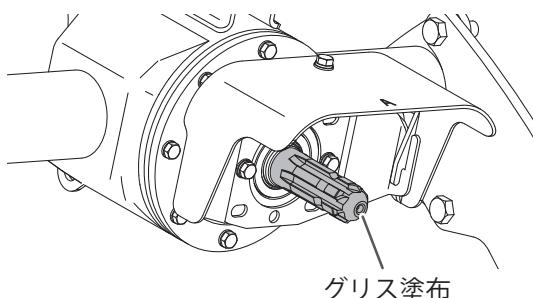
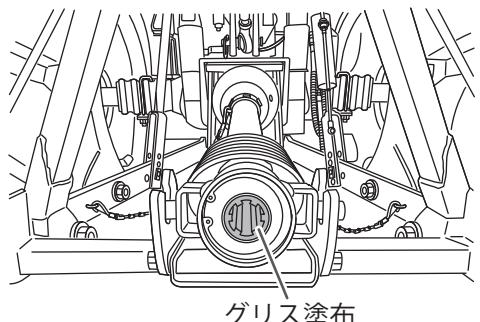


⚠ 注意



必ず実行
レバーを倒した状態で、作業機昇降装置を上下すると、レバーとトラクタが干渉する場合があります。干渉に注意して装着してください。
干渉する場合は、干渉しない位置まで下げるからレバーを操作してください。
* トラクタが破損し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

2 4 セットの場合は、作業機の入力軸とジョイントの結合部に十分にグリスを塗布します。



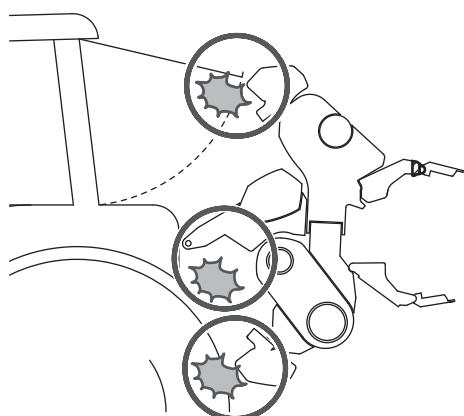
取扱上の注意

- 入力軸の保護カバーを必ず取外してください。外さないで使用すると、破損につながる恐れがあります。

3 作業機をトラクタに装着します。

取扱上の注意

- 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。
特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
- 作業機のサイバーハンド（タイヤ跡消し）がロアリンク・タイヤに当らないように注意しながら、行ってください。
- トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。
また、作業機が勢いよく上がるため、10 cm以上の余裕を持って、上げ規制をしてください。
- ポジションコントロールレバーを徐々に上げて、ジョイントが一番縮んだ状態でもジョイントが突かないことを確認してください。
- トップリンクやロアリンクの取付け位置、リフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも、干渉の有無を確認してください。
- 左右の水平調節についても注意してください。
- キャビン付きトラクタのリヤガラスを開けたまま作業機を上げたり、開閉操作を行わないでください。
- 作業機を急激に落下させないでください。破損の原因になります。
- サイバーハンドがトラクタと接触する場合は除外してください。



- (1) トラクタのPTOの変速をニュートラルにします。
- (2) オートヒッチアームを下げます。
- (3) トラクタをゆっくりバックさせ、作業機に近づけます。
マストのピン下側にオートヒッチアームのフックを合わせます。

取扱上の注意

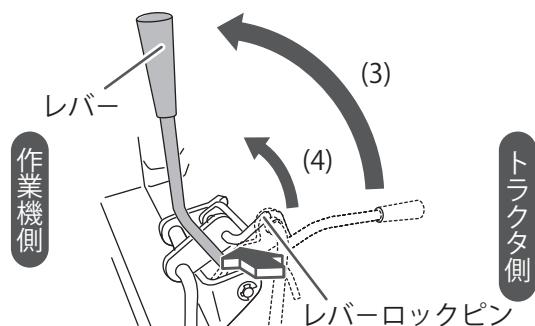
- トラクタと作業機がまっすぐになるようにしてください。
- (4) ポジションコントロールレバーを「上げる」にし、フックに合わせて作業機をゆっくりとリフトアップします。
⇒ジョイントのスプライン部は、自動的に接続されます。

取扱上の注意

- ジョイントが噛み合わなかつたなどの場合、ポジションコントロールレバーを下げ、一度トラクタを前進させてからやり直してください。
また、トップリンクの長さが適切か確認してください。

④ オートヒッチアームをロックします。

- (1) 作業機のガイドカラーとオートヒッチアームが、しっかりと入っていることを確認します。
- (2) 作業機の入力軸とジョイントのスプラインが、しっかりと入っていることを確認します。
- (3) 確認できたらレバーを上に起こします。
⇒作業機とオートヒッチアームがロックされます。



取扱上の注意

- このとき作業機をいっぱい下げてもチェンが緊張しないように、たるみを持たせてください。
- (4) レバーロックピンをロック方向に回します。
⇒レバーロックピンとレバーがロックされます。

⚠ 注意



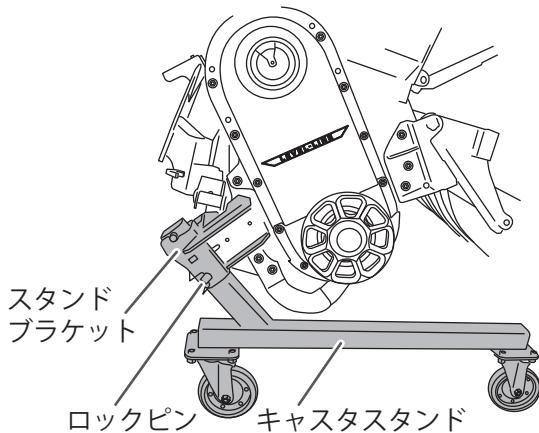
必ず実行

作業が終わって作業機を取り外すまでは、レバーには絶対に手を触れないでください。必ず落下防止のレバーロックピンを差込んでください。

* ロックが解除し作業機が外れて、事故・ケガにつながる恐れがあります。

5 キャスタースタンドを取外します。

- (1) 作業機両側のスタンドブラケットのロックピンを取り外し、キャスタースタンドを取外します。



- (2) 取外した後は、作業機をゆっくり上下させ、干渉などの確認をします。

装着後のトラクタとの調整

チェックチェンの調整

左右の横振れを確認し、必要に応じてチェックチェンを調整してください。

- 1** 作業機を持ち上げた状態で、作業機の入力軸とトラクタの PTO 軸を後方より見て直線上に合わせます。

- 2** 左右の横振れが 10 mm 以内になっていることを確認します。
• 10 mm を超える場合は、10 mm 以内になるよう左右均等にチェックチェンを張ります。

リフトロッドの調整

左右の水平を確認し、必要に応じてリフトロッドを調整してください。

- 1** 作業機を持ち上げ、後方より見て左右が水平になるようにします。

- 2** トラクタの油圧水平スイッチを操作し、リフトロッドを調整します。

- 油圧水平スイッチがない場合は、リフトロッドを回して調整します。

トップリンクの調整

トップリンクの長さを調整して、適正な作業姿勢になるようにします。

適正な作業姿勢とは以下の状態です。

- 作業時の LEVEL-LINE (チェンカバーに貼ってあるラベル) が水平方向 5° 以内
- 作業機側のジョイント角度差が 14° 以内

トップリンクの長さは、「トラクタ別装着表」(→ p.99) を参照して調整してください。

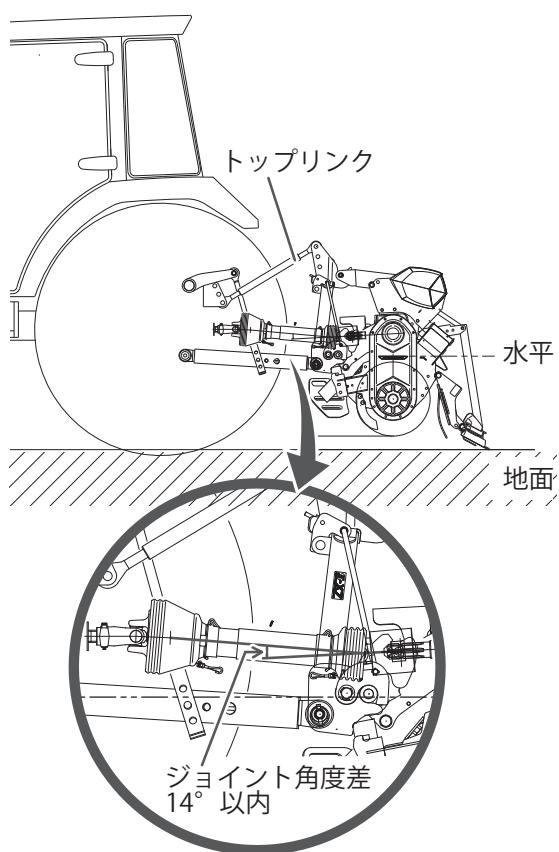
トップリンクの値は、あくまで目安です。

△警告



- トップリンクの調整は、作業機を接地させてから行ってください。
必ず実行 * トップリンクが抜けて、作業機が落下し、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

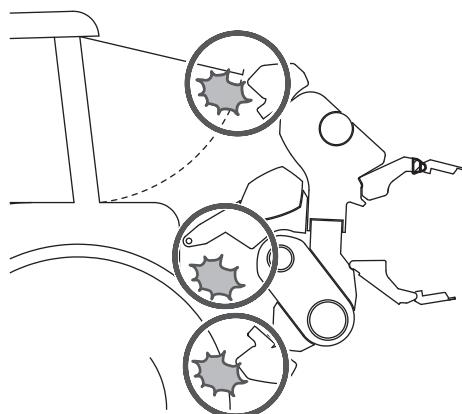
前後の傾きを確認し、必要に応じてトップリンクを調整してください。



取扱上の注意

- 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。
特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
- トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。
また、作業機が勢いよく上がるため、10 cm 以上の余裕を持って上げ規制をしてください。
- ポジションコントロールレバーで作業機を上下させてカバーの隙間が適正か確認してください。（「ジョイントの確認」（→ p.37））
- トップリンクやロアリンクの取付け位置、およびリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも、干渉の有無を確認してください。
- 左右の水平調節についても注意してください。
- 移動時に急ブレーキをかけた場合、反動で作業機が上がりトラクタに接触することがあるので注意してください。

- キャビン付きトラクタのリヤガラスを開けたまま作業機を上げたり、開閉操作を行ったりしないでください。
- 作業機を急激に落下させないでください。破損の原因になります。
- サイバーハンドがトラクタと接触する場合は除外してください。
- 推奨外の条件で使用しないでください。作業機が持つ本来の性能を発揮できないだけでなく、作業機が破損する恐れがあります。使用条件を守り、正しい使いかたをしてください。



お知らせ

- 作業機を最上げにした状態での異音発生については、上げ規制または PTO 停止をしてください。作業高さ付近での異音発生については、作業時の LEVEL-LINE（チェンカバーに貼ってあるラベル）の角度が水平方向 5° 以内の範囲で、異音が発生しないようトップリンクを調整してください。

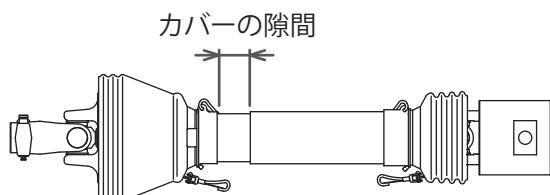
ジョイントの確認

広角ジョイントの場合、ジョイント伸縮部と作業機の入力軸とが直線に近いほど異音が少なくなります。

取扱上の注意

- トラクタによっては、作業機を最上位置に上げた状態で回転させると、異音が発生することがあります。
ジョイントに負荷がかかり、損傷の原因になる恐れがあります。
この場合、PTO を切るか、回転しても振動や音が出ない位置に作業機の最上位置を規制してください。

- 1 ゆっくり作業機を上げます。
- 2 ジョイントが一番縮んだ状態で、軸を突かないことを確認します。
- 3 作業機を上下してカバーの隙間が下表の範囲であることを確認します。



| ジョイントの種類 | ジョイントの切断寸法 (mm) | カバーの隙間 (mm) |
|----------|-----------------|-------------|
| KHC79M | - | 34 ~ 208 |

フロントウェイトの装着

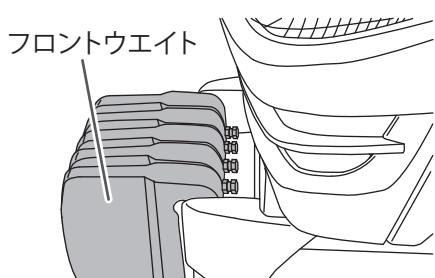
トラクタ型式や装着方式によりフロントウェイトが必要になります。

危険

- !** 作業機とトラクタとの重量バランスを確認してください。
- 必ず実行
- ・ トラクタの前輪に最低限 20 % 以上のウェイトがかかるように、フロントウェイトを取り付けてください。
 - ・ 作業機に泥が付着して重くなる場合があるため、泥を取除いてください。
- * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
作業機を装着すると、重量バランスが変わります。

「フロントウェイト装着表」(→ p.108) を参考にして装着してください。

記載されていないトラクタについては、お買い求めの販売店に相談してください。



トラクタからの取外し

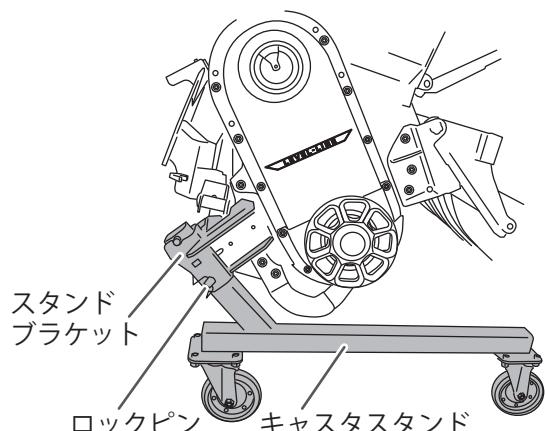
警告

! 作業機を取外す場合は、平坦で地盤のしっかりした場所で、取外しのためのスペースが十分にとれる場所で行ってください。
* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- 1 電源ケーブルをカプラ部で切り離します。

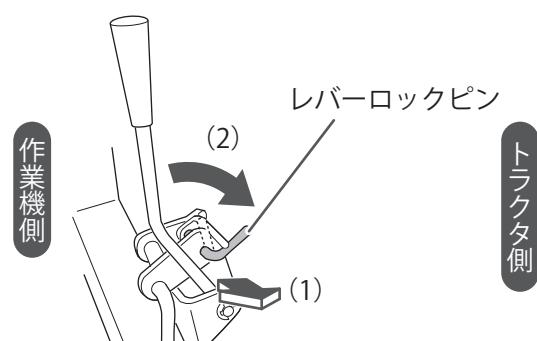
- 2 キャスタースタンドを取付けます。

- (1) 作業機を持ち上げます。
- (2) キャスタースタンドを作業機両側のスタンドブラケットに取付け、ロックピンで固定します。



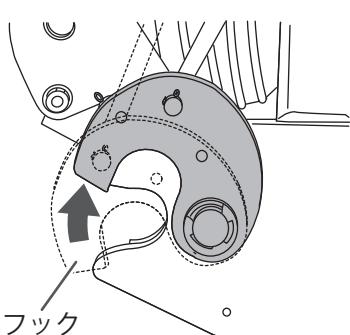
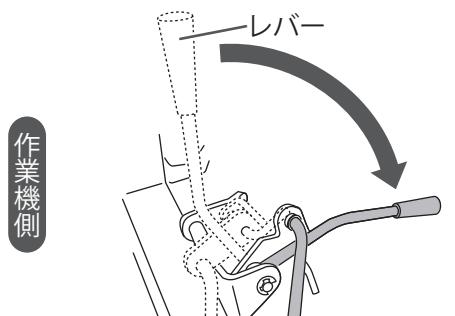
- 3 オートヒッチアームのロックを解除します。

- (1) レバーロックピンを引っ張ります。
- (2) レバーロックピンを解除方向へ回します。
⇒ レバーのロックが解除されます。



(3) レバーをトラクタ側へ倒します。

⇒オートヒッチフックのロックが解除され、フックが開きます。



⚠ 注意

! レバーを倒した状態で、作業機昇降装置を上下すると、レバーとトラクタが干渉する場合があります。干渉に注意して装着してください。
必ず実行

干渉する場合は、干渉しない位置まで下げるからレバーを操作してください。

* トラクタが破損し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

4 作業機を下げます。

(1) トラクタの PTO の変速をニュートラルにします。

(2) ポジションコントロールレバーを「下げる」にします。

(3) 作業機を下げる、トラクタをゆっくり前進させます。

- 外れない場合は、場所が平坦でないかトラクタがまっすぐ前進していないなどの原因があります。再度動作をやり直してください。

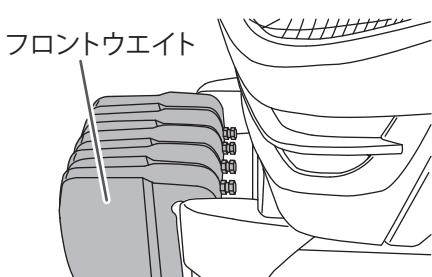
⇒作業機が外れます。

取扱上の注意

- 作業機を急激に落下させないでください。破損の原因になります。

フロントウェイトの取外し

作業前に取付けたフロントウェイトを取り外してください。



トラクタへの装着(JIS 特殊 3P ヒッチ他)

トラクタ純正オートヒッチについて記載しています。

いずれの型式も、トラクタに装着されている純正ロータリと同様の手順で、作業機の取付けと取外しができます。また、純正ロータリのオートヒッチ、トップリンク、ジョイントがそのまま使用できます。

◆メーカーによりオートヒッチの呼び名が異なりますので注意してください。

適用型式

以下の型式が適用となります。

TXF-TA-K、TXF-TA-Y、TXF-TA-I、TXF-TA-M、
TXF-SA、TXF-TA、TXF-UA、TXF-MUA、
TXF-SCA

注意事項

⚠ 警告

- !** セーフティカバーを取付けた状態で使用してください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
- !** 平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
- !** キャスタスタンドを着脱する際は、トラクタのエンジンを停止し、作業機を持ち上げ、油圧ロックし、落下防止をしてから行ってください。
必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。
- !** 作業機の着脱は、基本的に1人で作業を行ってください。
必ず実行 * 作業機が急に動き、事故・大ケガにつながる恐れがあります。
- !** 注意 トラクタを移動して作業機を装着する場合は、トラクタと作業機の間に人が入らないように注意してください。
* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

- !** 禁止 キャスタスタンドは、圃場内での使用や圃場内への放置はしないでください。
必ず実行 * 泥の浸入により回動しにくくなることがあります。泥が浸入して回動しにくくなつた場合は、よく洗浄してグリスを塗布してください。
* 事故・ケガにつながる恐れがあります。
- !** 2人以上で着脱を行う場合は、お互いに合図を徹底してください。
必ず実行 * 作業機が急に動き、事故・ケガにつながる恐れがあります。
- !** 夜間の場合は適切な照明を用いてください。
必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります。
- !** 必ず実行 トランクタメーカーの純正ウェイトを取付けてください。
必ず実行 トランクタ型式や着脱方式によりフロントウェイトが必要になります。
* 事故・ケガにつながる恐れがあります。
- !** 必ず実行 キャスタスタンドで作業機を移動する際は、平坦な広い場所で、周囲に人がいないことを確認し、足元に注意して行ってください。
* ケガにつながる恐れがあります。
- !** 必ず実行 キャスターやキャスタスタンドが損傷した場合は、直ちに修理・交換を行ってください。
* 事故・ケガにつながる恐れがあります。
- !** 必ず実行 キャスターで無理に段差を越えないでください。
必ず実行 * 作業機が損傷し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

トラクタへの装着

トラクタの準備

ロアリンク、リフトロッドは、純正ロータリと同じ位置で、またオートヒッチはロアリンクに取付けた状態でこの作業機は装着できます。

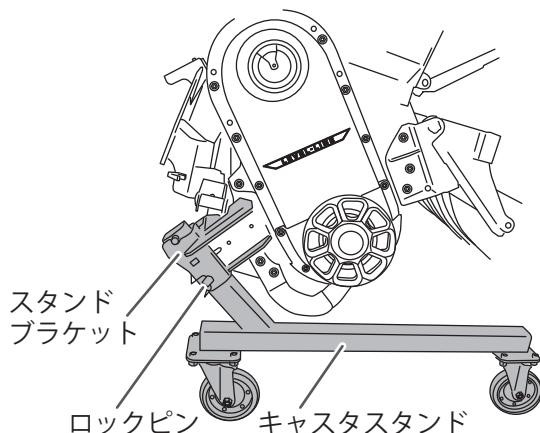
場合によって、オートヒッチ付属の延長シャフトが必要となることがあります。

トラクタへの装着

1 キャスタスタンドを取付けます。

(1) 作業機を持ち上げます。

(2) キャスタスタンドを作業機両側のスタンドブラケットに取付け、ロックピンで固定します。



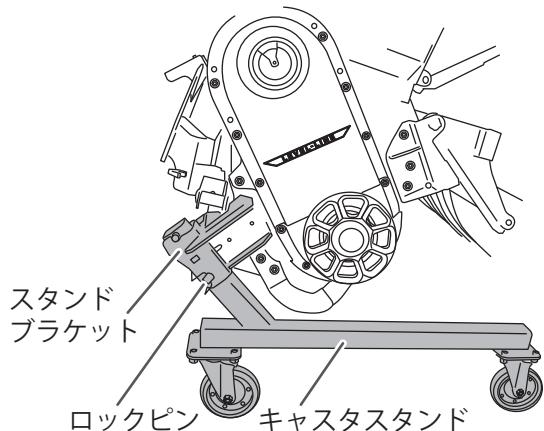
2 作業機をトラクタに取付けます。

取扱上の注意

- ・トラクタにより、装着手順が異なります。
- ・お手持ちのトラクタ、および純正ロータリの『取扱説明書』に従って装着してください。

3 スタンドを取外します。

(1) スタンドブラケットのロックピンを取り外し、スタンドを取外します。



(2) 取外した後は、作業機をゆっくり上下させ、干涉などの確認をします。

装着後のトラクタとの調整

トップリンクの調整

トップリンクの長さを調整して、適正な作業姿勢になるようにします。

例)

| | |
|-------------|---------------|
| クボタ W3P ヒッチ | TXF-TA-K, -UA |
| ヤンマークイックヒッチ | TXF-TA-Y |
| イセキ PD ヒッチ | TXF-TA-I |
| ミツビシデュアルヒッチ | TXF-TA-M |
| ミツビシスーパーヒッチ | TXF-TA-M |

適正な作業姿勢とは以下の状態です。

- ・作業時の LEVEL-LINE (チェンカバーに貼ってあるラベル) が水平方向 5°以内
- ・作業機側のジョイント角度差が 14°以内

トップリンクの長さは、「クボタ W3P 用トラクタ装着表」(→ p.106) を参照して調整してください。トップリンクの値は、あくまで目安です。

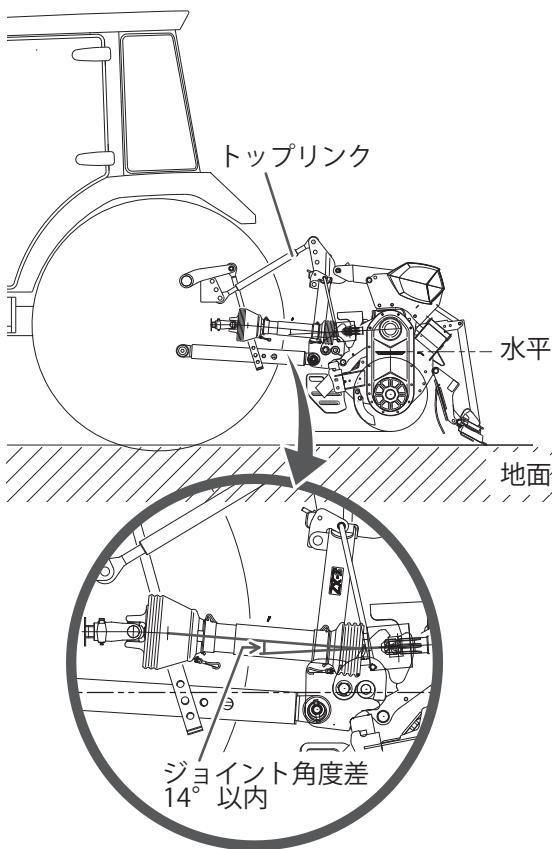
⚠ 警告



トップリンクの調整は、作業機を接地させてから行ってください。

必ず実行 * トップリンクが抜けて、作業機が落下し、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

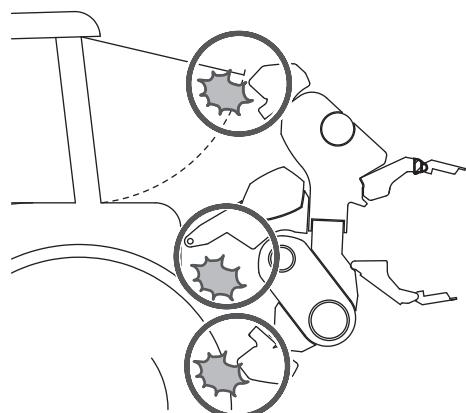
実際の作業時に LEVEL-LINE (チェンカバーに貼つてあるラベル) が水平 (5°以内) になるように微調整します。



取扱上の注意

- 最初の装着時には、作業機をゆっくり上げながら、トラクタと作業機が干渉しないか確認してください。
特に、キャビン付きトラクタの場合には、背面のガラスを割らないように注意してください。
- トラクタによっては、スイッチひとつで自動で最上部まで上昇する機構がありますが、必ず手動で干渉の有無を確認してから使用してください。
また、作業機が勢いよく上がるため、10 cm 以上の余裕を持って上げ規制をしてください。

- ポジションコントロールレバーで作業機を上下させてカバーの隙間が適正か確認してください。
- トップリンクやロアリンクの取付け位置、およびリフトロッドやトップリンクの長さを変えた場合にも、干渉の有無を確認してください。
- 左右の水平調節についても注意してください。
- 移動時に急ブレーキをかけた場合、反動で作業機が上がりトラクタに接触することがあるので注意してください。
- キャビン付きトラクタのリヤガラスを開けたまま作業機を上げたり、開閉操作を行ったりしないでください。
- 作業機を急激に落下させないでください。破損の原因になります。
- サイバーハンドがトラクタと接触する場合は除外してください。
- 推奨外の条件で使用しないでください。作業機が持つ本来の性能を発揮できないだけでなく、作業機が破損する恐れがあります。使用条件を守り、正しい使いかたをしてください。



お知らせ

- 作業機を最上げにした状態での異音発生については、上げ規制または PTO 停止をしてください。作業高さ付近での異音発生については、作業時の LEVEL-LINE (チェンカバーに貼つてあるラベル) の角度が水平方向 5° 以内の範囲で、異音が発生しないようトップリンクを調整してください。

フロントウェイトの装着

トラクタ型式や装着方式によりフロントウェイトが必要になります。

△危険

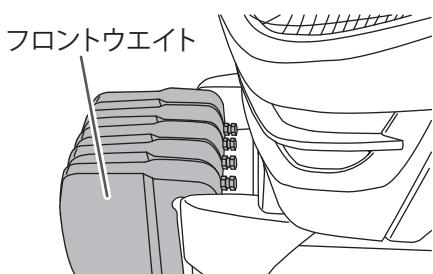


作業機とトラクタとの重量バランスを確認してください。

- 必ず実行
- ・トラクタの前輪に最低限 20 % 以上のウェイトがかかるように、フロントウェイトを取り付けてください。
 - ・作業機に泥が付着して重くなる場合があるため、泥を取除いてください。
 - * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。作業機を装着すると、重量バランスが変わります。

「フロントウェイト装着表」(→ p.108) を参考にして装着してください。

記載されていないトラクタについては、お買い求めの販売店に相談してください。



トラクタからの取外し

△警告



必ず実行

作業機を取り外す場合は、平坦で地盤のしっかりした場所で、取外しのためのスペースが十分にとれる場所で行ってください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

- 1 電源ハーネスをカプラ部で切り離します。

△警告



必ず実行

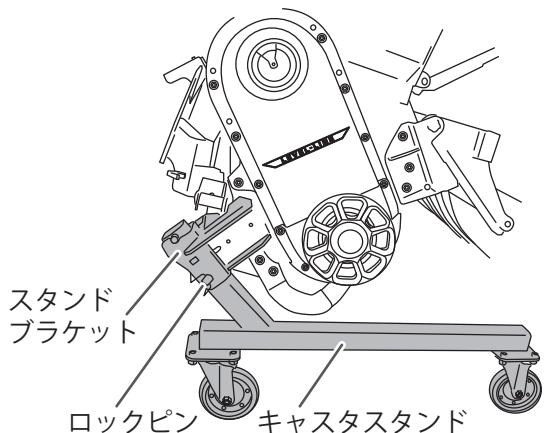
作業機をトラクタから取外す前に、必ず電源ハーネスを切り離してください。

* 電源ハーネスが損傷し、ショートして火災につながる恐れがあります。

- 2 キャスタースタンドを取付けます。

(1) 作業機を持ち上げます。

(2) キャスタースタンドを作業機両側のスタンドブラケットに取付け、ロックピンで固定します。



3 作業機を取外します。

取扱上の注意

- ・トラクタにより、取外し手順が異なります。
- ・お手持ちのトラクタ、および純正ロータリの『取扱説明書』に従って取外してください。
- ・作業機を急激に落下させないでください。破損の原因になります。
- ・外れない場合は、場所が平坦でないかトラクタがまっすぐ前進していないなどの原因があります。動作をやり直してください。

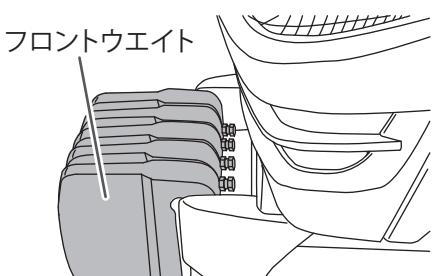
4 トップリンクを調整します。

取扱上の注意

- ・純正ロータリを取り付けるときには、トップリンクを元の長さに戻してください。
- ・詳しくは純正ロータリの『取扱説明書』を確認してください。

フロントウェイトの取外し

作業前に取付けたフロントウェイトを取外してください。



トラクタへの電源接続と配線

トラクタへの電源接続と配線について記載しています。

注意事項

△警告

| | |
|--|---|
| | バッテリへの取付け、取外しのときは、火気を近づけないでください。 禁止 * 火災につながる恐れがあります。 |
| | ハーネスが損傷している場合は、絶対に使用しないでください。 禁止 * ショートして火災につながる恐れがあります。 |
| | 6V、24Vなどのバッテリには絶対に接続しないでください。 禁止 接続できるバッテリ電圧は12Vです。 * 制御ボックスなどを損傷し、ショートして火災につながる恐れがあります。 |
| | ハーネスの取付けおよび取外し手順は、必ず取扱説明書通りに行ってください。 必ず実行 * 工具などがトラクタのボディに当たった場合にショートして火災につながる恐れがあります。 |
| | バッテリ (+) 端子への取付けおよび取外し作業は、アース側の (-) 側ケーブルがターミナルから取外されていることを確認した上で、行ってください。 必ず実行 * 工具などがトラクタのボディに当たった場合にショートして火災につながる恐れがあります。 |
| | バッテリハーネスのスロープローヒューズが切れた場合は、必ず純正部品に交換してください。 必ず実行 * ショートして火災につながる恐れがあります。 |
| | ハーネスをバッテリに接続するときは、(+) (-) に注意してください。 注意 * 逆に接続すると、ショートして火災につながる恐れがあります。 |

△注意

| | |
|--|---|
| | 配線がぬれている場合は、触れないでください。 禁止 * 感電する恐れがあります。 |
| | ぬれた手でバッテリや接続部に触れないでください。 禁止 * 感電する恐れがあります。 |
| | 作業をしないときは、電源カプラ 3P (白) を必ず外してください。 必ず実行 * バッテリ上がりおよび誤作動による事故・ケガにつながる恐れがあります。 |
| | 他のトラクタのバッテリや充電器を接続してエンジンをかける場合、必ず制御ボックスの電源カプラ 3P (白) を取外してください。 必ず実行 * 過電流がかかり故障の原因となる恐れがあります。 |
| | トラクタのバッテリを充電する場合、必ず制御ボックスの電源カプラ 3P (白) を取外してください。 必ず実行 * 過電流がかかり故障の原因となる恐れがあります。 |
| | 長期間使用しない場合は、必ずトラクタのバッテリからバッテリハーネスを取り外して保管してください。 必ず実行 * バッテリハーネスを損傷する恐れがあります。 |

作業時確認

以下の内容を確認しながら作業を行ってください。

- (a) トラクタのエンジンキー ON/OFF
- (b) バッテリの+/-は間違えていないか
- (c) バッテリは上がっていないか
- (d) スタータは軽く回るか
- (e) 各カプラが確実にはまっているか
- (f) カプラ内部の端子が抜けかけていないか
- (g) ヒューズが切れていないか
- (h) バッテリ端子部の接触不良はないか
(接触不良の場合は磨いてください。)
- (i) ハーネスを座席やヒッチ部に挟み込んで断線していないか

配線のポイント

- トラクタの外部電源取出しカプラを、必ず「トラクタへの電源接続と配線」(→ p.46) のように接続してください。
制御ボックスのコンピューターが起動しません。
- バッテリハーネスは確実に取付けてください。
- バッテリ電圧を確認してください。
トラクタのスタータを回せても、電動油圧シリンドラが動かせない場合があります。
電気が足りなくなると、制御ボックスのコンピューターがダウンします。

事前準備

- 外部電源取出しの有無を確認してください。
(「トラクタへの電源接続と配線」(→ p.46))
- バッテリハーネス M2 で作業機側の電源ハーネスまで届かない場合は、エンチョウハーネス M を使用してください。

| 部品名 | 品目コード | 個数 |
|------------------------|---------|-----|
| エンチョウハーネス M (オプション) | 4910588 | 1 m |

- 外部電源取出し CN2P を他の機器などで使用している場合は、次の部品を準備してください。

| 部品名 | 品目コード | 個数 |
|-------------------------|---------|-----|
| CN2P ブンキハーネス (オプション) | 4500036 | 1 個 |

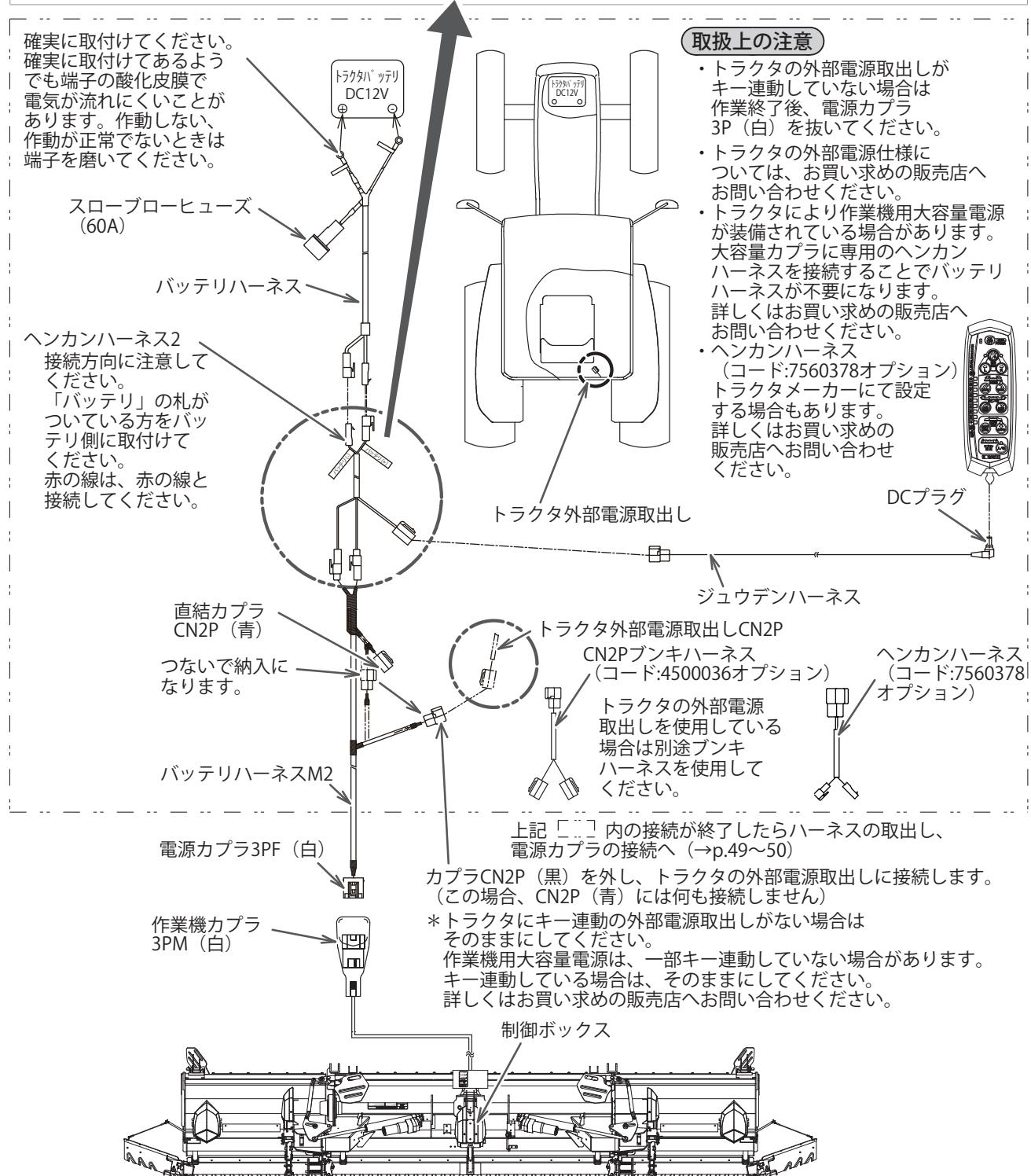
トラクタへの電源接続と配線

⚠ 警告



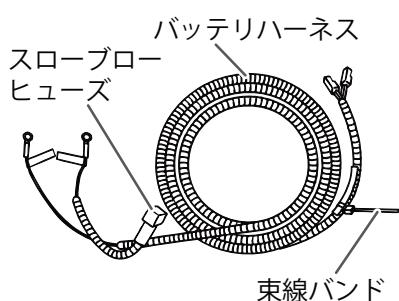
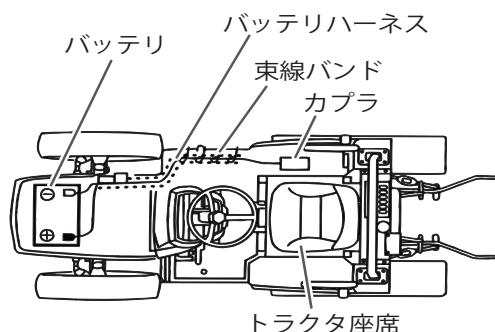
ヘンカンハーネス2を接続するときは、接続方向に注意してください。

- 注意
- * 逆に接続すると、カルコンから外したジュウデンハーネスがショートして、火災になる恐れがあります。
(DCプラグの外面が(+)になり、トラクタの金属面などに触れるときショートします)
 - ・逆に接続すると、ジュウデンハーネスに(+)(-)が逆に出力されます。
 - ・充電式カルコンの充電ができません。
 - ・カルコンが破損する恐れがあります。



バッテリへの取付け・取外し

■ バッテリへの取付け

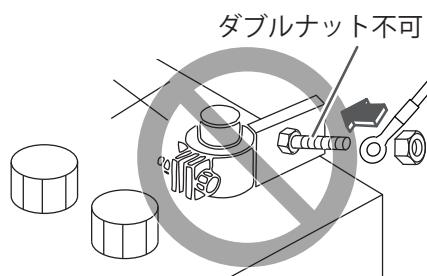


- 1 トラクタのエンジンを止め、電源を切ってからエンジンキーを抜きます。
- 2 バッテリに取付けられているアース側の（-）側ケーブルをターミナルから取外します。
- 3 バッテリハーネスの（+）側（赤色線）丸端子を、バッテリの（+）側のターミナルのネジ部に取付けた後、確実に締まっていることを確認します。

- 4 アース側の（-）ケーブルをバッテリの（-）側ターミナルに取付けます。

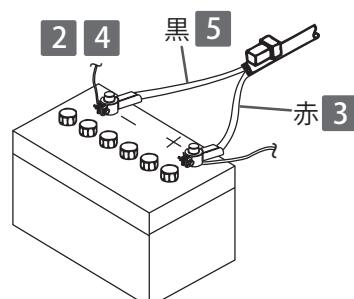
取扱上の注意

- ・ケーブルは、直接ターミナルに取付けてください。ナットの上からダブルナットで取付けると、電気が流れにくくなります。
テスターで12V出でいても、電流が足りないことがあります。



- 5 バッテリハーネスの（-）側（黒色線）丸端子を、バッテリの（-）側ターミナルのネジ部に取付けます。

- ・確実に締まっていることを確認します。



取扱上の注意

- ・丸端子取付け部のサビ・汚れの除去を行わないと接触不良となり、作業機が正常に作動しない恐れがあります。

- 6** ハーネスがたるまないように付属の束線バンドでトラクタに固定します。
ハーネスの引っ張り、折り曲げ、挟まりなどがないか確認します。

⚠ 警告



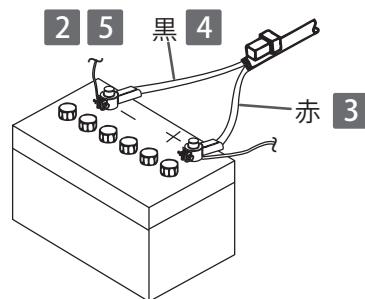
バッテリハーネスを固定するには、以下のことを守ってください。

- 必ず実行
- ・トラクタの高温部箇所（マフラーなど）には、取付けない。
 - ・回転物（ファンベルト、冷却ファンなど）や可動するものに接触しない。
 - ・バッテリハーネスが鋭利なものに接触したり、カバー、座席、キャビンのドアなどに挟み込んだりしない。
 - ・トラクタフレームの下側にバッテリハーネスが垂れ下がった状態にしない。
 - ・油圧配管にバッテリハーネスを固定しない。
 - ・トラクタ可動部にバッテリハーネスを固定しない。
 - ・運転席の足元でバッテリハーネスがたるまない。
 - * 守らないと、バッテリハーネスが破損し、ショートして火災につながる恐れがあります。

- 2** バッテリに取付けられているアース側の（-）側ケーブルをターミナルから取外します。

- 3** バッテリハーネスの（+）側（赤色線）丸端子を、バッテリの（+）側ケーブルから取外します。

- ・ネジを元通りに確実に締付けます。



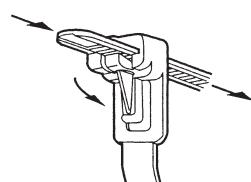
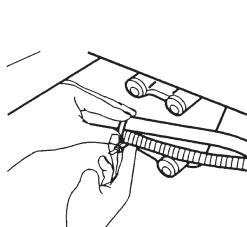
- 4** バッテリハーネスの（-）側（黒色線）丸端子をバッテリの（-）側ケーブルから取外します。

- 5** アース側の（-）ケーブルをバッテリの（-）側ターミナルに取付けます。
ネジが確実に締まっていることを確認します。

- 6** 束線バンドを取り外してから、バッテリハーネスを取り外します。

取扱上の注意

- ・ハサミなどで切らないでください。



押すとカムが動き
ロックが外れます。

■ バッテリからの取外し

⚠ 警告



カプラを取り外す場合は、ロック用の爪部分を押さえながら取外してください。

- 必ず実行 このとき、絶対に配線を引っ張って取外さないでください。

- * カプラが破損し、端子が剥き出しになりショートして火災につながる恐れがあります。

取扱上の注意

- ・制御ボックスへの配線を必ず外してから行ってください。誤作動、故障の原因になります。

- 1** トラクタのエンジンを止め、電源を切ってからエンジンキーを抜きます。

- 7** 取外した部品は、安全な場所に大切に保管します。

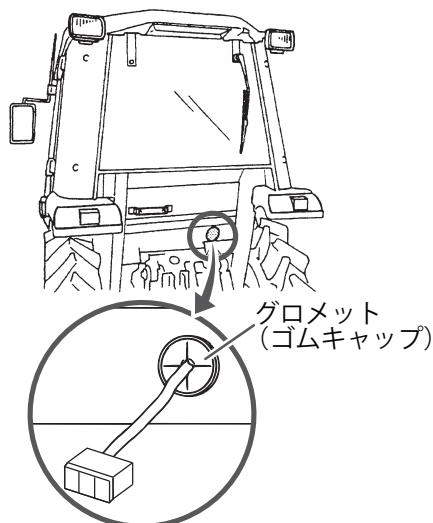
ハーネスの取出し

バッテリハーネス M2 のカプラをトラクタ後部のケーブル取出し穴から引き出します。

⚠ 警告



- 必ず実行
- バッテリハーネス M2 をトラクタ後部のケーブル取出し穴に通す場合、必ずグロメット（ゴムキャップ）の中を通してください。
グロメットで塞がれている場合はカッタなどで切り、その中を通してください。
 - * グロメットを外してケーブルを通すとケーブルが鋭利なコーナーで切断され、ショートして火災につながる恐れがあります。

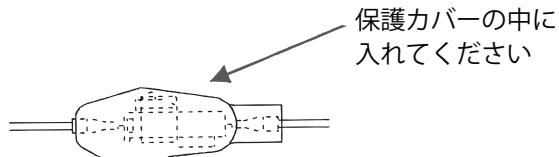


電源カプラの接続

- 1 トラクタから取出したバッテリハーネス M2 の電源カプラ 3PF（白）と、作業機カプラ 3PM（白）を接続します。

お知らせ

- 電源ハーネスのカプラは、保護カバーの中にあります。
- 接続したカプラは保護カバーをずらして両方を覆ってください。
- トラクタの外部電源取出しを使用せず直結している場合は、接続時に制御ボックスから「ピ」と音が鳴ります。



- 2 配線後は作業機を上下させてハーネス（コード）が引っ張られたり、ジョイントやタイヤなどに接触したりしないか確認します。

取扱上の注意

- 作業機カプラ 3PM（白）は、下に垂れ下がらないようにしてください。
まき込まれや水没など損傷の原因になります。

- 3 配線を束線バンドによりオートヒッチアーム上方に固定します。

⚠ 注意



- 配線を固定するときは、以下のことを必ず守ってください。

必ず実行

- 配線がトラクタおよび作業機の鋭利なコーナーに接触しないことを確認してください。

- ポジションコントロールレバーの上下操作により電源コードに余裕を持たせてください。

* コードが切断され、ショートして火災につながる恐れがあります。

格納

△注意

! 代かき作業をしないときは、電源カプラ 3P (白) を必ず外してください。
必ず実行 * バッテリ上がりおよび誤作動による事故・ケガにつながる恐れがあります。

- ・作業終了時はバッテリハーネス M2 の電源カプラと作業機カプラを取り外してください。
- ・作業機のカプラは保護カバーの中に入れてください。
- ・バッテリハーネス M2 の電源カプラは水がかかったりショートしたりしないようにトラクタ内に引き込んで保護してください。
- ・長期にわたり使用しないときはハーネス M2 をトラクタから取外し大切に保管してください。(バッテリハーネスを使用している場合はバッテリハーネスも取外して大切に保管してください。)

カルコンホルダの取付け

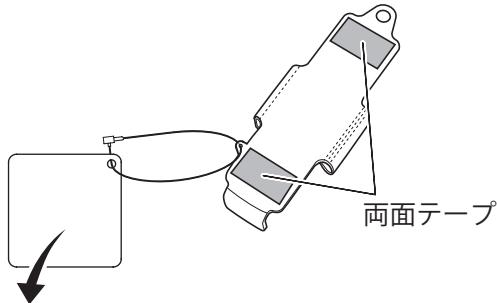
カルコンホルダの取付けは、カルコンホルダ裏側に貼っている両面テープで行います。

カルコンホルダの取付位置はフェンダーやピラー(支柱)などの安全に操作しやすく、カルコンと制御ボックスとが見通せる箇所に取付けてください。

取扱上の注意

- ・座席の前方や人体の前などで操作を行うと、電波が遮断され、操作に影響が出る可能性があります。
- ・カルコンは、なるべく制御ボックスが見通せる位置に設置してください。
- ・高温になる場所への設置はしないでください。
- ・路上走行時にフロントガラスに設置することは、法令により禁止されています。カルコンホルダを取外してください。

<カルコンホルダ裏側>

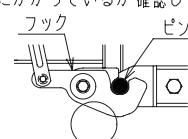
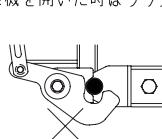


取扱いパネル表面



取扱上の注意

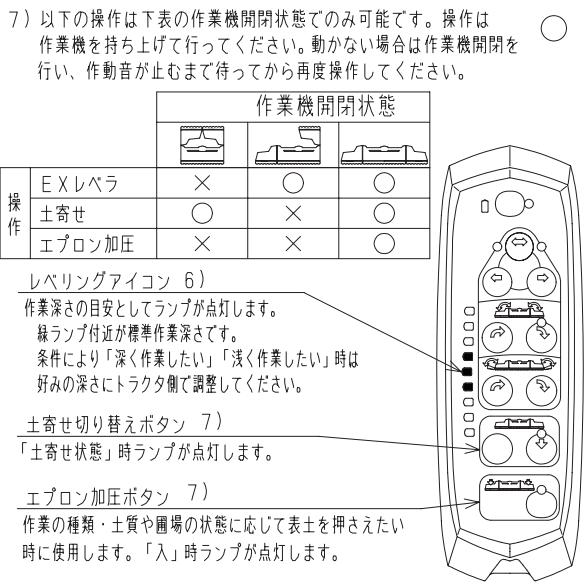
- 1) 開閉中緊急停止する場合はいずれかのボタンを押してください。
(どのボタンを押しても緊急停止します。)
- 2) 操作時は機械が完全に停止するまで必ず目視にて確認してください。
- 3) 作業機開閉操作は必ずPTOの回転を止めてから行ってください。
- 4) 作業機開閉操作はトラクタとの接触を避ける為、接地しない範囲で、できるだけ低い位置にて行ってください。
- 5) 作業機を開いた時はフックがピンにかかっているか確認してください。



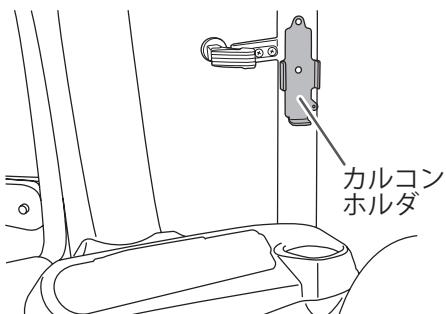
- 6) LEVEL-LINEが作業時水平になるようトップリンクを調整してください。水平でない場合は作業時レベリングアイコンのランプが中央付近(緑ランプ)で点灯しない為、取説に記載している点灯表示の微調整を行ってください。

※レベリングアイコンはトラクタのオートダイヤルを調整する時の深さの目安としてください。

取扱いパネル裏面



<キャビン仕様の場合>



カルコンホルダの取付け

1 取付け面の清掃、脱脂を行います。

お知らせ

- 取付面に汚れ、油などが付着しているとテープの粘着力がなくなり剥がれやすくなります。

2 両面テープの保護フィルムを剥がし、カルコンホルダを取付け面に押付けます。

3 カルコンをカルコンホルダの上側から挿入します。

カルコンについて

ここではカルコンの説明と操作方法について詳しく記載しています。
作業前によく読み、内容を理解してから作業を行ってください。

注意事項

⚠ 危険

-  **ストラップを首にかけたまま作業機の可動部に近づかないでください。**
禁止 * 作業機の回転部分などに巻込まれる恐れがあり危険です。
-  **カルコンを転がりやすい位置に放置しないでください。**
禁止 * ブレーキペダルの下に入り込むと、運転操作を妨げ、危険です。
-  **カルコンを操作し作動しているときは、作業機の周囲に人を近づけないでください。また作業機の近くに人がいる場合は、カルコンの操作をしないでください。**
禁止 * 作業機に挟まれ、事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注意

-  **不必要に電源を入れないでください。**
禁止 カルコンの電源を ON にした時点で、制御ボックスの状態にかかわらず、電波を発信します。
* 故障や予期せぬ作動の原因となり、ケガをする恐れがあります。
-  **カルコンは必ず子供の手の届かない場所で保管してください。**
必ず実行 * 故障や予期せぬ作動の原因となり、ケガをする恐れがあります。

取扱上の注意

- 精密部品ですので落としたり、トラクタの座席に挟み込んだり、激しい振動を与えないでください。
- 樹脂部品のため溶剤（ガソリン、灯油、シンナーなど）を付けないでください。割れたり、溶けたりすることがあります。
- 防水キャップを取付けた場合でも生活防水（JIS 防水保護等級 4 級相当）のため、水、洗浄機に入れたり、流水で洗ったりしないでください。
- 充電などで防水キャップを取り外した状態では、カルコンは防水になるため、濡れないようにしてください。
- カルコン裏面に空気穴を設けています。この部分を塞いだり、細いもので突いたりしないでください。内部の防水シールが破れ故障の原因になります。
- 磁気を帯びたキー ホルダを付けたり金属系シールなどを貼付けたりしないでください。電波が飛びにくくなることがあります。
- 直射日光の強い場所や炎天下の車内など高温の場所で使用、放置、保管をしないでください。

充電式電池交換時の注意事項

△ 注意



新しい充電式ニッケル水素電池と一度使用した古い充電式ニッケル水素電池、ニッケル水素以外の充電式電池を混ぜて使用しないでください。

- * 電池が発熱、液漏れ、破裂を起こし、機器の故障・ケガの原因となる恐れがあります。



充電式電池の+極、-極を逆に接続しないでください。

禁止

- * 電池が発熱、液漏れ、破裂を起こし、機器の故障・ケガの原因となる恐れがあります。

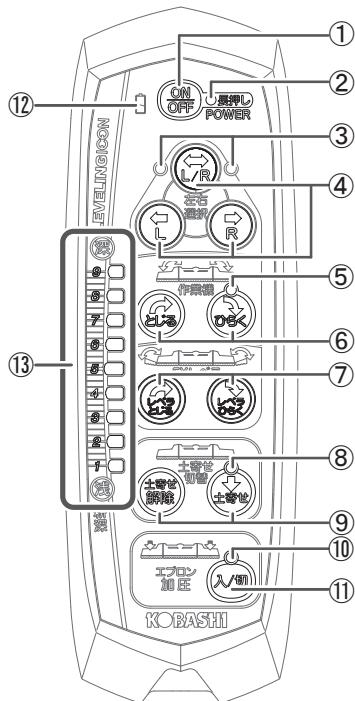
取扱上の注意

- 初回使用時は充電せずに使用できますが、早期に「電池残量表示」ランプが点滅することがありますので、充電してから使用してください。
- ご使用済みの充電式電池は貴重な資源です。再利用しますので廃棄しないで+端子にテープを貼付けて絶縁してから充電式電池リサイクル協力店にお渡しください。
- 充電式電池を交換する場合は、電池蓋内部にあるパッキンが確実に溝に入っているか（蓋が浮いていないか）必ず確認してからネジで固定してください。
- 品番の異なる充電池や乾電池と混ぜて使用しないでください。

お知らせ

- 本品は標準で、充電式ニッケル水素電池（単4形×3本）を装着していますので、そのまま使用することができます。
- 充電してもすぐ電池残量ランプが点滅する場合は、電池蓋固定ネジを緩め、中から使用済み充電式電池を取り出し、電池蓋のパッキンに注意しながら、新しい充電式電池と交換してください。
(推奨充電式電池)
- 電池交換時は、パナソニック製充電式EVOLTAe（初期装備品）を使用してください。

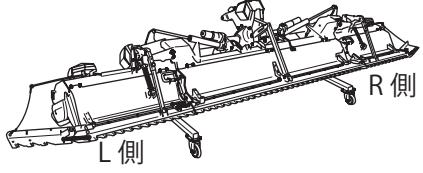
カルコンとボタン説明

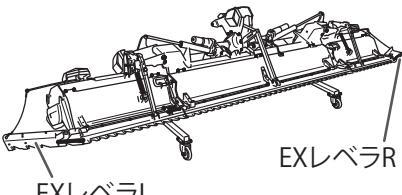


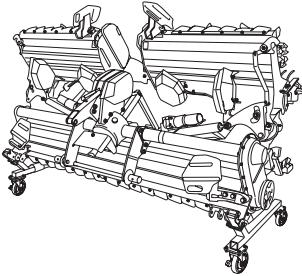
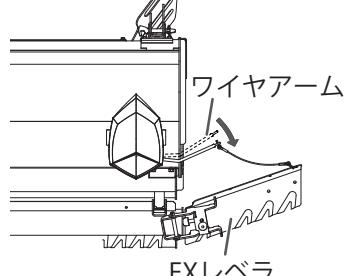
| No. | 名 称 | 説 明 |
|-----|---------|---|
| ① | 「電源」ボタン | 押すごとにカルコンの電源を入り切りすることができます。 電源を「入」にするには、「電源」ボタンを1秒以上押します。 (制御ボックスの電源はこの操作で入り切りできません) |
| ② | 「電源」ランプ | 点灯：電源「入」 無操作状態が1時間続くと、自動で電源が切れます。 消灯：電源「切」 点滅：通信エラー (通信状態が悪い状態) ・制御ボックスの電源が入っていない ・制御ボックスから離れてる ・電波障害 これらのときは、操作はできません。この状態が30秒続くと自動で電源が切れます。 |

取扱上の注意

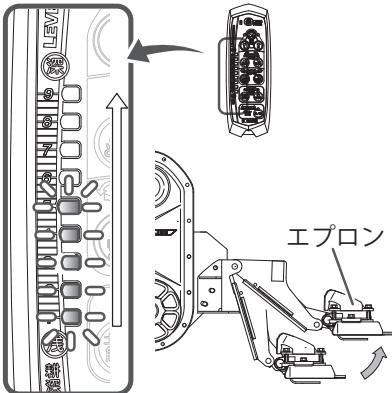
- 充電中に「充電」ランプと交互に点滅する場合は、充電エラーです。詳しくは「カルコンのトラブルシューティング」(→ p.117) を参照してください。

| No. | 名 称 | 説 明 |
|-----|--------------|--|
| ③ | 「左右選択」ランプ | <p>「左右選択」ボタンで L 側、R 側の選択した方を示すランプです。 点滅：EX レベラ、作業機開閉作動中</p> |
| ④ | 「左右選択」ボタン | <p>作業機開閉時と EX レベラ開閉の L/R 同時、L 側、R 側を選択できます。</p> <p>L 側：進行方向に向かい作業機の左側 R 側：進行方向に向かい作業機の右側</p>  |
| ⑤ | 「作業機状態表示」ランプ | <p>作業機の開閉状態を示すランプです。 点灯：両側開いた状態 点滅：開閉作動中 消灯：両側閉じた状態 フラッシュ点滅（点灯から一瞬消灯）：作業機の L 側、R 側のどちらか一方が開いた状態</p> <p>取扱上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> 作動を完了させるため、作業機の動きが止まつても作動を示すブザー音が止まるまで必ず待ってください。 作動を途中で止めた場合（ランプが点滅）は、他の操作ができません。 再度操作し作動完了してから操作してください。 |

| No. | 名 称 | 説 明 |
|-----|------------|--|
| ⑥ | 「作業機開閉」ボタン | <p>作業機を開閉するボタンです。作動中は作動を示すブザー音が鳴ります。 「作業機開閉」ボタンを一度押すと最後まで作動し自動的に止まります。押し続ける必要はありません。</p> <p>取扱上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> 開閉中緊急停止する場合は、カルコンのいずれかのボタンを押してください（どのボタンを押しても緊急停止します）。 操作時は、作業機が完全に停止するまで必ず目視で確認してください。 開閉作動を完了させるため、作動が止まつても作動音を示すブザー音が止まるまで必ず待ってください。 作動中通信エラーが発生した場合は、開閉作動を停止します。再度操作してください。 作業機の開閉は作業機を持ち上げた状態で行ってください。 PTO の回転を止めて行ってください。故障の原因になります。 EX レベラの自動収納は、補助的な機能です。 大量の泥がのつていいいか確認しながら行ってください。 EX レベラが閉まりきらず、破損する恐れがあります。 <p>「ひらく」：選択した位置の作業部を開きます。 ⇒ 土寄せ時は自動的に土寄せロックが解除になります。 ⇒ 加圧時は自動的に加圧切になります。</p> <p><開いた状態></p>  <ul style="list-style-type: none"> 上図は、EX レベラ L/R を開いた状態です。 |

| No. | 名 称 | 説 明 | No. | 名 称 | 説 明 |
|-----|------------|--|-----|---------------|--|
| ⑥ | 「作業機開閉」ボタン | <p>「とじる」：選択した位置の作業部を閉めます。 ⇒ 土寄せ時は自動的に土寄せロックが解除になります。 ⇒ 加圧時は自動的に加圧切になります。 ⇒ 選択した方向の EX レベラが開いている場合、自動的に閉じ（収納）します。</p> <p>＜閉じた状態＞</p>  | ⑦ | 「EX レベラ開閉」ボタン | <p>EX レベラを開閉するボタンです。作動中は作動を示すブザー音が鳴ります。 「EX レベラ開閉」ボタンは一度押すと最後まで作動し自動的に止まります。押し続ける必要はありません。</p> <p>「レベラひらく」： 選択した位置の EX レベラを開きます。</p> <p>「レベラとじる」： 選択した位置の EX レベラを閉じます。</p> <p>EX レベラが自動的に開くと、開ききった後ワイヤアームが閉め方向に少し戻ります。</p>  |
| | | | ⑧ | 「土寄せ状態表示」ランプ | <p>レベラの土寄せ状態を示すランプです。 点灯：土寄せ作動完了 消灯：解除作動完了 点滅：作動中</p> |

| No. | 名 称 | 説 明 | No. | 名 称 | 説 明 |
|-----|------------------|---|-----|------------------|---|
| ⑨ | 「土寄せ / 土寄せ解除」ボタン | <p>レバーラを土寄せ状態もしくは土寄せ解除状態にするボタンです。作動中は作動を示すブザー音が鳴ります。「土寄せ / 土寄せ解除」ボタンを押し続ける必要はありません。一度押すと最後まで作動します</p> <p>取扱上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業機が両側閉じている、もしくは両側開いている状態でのみ作動します。 ・土寄せ / 土寄せ解除は作業機を持ち上げた状態で行ってください。 ・「土寄せ解除」ボタンを押してもレバーラは代かき状態には戻りません。ロックは解除されているので、そのまま前進しながら、作業機を下げる（代かきを行う）とレバーラが持ち上がり、代かき状態になります。 <p>代かき状態 土寄せ状態</p> <p>「土寄せ」：レバーラが下向きに下がり固定され土寄せ状態 ⇒ EX レバーラが開いている場合、自動的に閉じます。</p> <p>「解除」：レバーラのロックが解除され代かき可能状態になります。加圧時は自動的に加圧切になります。</p> | ⑩ | 「エプロン加圧状態表示」ランプ | <p>エプロンの加圧入切の状態を示すランプです。 点灯：加圧作動完了 消灯：加圧「切」 点滅：加圧作動中</p> <p>カムブラケット 加圧「切」 加圧「入」</p> |
| | | | ⑪ | 「エプロン加圧入 / 切」ボタン | <p>エプロンの加圧を入り切りするボタンです。作動中は作動を示すブザー音が鳴ります。「エプロン加圧入 / 切」ボタンを押し続ける必要はありません。一度押すと最後まで作動します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「エプロン加圧状態表示」ランプが消灯している場合に押すとエプロンが加圧状態になります。 ・「エプロン加圧状態表示」ランプが点灯している場合に押すとエプロン加圧状態が解除されます。 <p>取扱上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・作業機が両側開いている状態でのみ作動します。 ・操作は作業機を持ち上げた状態で行ってください。 |
| | | | ⑫ | 「充電」ランプ | <p>充電状態、電池残量を示すランプです。 点灯：充電中 消灯：充電完了 点滅：電池残量低下 電池残量が少ないので早めに充電してください。</p> <p>取扱上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> ・充電中に「電源」ランプと交互に点滅する場合は、充電工マーです。詳しくは「カルコンのトラブルシューティング」(→ p.117) を参照してください。 |

| No. | 名 称 | 説 明 |
|-----|----------------|---|
| ⑯ | 「レベリングアイコン」ランプ | <p>作業深さの目安を表示するランプです。エプロンが上がると順次上方のランプが点灯していきます。中央緑ランプ付近が標準作業深さの目安となります。</p>  <p>取扱上の注意</p> <ul style="list-style-type: none"> 作業深さの調整はトラクタ側で行ってください。 「レベリングアイコン」ランプは直接の深さを表していません。作業機が水平のとき中央付近の緑ランプが標準作業深さの目安となります。点灯位置は作業機の姿勢・土質・作業速度によっても異なるため、あくまで目安としてください。 荒代時と仕上げ代時でもランプ点灯位置が異なります。荒代時の方がエプロンが持ち上げられやすいため深めに表示されます。 作業姿勢・土質・作業速度によりランプの点灯位置が変わることがあります。この場合ランプの位置を調整することができます。詳しくは「レベリングアイコン調整モード」(→ p.58) を参照してください。 |

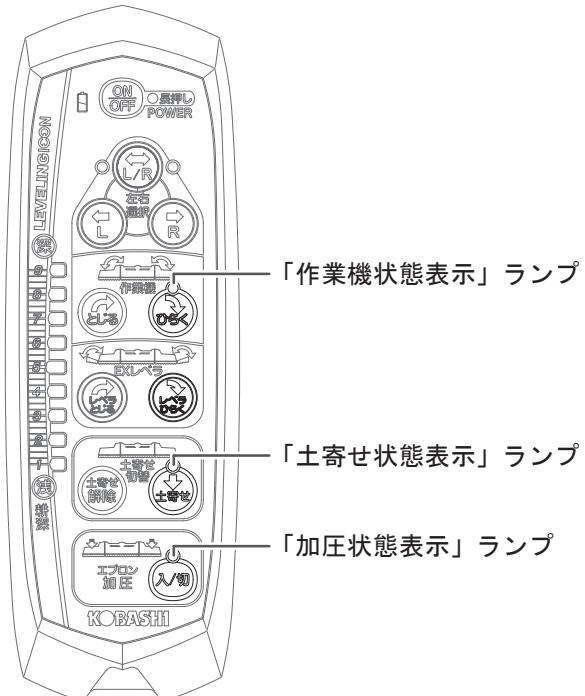
その他の機能

メモリー機能

制御ボックスの電源を切っても、作業機各部の状態を記憶することができる機能です。

取扱上の注意

- 作動途中で制御ボックスの電源を切らないでください。「作業機状態表示」ランプが点滅のままになります。この場合は、再度操作して作動を完了させてください。作業開始時は、ランプの状態と作業機の状態を確認してください。



ブレーカ機能

各作動部の電流を監視しています。負荷が大きい場合は自動で電流をカットし、作動を止めることができます。

この場合、連続したブザー音が 10 秒程度鳴ります。

取扱上の注意

- ・ブレーカ作動時は電源を切り、安全に気を付けて以下を確認してください。
(a) 作動部に大量の泥がのっていないか
(b) トラクタが極端に前下がりになっていないか
(c) 干渉物はないか

オートパワー OFF 機能

カルコンの電源を入れ、制御ボックスとの通信が確立した状態のとき、カルコンを操作しない状態が 1 時間続くと自動で電源が切れます。

△ 注意



不必要に電源を入れないでください。

カルコンの電源を ON にした時点で、制御ボックスの状態にかかわらず、電波を発信します。

* 故障や予期せぬ作動の原因となり、ケガをする恐れがあります。

レベリングアイコン調整モード

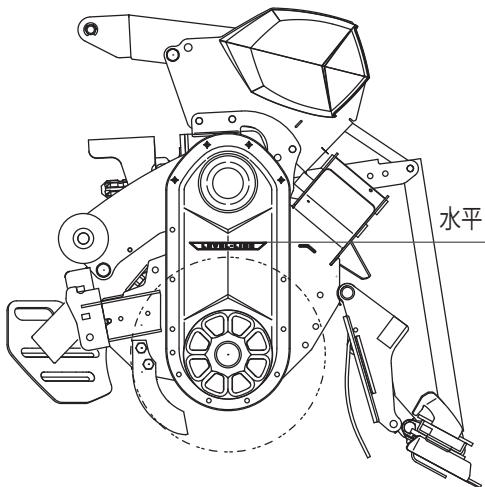
レベリングアイコンの点灯位置を調整することができます。

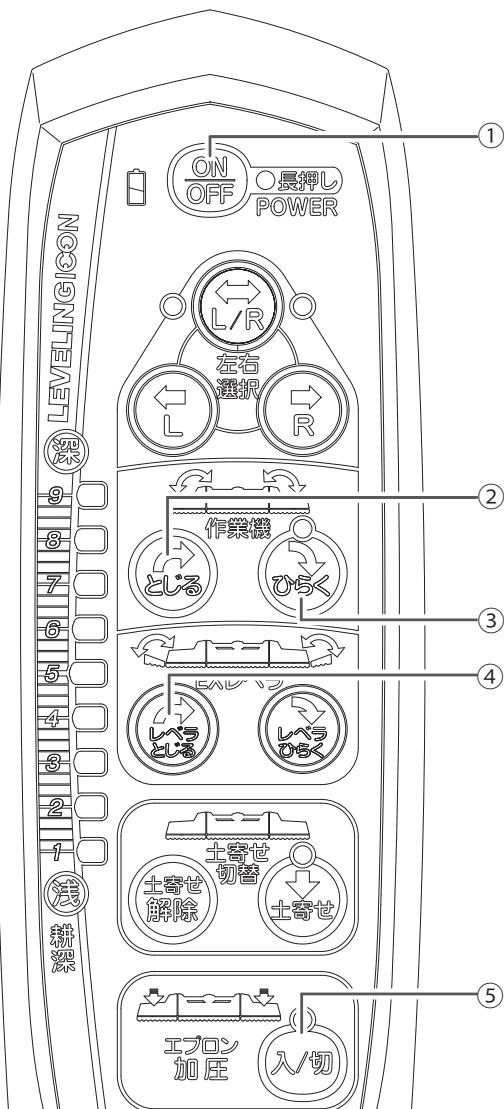
代かき作業時にエプロンが上がったときの点灯位置が中央付近となるよう変更することができます（基準位置変更）。

代かき時に作業機の姿勢が変わると、点灯位置は変わるために、以下の方法で調整することができます。

取扱上の注意

- ・代かき作業時に作業機が前傾もしくは後傾の場合は、調整してください。作業状態が水平の場合は行う必要はありません。調整後、制御ボックスを交換した場合は、再度調整を行ってください。



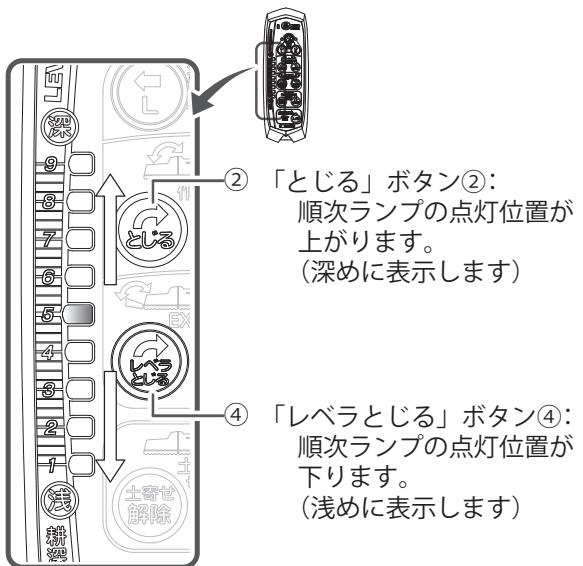


- 1** カルコンの「電源」ボタン①を押し、電源を切ります。
- 2** 制御ボックスを通電状態（トラクタキー連動の場合はキーを ON）にします。
- 3** 作業機開閉「とじる」「ひらく」ボタン②③とエプロン加圧「入 / 切」ボタン⑤を同時に押したまま「電源」ボタン①を 1 秒以上押します。
(②③⑤ボタン同時押しのまま①ボタンを押します)
⇒「レベルングアイコン」ランプが中央付近の緑ランプに変わり、調整モードに切替わります。

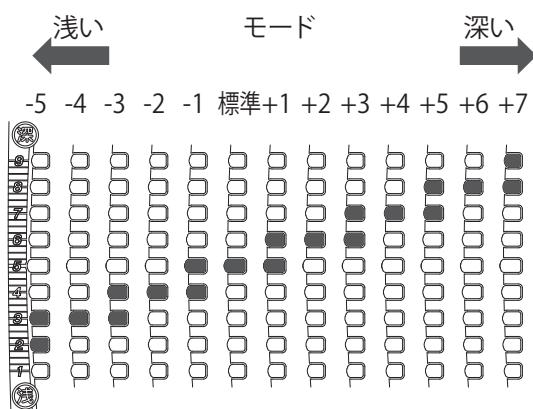
取扱上の注意

- ボタンを強く押しすぎないでください。
誤操作の原因となります。

- 4** 「レベルングアイコン」ランプの点灯位置を「とじる」ボタン②と「レベラとじる」ボタン④で調整します。



- 「レベルングアイコン」ランプは以下のように点灯します。



トラクタ側のトップリンクの調整により作業姿勢が調整できない JIS 特殊 3P ヒッチの場合は、下表を参考に調整してください。

特殊 3P ヒッチ装着の場合

| トラクタ型式 | モード |
|--|-----|
| SL320・350 KL31R・34R | +7 |
| SL380・410・450 SL38・41・45 | +6 |
| SL480・540・600 SL48・54・60 | +4 |
| KL31Z・34Z | +7 |
| KL37Z・40Z・44Z | +6 |
| KL48Z・53Z・58Z | +4 |
| YT330(A)・333(A) | +7 |
| YT333(A)D | +2 |
| EG330・334 | +6 |
| EG334C | +2 |
| NT(A)335・365 | +4 |
| NT(A)313・343 NT(A)31・35 | +4 |
| NT(A)335C・365C NT(A)313C・343C NT(A)31C・35C | 0 |
| GA301・302 GA30・300 | +6 |
| GA331・361・332・362 GA32・36・330・360 | +4 |
| GM300・301・302 GO301 | +3 |
| GM330・360・331・361・332・362 GO321・341 | +1 |

5 調整後は「ひらく」ボタン③を押して記憶させます。

⇒ 記憶したら制御ボックスから、「ピッ、ピッ、ピッ、ピー」と音がします。

取扱上の注意

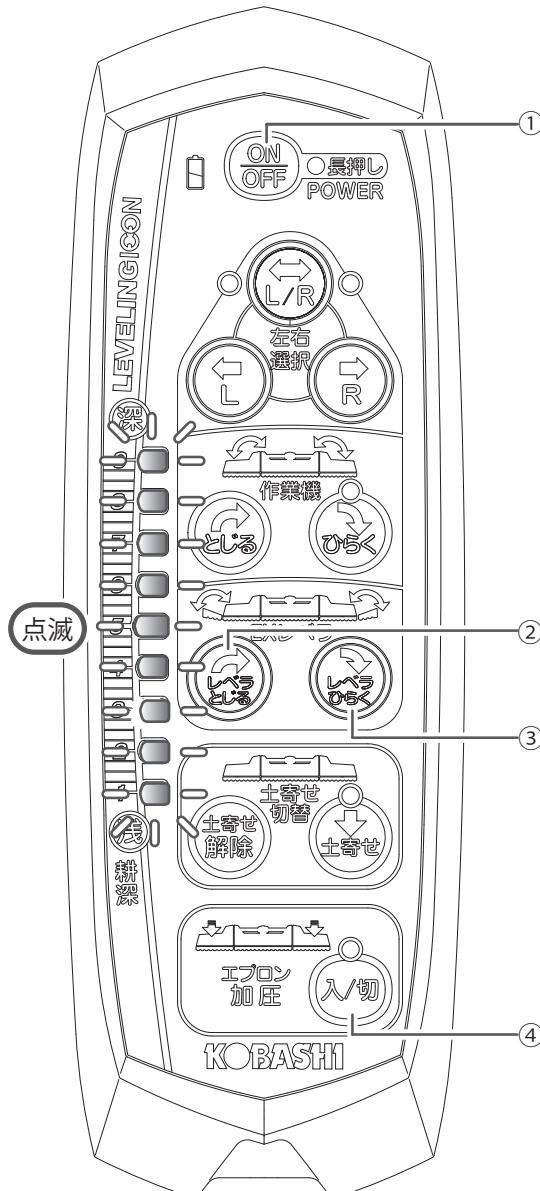
- 調整モードに切替わらない場合は、制御ボックスの電源が入っているか確認してください。また、カルコンを制御ボックスに近づけて再度行ってください。

メンテナンスモード

作業機のメンテナンスなどを行うときに、操作モードを切替えて各部を単独で作動させる機能です。

取扱上の注意

- 通常の代かき作業時は使用しないでください。
- 作業機開閉時の EX レベラの自動収納などは作動しません。
- 操作ボタンを押している間は作動し、離すと作動停止します。押し続けると各部が発熱することがあります。
操作の手順によっては干渉し破損する恐れがあるので、必ず動きを確認しながら操作を行ってください。



- 1** 「電源」ボタン①を押して、電源を切ります。
- 2** 制御ボックスの電源を入れます。
- 3** EX レベラ「レベラとじる」「レベラひらく」ボタン②③と、エプロン加圧「入 / 切」ボタン④を同時に押したまま「電源」ボタン①を1秒以上押します。
（②③④ボタン同時押しのまま①ボタンを押します）
⇒メンテナンスモードになると「レベリングアイコン」ランプがすべて点滅します。

取扱上の注意

- ・ボタンを強く押しすぎないでください。
誤操作の原因となります。

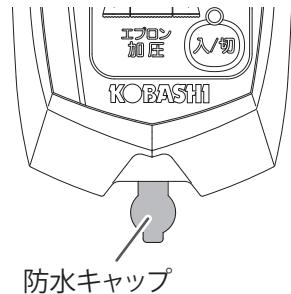
- 4** 切替えたい操作ボタンを押します。
⇒ボタンを押して間作動し、離すと止まります。
- 5** カルコンの電源を切ります。
⇒メンテナンスモードが終了し、通常状態になります。

取扱上の注意

- ・メンテナンスモードに切替わらない場合は、制御ボックスの電源が入っているか確認してください。また、カルコンを制御ボックスに近づけて再度行ってください。

防水キャップの取付け

カルコンのDCプラグ差込み口部には、防水キャップが付いています。充電しないときは、塞ぐように取付けてください。

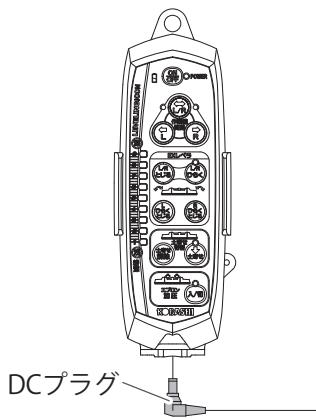


取扱上の注意

- ・防水キャップを取付けることで生活防水となります。が、洗浄機に入れたり、流水で洗ったりしないでください。
- ・防水キャップは強く引っ張らないでください。破損することがあります。

カルコンの充電

- 1 カルコンにDCプラグを差込みます。



⇒ 充電がスタートし、「充電」ランプが点灯します。
満充電になれば「充電」ランプが消灯します。

<目安>

- ・充電時間：約6時間
- ・使用可能時間：約7時間
- ・「充電」ランプ点滅から停止まで約1時間

(お知らせ)

- ・環境温度、使用状況や使用頻度によって変化するため、あくまでも目安です。

(取扱上の注意)

- ・DCプラグを差しても「充電」ランプが点灯しない場合は、ジュウデンハーネスに電気がきているか確認してください。
エラーの場合は、再度DCプラグを抜き差ししてください。
- ・充電が完了した状態で使用し続けてランプが消灯しても、DCプラグを差していれば自動で補充電を行います。
このとき、「充電」ランプは点灯しません。
充電は10時間で強制停止します。
- ・ジュウデンハーネスは座席に挟み込んだり、踏まれたりしないように配置してください。
- ・DCプラグは、まっすぐに抜き差ししてください。
- ・DCプラグを水でぬらしたり、泥などが付いたりしないようにしてください。

- ・DCプラグをカルコンに差した状態では、カルコンは防水になるため、ぬれないようしてください。
- ・充電は0～40°Cの環境で行ってください。
- ・10時間超えても充電が完了しない場合は、充電をやめ、販売店にご相談ください。
- ・新旧や種類の異なる充電池は使用しないでください。また充電式以外の電池は使用しないでください。液漏れ、発熱、破裂することがあります。

電源の入れ方

安全のために以下の手順で操作してください。

- 1 トラクタの操作レバーがニュートラルになっているか確認します。

- 2 トラクタのエンジンをかけます。

<キー連動している場合>

⇒ 制御ボックスの電源がONになります。
トラクタの外部電源に接続しキー連動になっている場合は、制御ボックスから通電を示す「ピ」というブザー音が鳴ります。

<キー連動していない場合>

⇒ 配線を接続したときに通電し、制御ボックスの電源がONになります。
そのとき、通電を示す「ピ」というブザー音が鳴ります。エンジンをかけなくても常時通電しています。

- 3 カルコンの「電源」ボタンを1秒以上押します。

⇒ カルコンの「電源」ランプが点灯します。
制御ボックスから通信確立を示す「ピ、ピ」というブザー音が鳴り、操作可能(スタンバイ状態)となります。

(取扱上の注意)

- ・カルコンの「電源」ランプが点滅している場合は、電波が届いていません。「ピ、ピ」と音がして、「電源」ランプが点灯するまで制御ボックスにカルコンを近づけて操作してください。

移動・圃場への出入り

移動・圃場への出入りについての注意事項を記載しています。

よく読み、内容を理解してから作業を行ってください。

注意事項

⚠ 危険



必ず実行

トラックへの積み込み、坂の上り時に、トラクタの前輪が浮き上がる場合は、フロントウエイトを付けて作業機を下げる登ってください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行

圃場に入るときは、必ず前進で速度を下げる、うねや段差に対して直角に進んでください。

畦が高いときは、丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が14°以下になるようにしてください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 警告



必ず実行

移動の際は作業機を持ち上げ、左右のブレーキを連結し、チェックチェーンが張れていることを確認してください。

* 転倒事故につながる恐れがあります。



必ず実行

トラクタの『取扱説明書』に沿って走行してください。

* 転倒事故につながる恐れがあります。



必ず実行

前後左右に気をくばり、安全を確認しながら走行してください。

高速運転、急発進、急ブレーキ、急旋回はしないでください。

* 転倒事故につながる恐れがあります。



必ず実行

圃場に入るときは、必ず速度を下げ、うねや段差に対して直角に進んでください。

うねが高いときは丈夫で滑り止めのあるアユミ板を使用し、傾斜角が14°以下になるようにしてください。

* 転倒事故につながる恐れがあります。

⚠ 注意



必ず実行

作業機の運搬、またはトラクタへ装着して移動する場合は、エプロンが上下に揺れないように、ゆっくり移動してください。

* エプロンが上下に揺れると機体が破損し、事故・ケガにつながる恐れがあります。



注意

圃場から出る際は注意してください。折りたたみ作業時に耕深が深くなりまます。エプロンが上がりすぎる（目安として作業機水平状態で耕深230mm以上）と部品が接触する場合があります。

* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

使いかた

移動・圃場への出入り

⚠ 注意



必ず実行

移動の際は、EX レベラをたたんでください。

* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

作業のしかた

作業のしかたについて記載しています。

作業前によく読み、内容を理解してから作業をしてください。

注意事項

△危険



運転中トラクタと作業機の周囲には、補助作業者や他の人を絶対に近づけないでください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



次の作業をする場合は、必ずトラクタの駐車ブレーキをかけ、PTO変速レバーを「中立」の位置にし、エンジンを停止してください。

- 運転者が運転位置を離れて作業機を調整するとき
- 爪軸などへの草やワラのからみ付きを取り除くとき

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



トラクタ停車の際は、余裕のある位置でブレーキを強く踏み停止してください。

必ず実行 フレール軸の慣性力により、トラクタの押出しが発生します。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

△警告



平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。

必ず実行 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

△注意



開閉操作はトラクタの駐車ブレーキをかけた状態で行ってください。

必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります。



周囲に人がいないことを確認した上で行ってください。

必ず実行 * 事故・ケガにつながる恐れがあります。



左右のフレームがそれぞれフックで確実に固定されていることを確認して作業を行ってください。

必ず実行 * 機体が破損し、事故・ケガにつながる恐れがあります。

△注意



必ず実行 作業機の開閉は、キャスタースタンドを外した状態で地面に接地しない範囲でできる限り低い位置で行ってください。

高い位置ではトラクタと接触したり、負荷が大きくなるため開閉スピードが遅くなったりします。

* 事故・ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行 畦際での作業は、作業機を畦に引っ掛けないように、ゆっくりと注意して行ってください。

* ケガ・故障につながる恐れがあります。

取扱上の注意

- ボタン操作は1か所ずつ行ってください。2か所以上同時に押すと作動が止まります。この場合はボタンを放し、操作し直してください。
- 作業機が開いた後、フックをかけるために数秒間は電動油圧シリンダが作動し続けます。緊急の場合を除き、この間に作業機を止めないでください。
- 作動中に制御ボックスの電源を切らないでください。可動部が思わぬ位置で止まると、その後の作業で破損することがあります。

圃場の準備

お知らせ

- 耕うん作業は、一定の深さで平にして残耕がないようにしておくと、代かきは容易になります。
- あらかじめ（一日前）水を入れることで土を軟らかくし、稻ワラに水分を吸わせ、浮きにくくすることでスキ込みが良くなります。
- 水量は少なめの方が適しています。
ただし、少なすぎると土の抵抗は大きくなり、多すぎると土の移動により均平性が悪くなり、また雑草やワラが水に浮きます。

作業速度と PTO 軸回転速度と深さ

(a) 作業機による代かき作業は、一枚の圃場では、できるだけ同じ作業速度、同じ PTO 軸回転速度を保つことが精度の高い仕上がりにするコツとなります。

碎土の程度は、PTO 軸回転速度が同じであれば
作業速度が速くなる → 荒くなる
作業速度が遅くなる → 細かくなる

(b) PTO 軸回転速度を高くすると、均平が悪くなります。

作業速度：1～5 km/h

PTO 軸回転速度：

350～540 rpm (PTO 変速 1～2 速でトラクタエンジン回転速度を調整します。目安としてトラクタエンジン回転速度は 1500 rpm 以上で使用します)

(c) 作業の深さ

代かき作業は代かき前の耕うんより浅い状態で行います。

作業機の性能を発揮させるには、目安として前耕うんを 12 cm 以上で行います。

また、荒代はやや深め、仕上げ代はやや浅めに調整します。

取扱上の注意

- 逆転作業はしないでください。機械が破損します。
- 土地条件に応じた作業速度、PTO 軸回転速度、深さを選んでください。
なお、石の多い圃場では、作業速度は遅くし、PTO 軸回転速度も下げて使用してください。
- ロータリ耕うんより深い代かきは、しないでください。
- 推奨外の条件で使用しないでください。作業機が持つ本来の性能を発揮できないだけでなく、作業機が破損する恐れがあります。使用条件を守り、正しい使いかたをしてください。

作業機の開閉

注意事項

△ 危険



必ず実行

作業機の開閉操作、開閉作動しているときは、周りの人はもちろん本人も作業機から十分離れてください。

* 作業機に挟まれ、事故・大ケガ・故障につながる恐れがあります。

△ 注意



必ず実行

作業機は完全に開く、もしくは閉じてください。

* 道中の位置で止めると事故・ケガにつながる恐れがあります。



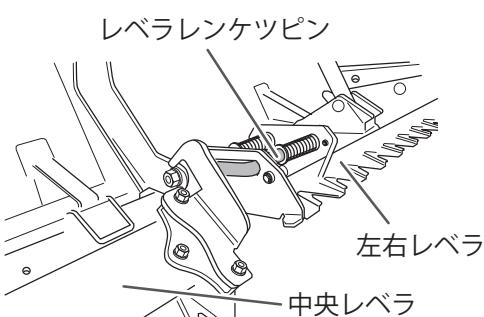
必ず実行

代かき作業をしないときは、電源カプラ 3P (白) を必ず外してください。

* バッテリ上がりおよび誤作動により事故・ケガにつながる恐れがあります。

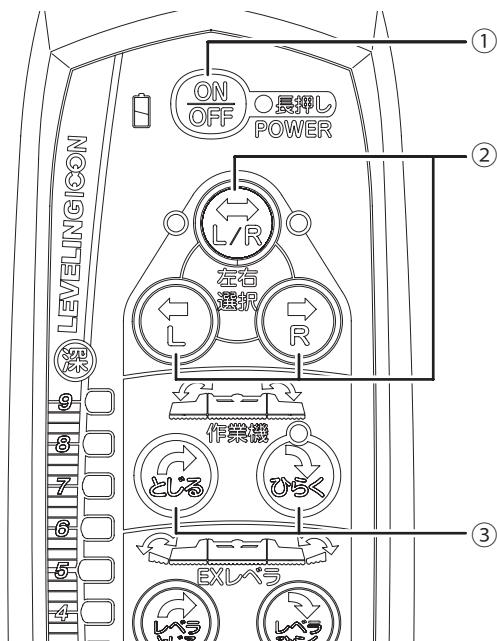
取扱上の注意

- レバーラが土寄せまたは代かきのどちらの場合でも、作業機の開閉を行うことができます。ただし、作業機を閉じて土寄せ作業を行った後、作業機を開くと中央と左右のレバーラが外れた状態となり連結しません。



- ・土寄せロックは自動的に解除されます。作業機を下げ、代かき作業を行うと中央のレベラが上がり、レベラレンケツピンが入り連結されます。
- ただし、圃場の土質、畦際など段差がある場合は連結できないことがあります。作業機を持ち上げ「土寄せ」ボタンを押すと、左右のレベラが下に落ち連結させることができます。その後、「土寄せ解除」ボタンを押してロック解除し、代かき作業を行ってください。
- ・EX レベラが閉じられていることを確認した上で作業機を閉じる操作を行ってください。

操作手順



- 1 カルコンの「電源」ボタン①を押して、電源を入れます。
- 2 「左右選択」ボタン②を押して、開閉位置を選択します。
- 3 作業機の「とじる」ボタン③、または「ひらく」ボタン④を押します。

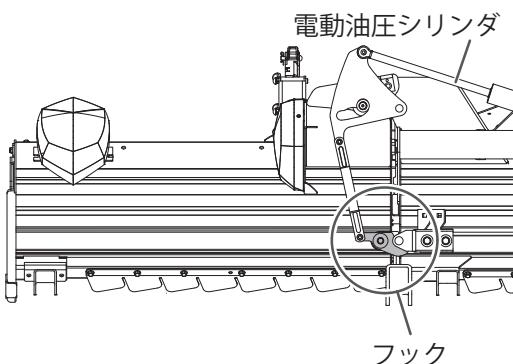
取扱上の注意

- 緊急停止する場合はカルコンのいずれかのボタンを押してください。どのボタンを押しても緊急停止します。
- 操作時は作業機が完全に停止するまで必ず目視にて確認してください。

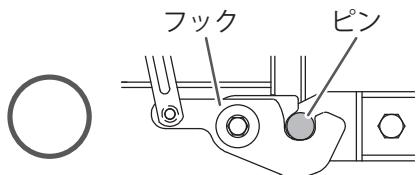
- ・作業機を開いたときはフックがピンにかかっているか確認してください。
- ・クラッチ部への泥、草などの噛み込みにより作業機がスムーズに閉じない場合があります。その場合は爪軸を回転させた後、再度閉じる操作を行ってください。
- ・作動を完了させるため、作業機の動きが止まつても作動を示すブザー音が止まるまで必ず待ってください。
作動を途中で止めた場合（ランプが点滅）は、他の操作ができません。
再度操作し作動完了してから操作してください。

お知らせ

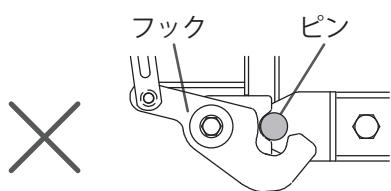
- ・「とじる」ボタン、または「ひらく」ボタンは押し続けなくても作業機は作動します。
- ・作業機を開閉するとエプロン加圧は自動的に解除されます。
開閉後エプロン加圧を行う場合はエプロン加圧を「入」にしてください。
- ・作業機を開閉すると土寄せロックは自動的に解除されます。
開閉後土寄せを行う場合は「土寄せ」ボタンを押してください。
- ・左右の作業機が開いた後も電動油圧シリンダが伸び、最後にフックがかかり、左右の作業機が固定されます。
確実にフックがかかっているのを確認して、作業を行ってください。
フックのかかりが不確実だと、クラッチやエプロンなどの連結部を破損する恐れがあります。



<フックが完全にかかっている状態>



<フックが完全にかかっていない状態>



- 何らかの原因でフックがかからない場合は、作業機を一度閉じ、その原因を除去した上で開いてください。

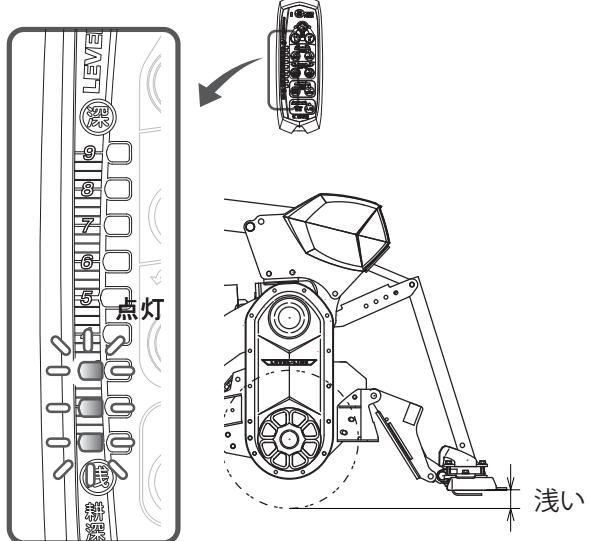
なお、クラッチの回転方向位置により、まれに作業機が開ききらない場合があります。

その場合は作業機を一度閉じ、爪軸をわずかに回転させた後、再度、開く操作を行ってください。

- 荒代時と仕上げ代時でもランプ点灯位置が異なります。荒代時の方がエプロンが持ち上げられやすいため深めに表示されます。

- 作業姿勢・土質・作業速度によりランプの点灯位置が変わることがあります。この場合ランプの位置を調整することができます。詳しくは「レベリングアイコン調整モード」(→ p.58) を参照してください。

(作業深さ浅めの場合)



作業深さの調整

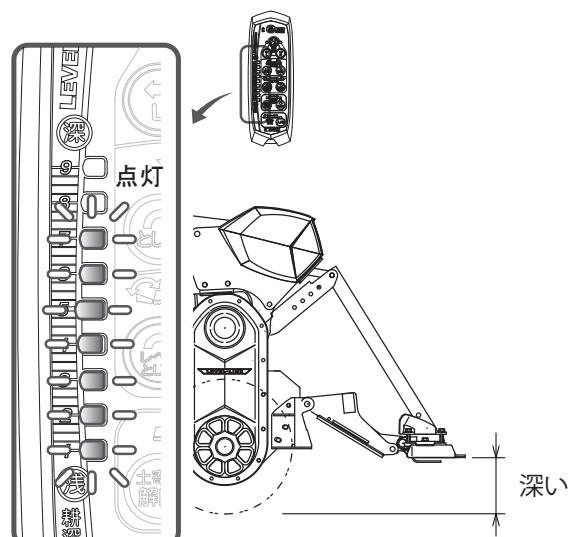
作業深さの規制は、トラクタのポジションコントロールレバー、またはオート装置で行ってください。オートの取付け方法は、オートの『取付要領書』を、使用方法はトラクタの『取扱説明書』を参照してください。作業深さの確認はカルコンのレベリングアイコンで行います。

深くなるにしたがい、ランプが点灯していきます。

取扱上の注意

- 作業深さの調整はトラクタ側で行ってください。
- レベリングアイコンのランプは直接の深さを表していません。作業機が水平のとき中央付近の緑ランプが標準作業深さの目安となります。点灯位置は、作業機の姿勢・土質・作業速度によって異なるため、あくまで目安としてください。

(作業深さ深めの場合)



オート装置と深さ

作業機の深さを一定にするトラクタのオート装置を調整することで、安定した代かきを行うことができます。

荒代後の仕上げ代

- 土塊が小さくなるとエプロンの位置が下がり、耕深は深くなる傾向があります。このため、仕上げ代は荒代時に比べ、オートダイヤルを少し浅めに調整します。

作業速度

- 速度を上げるときはエプロンが上がり、耕深は浅くなる傾向があります。このため、オートダイヤルを少し深めに調整します。

エプロン加圧

- エプロン加圧をONにするとエプロンが下がり、耕深は深くなる傾向があります。このため、オートダイヤルを少し浅めに調整します。

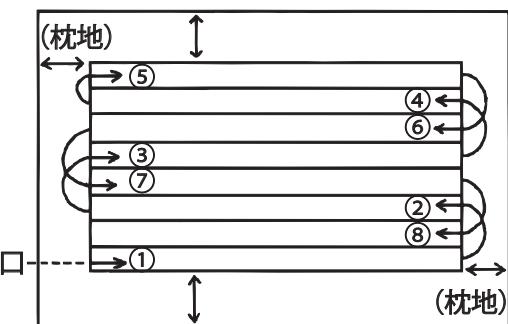
土質

- 土塊の大きい粘土質の場合、エプロンが上がり、耕深は浅くなる傾向があります。このため、オートダイヤルを少し深めに調整します。
- 土塊の小さい砂質の場合、エプロンが下がり、耕深は深くなる傾向があります。このため、オートダイヤルを少し浅めに調整します。

代かき作業

代かきの作業は、土の移動を少なくするために急旋回を避けて、一畝おきに行うのが一般的です。

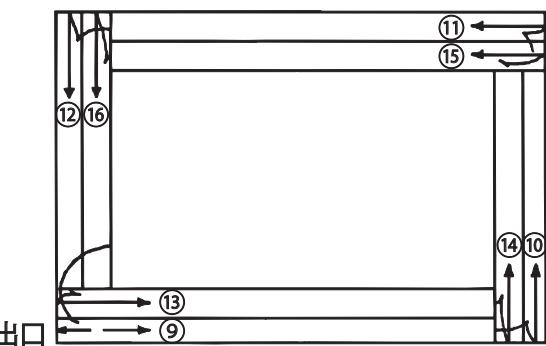
①旋回用の枕地として、2行程分の作業幅を残し、また側面も2行程分の作業幅分を残して代かきを始めます。②③④とは1行程分の作業幅を残して、旋回半径を大きくして1畝おきに往復作業をしてください。⑤側方に2行程分の作業幅分を残して折り返し、残った⑥⑦⑧の畝の作業をします。



⑨⑩⑪⑫と畦際を回り耕します。

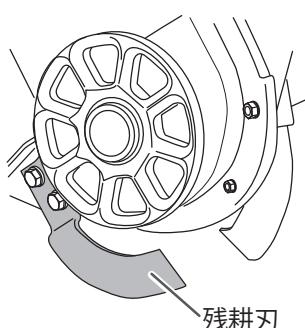
このとき畦際のEXレベラをたたみ作業をします。

⑬⑭⑮⑯とEXレベラを元のように広げて作業して終了となります。



取扱上の注意

- ・残耕刃は、圃場条件によって多くのワラや草を引っ掛けてしまうこともあります。この場合は、残耕刃を取外してください。また、残耕刃を取り外した場合は、ネジ山を保護するために M12 × 20 P1.5 のボルトを用意し、取付けてください（出荷時は M12 × 25 のボルトで残耕刃を付けています）。



残耕刃

EX レベラの使用

隣接耕などの場合に応じ、EX レベラを開閉することにより、作業機側方への泥水を押さえ、仕上がりをきれいにすることができます。開閉操作方法を確認してください。（→ p.55）

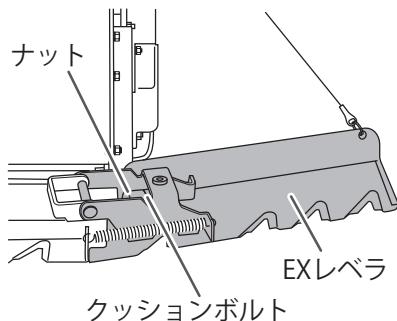
取扱上の注意

- ・代かき作業中に EX レベラの開閉操作は可能です。ただし、泥・草などの付着により開閉できない場合は、作業機を持ち上げた状態で操作してください。
- ・土寄せ作業の場合は、EX レベラを閉じてください。
- ・旋回時など、EX レベラを引っ掛けないように注意してください。

■上下角度の調整

出荷時は水平の状態です。EX レベラの上下角度は、代かき後の仕上がりをよくするために左右同じ角度に調整してください。

1 ナットを緩めます。



2 EX レベラを持ち上げた状態でクッションボルトを回して上下角度を調整します。

3 ナットを締めます。

エプロン加圧の使用

代かき作業の種類・土質や圃場の状態に応じて、エプロンで土を押さえることにより碎土・均平性能が向上します。荒代、強粘土でタイヤ跡が残りやすい圃場、また高速作業時などに有効です。エプロン加圧の操作方法を確認してください。（→ p.56）

火山灰土などの軽い土質で高低差のある圃場では、土が高いところで加圧を ON、土が低いところで加圧を OFF にすると代かき作業をしながら土を寄せることができます。ただし、前方に土や水を押し、平均性能が悪くなる場合があります。この場合は加圧を OFF にしてください。

取扱上の注意

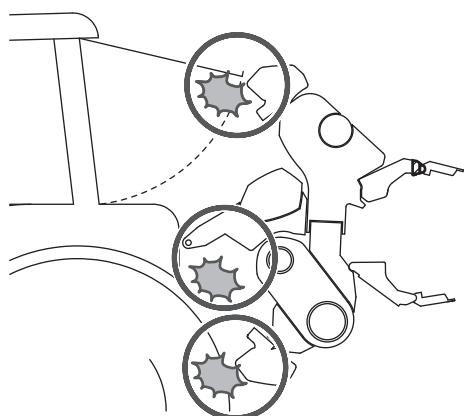
- ・作業機が両側開いている状態でのみ作動します。
- ・操作は作業機を持ち上げた状態で行ってください。

サイバーハンドの使用

中央作業部のサイバーハンドはトラクタのタイヤ跡を消す目的で、左右作業部のサイバーハンドは代かき中に作業機両端部の水やワラを寄せる目的で使用します。

取扱上の注意

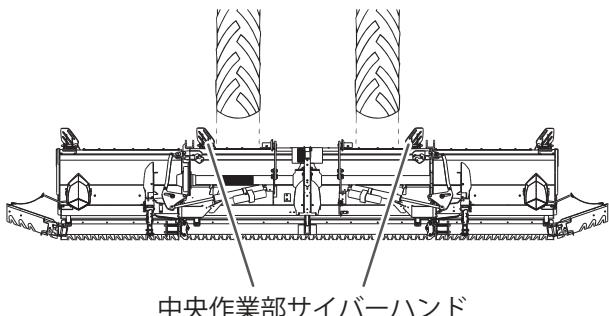
- ・作業機を急激に落下させないでください。破損の原因になります。
- ・サイバーハンドは左右の区別があります。左右に注意し誤って取付けないようにしてください。
- ・サイバーハンドを使用しない場合は格納状態または取外してください。
- ・サイバーハンドは必ずタイヤより外に取付けて使用してください。
- ・ロックピンや取付け穴の摩耗により、サイバーハンドが他の部分と干渉する場合は交換してください。
- ・サイバーハンドがトラクタ・タイヤ・補助車輪などと接触する場合は取外してください。



中央作業部のサイバーハンド

タイヤで外側に押し出された土を埋め戻すことができます。サイバーハンドが格納状態になっている場合は、作業状態にします。

サイバーハンドは上げ位置を使用します。
効果が不足する場合にのみ下げ位置で使用してください。



中央作業部サイバーハンド

取扱上の注意

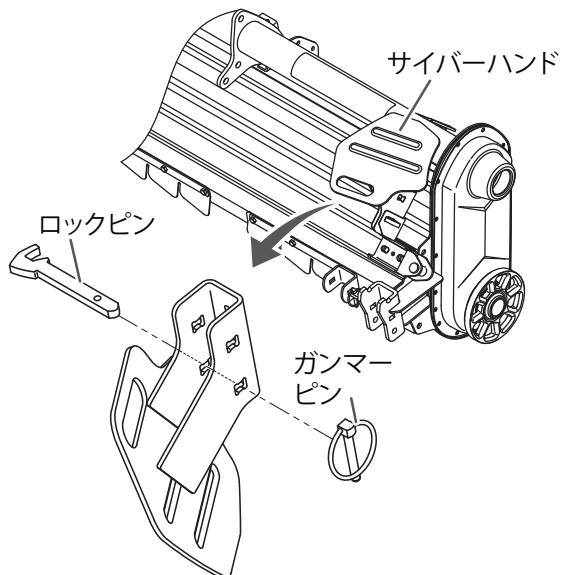
- ・サイバーハンド装着時は作業機をゆっくり上げ、トラクタに接触しないことを確認してください。
- ・作業機を上げたまま左右の水平調整レバーを手動操作し、トラクタとサイバーハンドが接触しないか確認してください。接触する場合は上げ規制をしてください。

お知らせ

- ・中央作業部のサイバーハンドは使用する前は、格納状態になっています。

1 サイバーハンドを支えて、ガンマーピンを外します。

(格納状態)



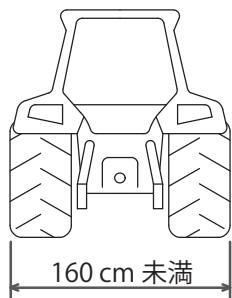
2 ロックピンを引き抜きます。

3 ブラケットに装着します。

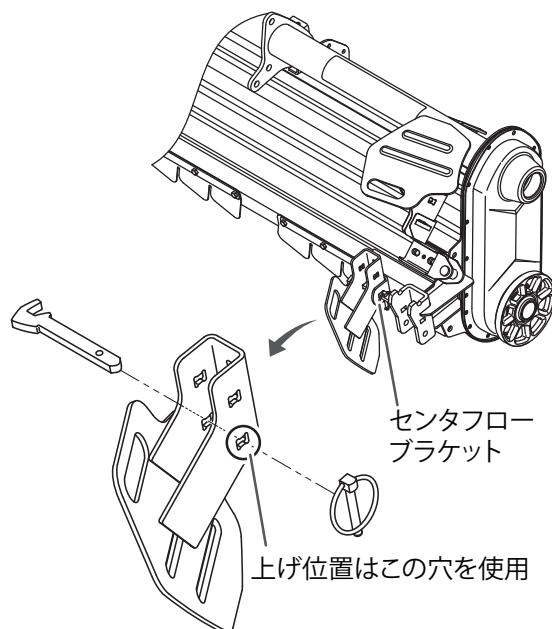
取扱上の注意

- サイバーハンドは左右の区別があるため向きに注意し、図のようにしてください。
- プレート部分が下側になるよう上下にも注意してください。

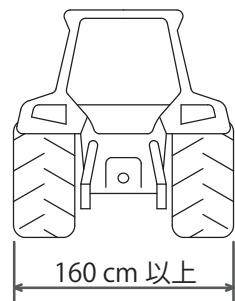
(タイヤ外幅が 160 cm 未満の場合)



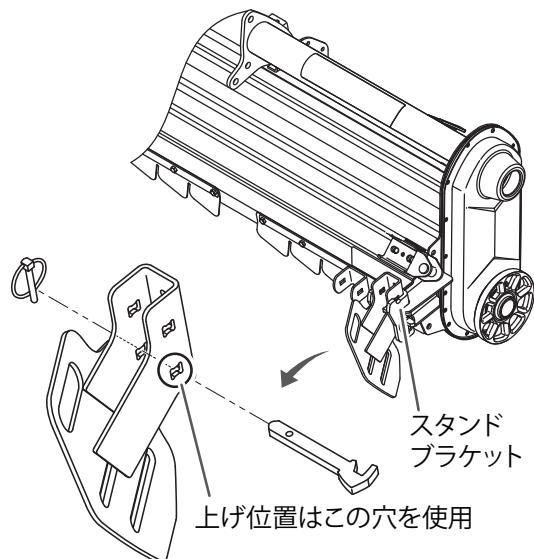
内側のセンタフローブラケットに取付けます。



(タイヤ外幅が 160 cm 以上の場合)

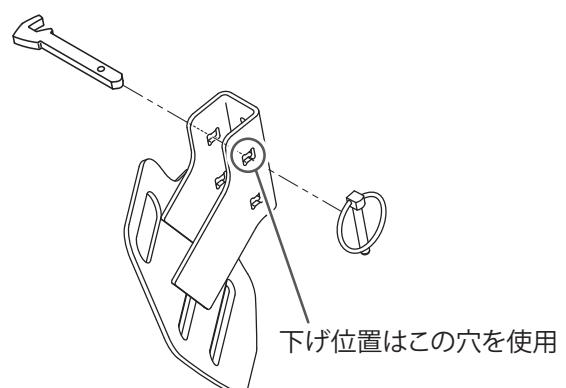


外側のスタンドブラケットに取付けます。



(効果が不足する場合)

サイバーハンドを下げ位置で使用します。



4 サイバーハンドを支えて、ロックピンを取付けます。

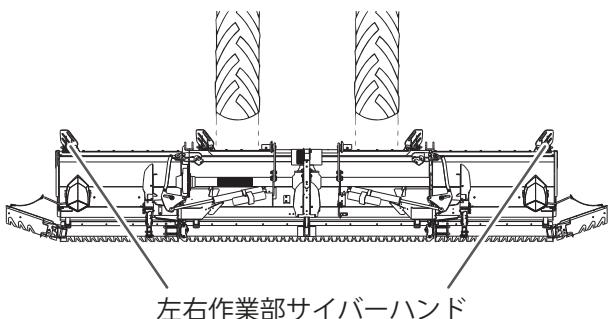
5 ガンマーピンを差します。

取扱上の注意

- サイバーハンドを使用しても十分にタイヤの跡が消えないことがあります。その場合は土寄せ(ストレート)爪位置の変更を行うか、代かき条件の変更を行ってください。(「代かき条件の変更」(→ p.76))

左右作業部のサイバーハンド

作業機両端から逃げようとする水やワラを寄せることができます。
装着方法は、中央作業部のサイバーハンドと同様です。



取扱上の注意

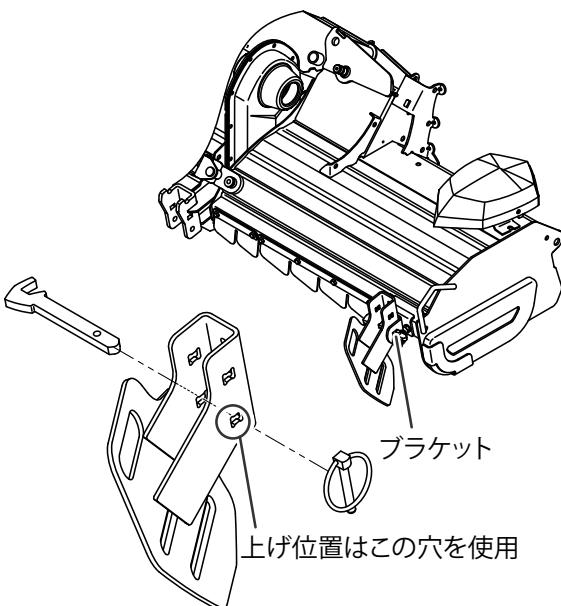
- 作業機を閉じるときはサイバーハンドがトラクタに干渉しないように注意してください。
- サイバーハンド装着時は作業機をゆっくり上げ、トラクタに接触しないことを確認してください。(作業機閉時)
- 作業機を上げたまま左右の水平調整レバーを手動操作し、トラクタとサイバーハンドが接触しないか確認してください。接触する場合は上げ規制をしてください。(作業機閉時)

お知らせ

- サイバーハンドは使用する前は、上げ位置になっています。

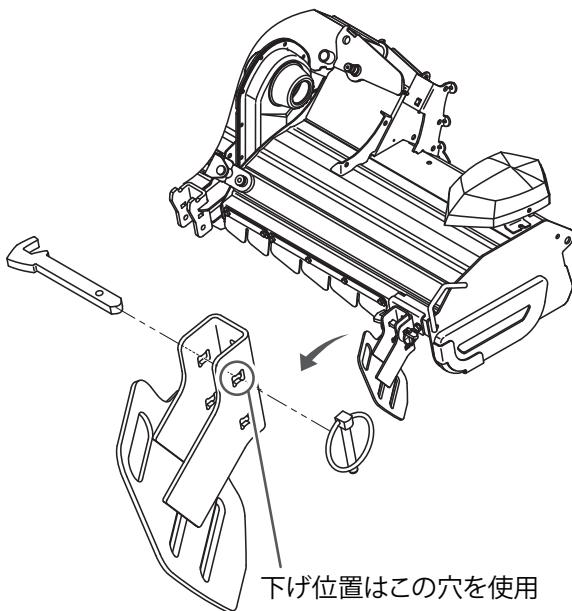
(通常の場合)

サイバーハンドを上げ位置で使用します。



(効果が不足する場合)

サイバーハンドを下げ位置で使用します。



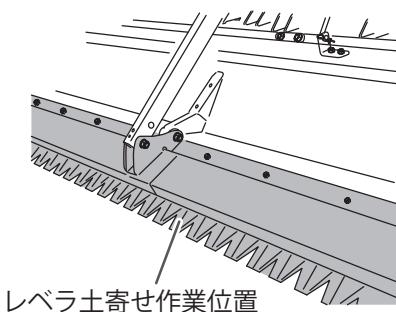
取扱上の注意

- サイバーハンドは左右の区別があるため向きに注意し図のようにしてください。
- プレート部分が下側になるよう上下にも注意してください。
- サイバーハンドを使用しない場合は、取外してください。

土寄せ作業

圃場に高低差がある場合は、代かき作業を行う前に、あらかじめ高いところの土を低いところへ引き寄せる土寄せ作業を行います。土寄せ状態切替え操作方法を確認してください。（→ p.55）

- 1** 作業を開始する前に、水面からの土の露出状態をよく見て、どのあたりの土をどこへ引き寄せるか、あらかじめ決めておきます。
- 2** 土寄せ作業を行う場合は、作業機を持ち上げ、レベラを土寄せ状態でロックします。



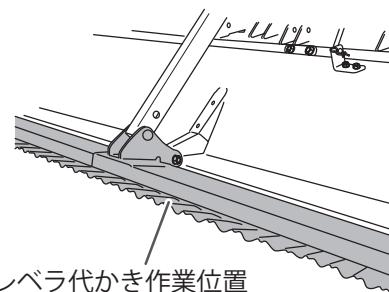
- 3** PTO レバーを中立にして、爪軸を回転させずに行います。
- 4** 土寄せは、土を少しづつ何回かに分けて引き寄せるようにします。

取扱上の注意

- 一度に多量の土を引き寄せるとき、土が移動しすぎて、逆に高低差ができる結果となる場合があります。
また、レベラなどが曲がる恐れもあります。
- 以下による土寄せは作業機の破損の原因となります。絶対にしないでください。
 - (a) 耕うんしていない固い土
 - (b) 水を入れていない圃場（乾田）
 - (c) バック（後進）
- 作業機を最下げでは土寄せしないでください。
レベラが耕盤に当たらないように少し上げてください。

- 5** 土寄せが終わり、代かき作業に入るときは、作業機を持ち上げて行います。

- 土寄せロックを解除し作業機を下げる（代かきを行う）とレベラが上がり代かき状態になります。



代かき爪の取付け

代かき爪が摩耗すると作業状態が悪くなるため、早めに交換してください。

以下の手順で、代かき爪を交換してください。

注意事項

△ 危険

| | |
|----------|---|
| ! | トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して油圧ロックを行い、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。 * 事故・大ケガにつながる恐れがあります。 |
|----------|---|

△ 注意

| | |
|----------|--|
| ! | 平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。 * ケガにつながる恐れがあります。 |
| ! | エプロン、レベラをしっかりと固定して、落下しないようにしてから行ってください。 * ケガにつながる恐れがあります。 |
| ! | ボルト、ナットを緩めたり、締付けたりする場合は、メガネレンチ (19) が確実に入った状態で作業してください。 * ケガにつながる恐れがあります。 |
| ! | 作業は丈夫な手袋を着用して行ってください。 * ケガにつながる恐れがあります。 |

取扱上の注意

- 爪の交換は、1本ずつ外して同じ形状、同じ刻印の爪を取付けてください。一度に全部外して交換すると、配列を誤る恐れがあります。
- 爪の配列を誤ると、異常な振動が発生したり、仕上がりが悪くなったりします。
- 新しく交換した場合は緩みやすいため、作業開始1時間で増締めをしてください。
- 爪を交換するときはナットの緩みを防ぐため、もともと組付いている焼ザガネを使用してください。

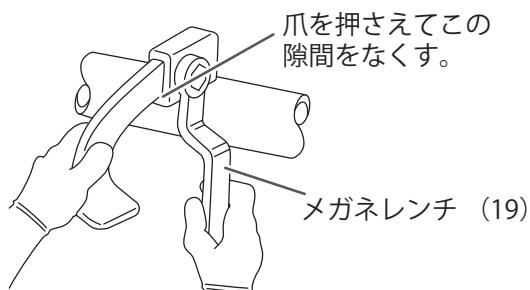
代かき爪の種類と本数

この作業機で使用する代かき爪の種類と本数を、下記に示します。

| 規格 | L/R | 使用本数 | | |
|----------------------------|---------------------|--------|--------|--------|
| | | TXF355 | TXF385 | TXF415 |
| 代かき爪 F1855 (黒) | L | 32 | 36 | 40 |
| | R | 32 | 36 | 40 |
| 土寄せ爪 GN1860 (白) | L | 8 | 8 | 8 |
| | R | 8 | 8 | 8 |
| 取付け ボルト (焼ザガネ 含む) | M12 × 35 P1.5 8T | 80 | 88 | 96 |

代かき爪の取付け

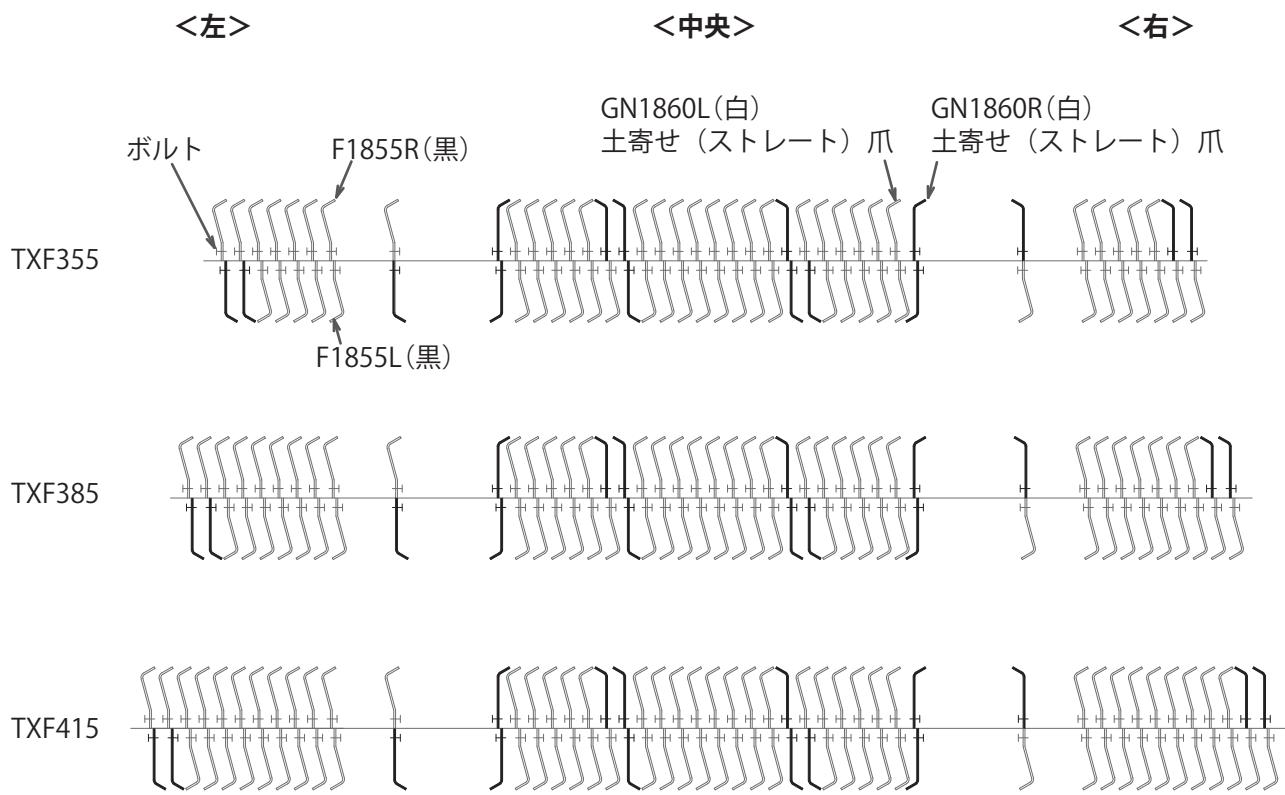
代かき爪の取付けは、作業幅により異なります。爪配列図を参考に、間違いのないように取付けてください。



- 1 メガネレンチ (19) を使用して締付トルク 100 ~ 110 N・m で締付けます。
- 400 mm の長さのメガネレンチであれば先端に約 25 kgf の力をかけて締めてください。

爪配列図

本図は作業機後方より見た図で、T印は爪取付けボルトの向きを示します。



取扱上の注意

- 各爪軸の両端付近のボルトは、締付けやすくするため、一部逆向きになっています。

使いかた

代かき爪の取付け

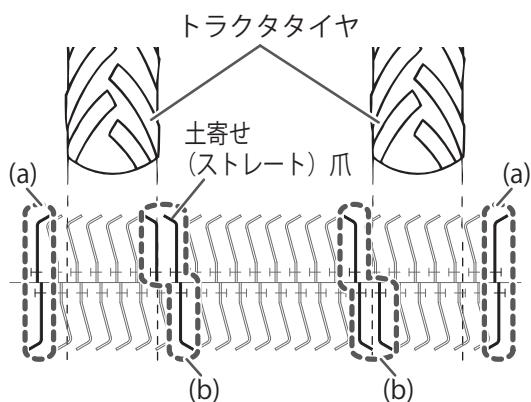
土寄せ（ストレート）爪位置の変更

トラクタのタイヤを挟むように内側に3本、外側に1本のタイヤ向き土寄せ（ストレート）爪が配置されています。

トラクタによりタイヤトレッドが異なります。タイヤ位置が違っても土寄せ（ストレート）爪が一本でもタイヤを挟むような位置にあればタイヤ跡の埋め戻し効果が得られます。爪の取付け位置を変え、下図の位置関係にできればさらに埋め戻し効果は大きくなります。

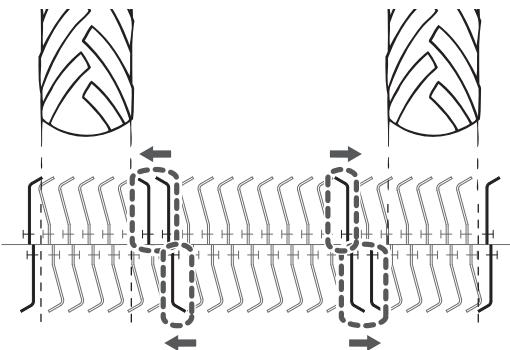
取扱上の注意

- センタ作業部爪軸の両端各2本の爪位置(a)は変更しないでください。性能低下または作業機の破損の恐れがあります。
- タイヤ内側の土寄せ（ストレート）爪取付け位置を変更する場合は、下図に示した3本の爪(b)を同時にに行ってください。



タイヤトレッドが極端に広い場合

タイヤトレッドが極端に広い場合



お知らせ

- サイバーハンドで表面の土を移動し、土寄せ（ストレート）爪で芯部の土を移動します。組合せて使うことでより均平な代かきが可能になります。

代かき条件の変更

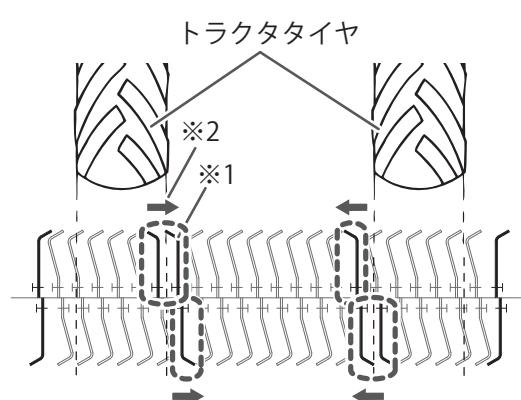
作業機の姿勢を確認してください。

作業中極端に前上がりであれば、サイバーハンドが十分土に入りきらず土を寄せられないことがあります。

条件によっては、サイバーハンド、土寄せ（ストレート）爪位置の変更を行っても、タイヤ跡が残る場合があります。

下表を参考にして変更を行ってください。

| 土の状態 | 症状 | 対応方法 |
|--------------------|---------------------------|---------------|
| 水が多い | 土が移動しにくくなる。 | 水を増やしてください。 |
| 耕深が浅い | タイヤ跡に寄せる十分な量の土を確保できにくくなる。 | 耕深を深めにしてください。 |
| 十分に碎土されていない、土塊が大きい | 横方向への土の移動ができにくくなる。 | 車速を落としてください。 |



お知らせ

- タイヤ側方に1本でもあれば効果があります。（*1）
- 効果をさらに上げるために取付けを変更してください。（*2）

保守・点検

作業機本来の性能を、十分にまた長期間にわたって発揮させるためには、定期的な保守・点検が必要です。また、故障を未然に防ぐため、作業機の状態を常に知っておくことも大切です。

注意事項

⚠ 危険



必ず実行 作業機をトラクタに装着して点検を行う場合は、トラクタのエンジンを止め、駐車ブレーキをかけてから行ってください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行 作業機を地面に降ろしてから行ってください。

作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、トラクタの駐車ブレーキをかけ、エンジンを停止して油圧ロックを行い、台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにしてから行ってください。

* 事故・大ケガにつながる恐れがあります。

⚠ 注意



必ず実行 平坦で十分な広さがあり、地盤のしっかりした場所で行ってください。

* ケガにつながる恐れがあります。



必ず実行 作業機は完全に開くかまたは閉じてください。

* 途中で止めると事故・ケガにつながる恐れがあります。

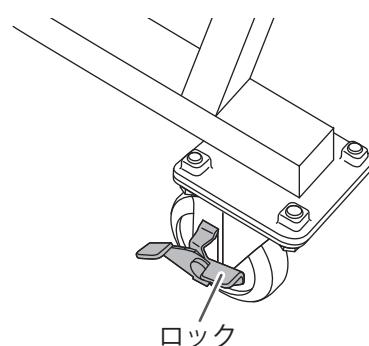
保守・点検の準備

トラクタに装着しての場合

- 1 トラクタを平坦な広い場所に置きます。
- 2 エンジンを止め、駐車ブレーキをかけます。
- 3 作業機を地面に下ろしてから行います。
 - ・作業機を持ち上げた状態で点検する必要がある場合は、油圧ロックを行ってください。
- 4 台などを作業機の下に置き、作業機が落下しないようにします。

作業機単体での場合

- 1 作業機を平坦な広い場所に置きます。
- 2 キャスタースタンドのロックを行います。



使いかた

保守・点検

保守・点検一覧表

| No. | 作業項目 | 周期 | | | | | | 参照 ページ | |
|---------------------|-----------------------------------|-------|------------|-------------|-----|-----|-----------------------------------|-----------|--|
| | | 新品の場合 | | | 作業前 | 作業後 | 150時間 ごと または シーズン 終了後 | | |
| | | 使い始め | 1時間 使用後 | 50時間 使用後 | | | | | |
| 1 | オイル漏れの点検 (ギヤーケース、チェンカバー) | ○ | | | ○ | | ○ | p.79 | |
| | オイルの交換 (ギヤーケース、チェンカバー) | | | ○ | | | ○ | p.79 | |
| | オイルシール・パッキンの点検 (ギヤーケース、チェンカバー) | | | | | | ○ | p.79 | |
| 2 | 各部のボルト・ナットの点検 | | ○ | | ○ | ○ | | p.80 | |
| 3 | グリスアップ・塗布・注油 | | | | | | | p.81 | |
| ① ジョイント | | | | | | | | | |
| (1) グリスニップル | | | | | | | | | |
| (2) スライド | | | | | | | | | |
| (3) ノックピン | | | | | | | | | |
| (4) シャフト | | | | | | | | | |
| ② 入力軸 | | | | | | | | | |
| ③ 折りたたみ支点 | | | | | | | | | |
| ④ シリンダアーム部 | | | | | | | | | |
| ⑤ スイングアーム S | | | | | | | | | |
| ⑥ カムブラケット | | | | | | | | | |
| ⑦ フック部 | | | | | | | | | |
| ⑧ ギヤーリンク | | | | | | | | | |
| ⑨ オートヒッチアームのレバー、フック | | | | | | | | | |
| ⑩ 支点摺動部 | | | | | | | | | |
| 4 | ジョイントのノックピンの点検 | | | | ○ | | | p.84 | |
| 5 | 空転による動作確認 | | | | ○ | | | p.84 | |
| 6 | ハーネスの点検 | | | | ○ | | ○ | p.84 | |
| 7 | スロープローヒューズ | | | | ○ | | ○ | p.84 | |
| 8 | 作業機の水洗い | | | | | ○ | | p.85 | |
| 9 | 代かき爪の点検 | | | | ○ | ○ | | p.85 | |
| 10 | 無塗装部へのサビ止め | | | | | ○ | | p.86 | |
| 11 | 警告表示ラベルの点検 | | | | ○ | | ○ | p.86 | |
| 12 | オイルシールの組替え（整備時など） | | | | | | ○ | p.86 | |
| 13 | 消耗品の早期交換 | | | | | | ○ | p.86 | |

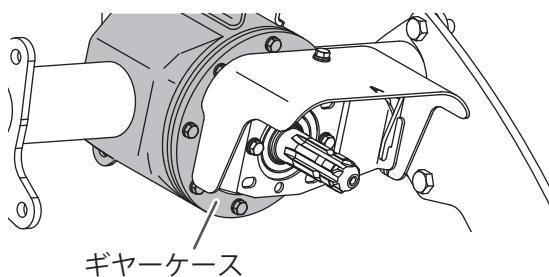
作業内容

オイル漏れの点検

工場出荷時に給油しています。
オイル漏れの確認を行い、オイル交換時期まで使用してください。

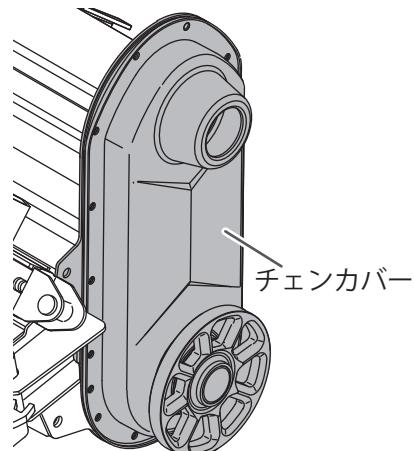
■ギヤーケース

- 1 周囲からオイル漏れがないか確認します。
(オイルシール、パッキン、オイルキャップなど)



■チェンカバー

- 1 周囲からオイル漏れがないか確認します。
(オイルシール、パッキン、オイルキャップなど)



オイルの交換

△注意

!
オイル交換を行うときは、必ず別の容器に受けてから行ってください。
必ず実行 * 地面への垂れ流しや川への廃棄は、環境汚染につながります。

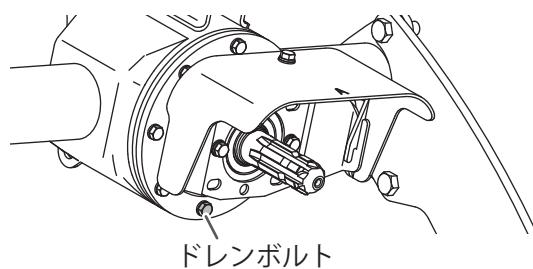
■ギヤーケース

| 使用オイル | オイル量 |
|------------|-------|
| ギヤーオイル #90 | 1.5 L |

取扱上の注意

- ギヤーケース部の取付ボルトはコーディングボルトです。オイル交換時は取外したドレンボルトに液状ガスケット（スリーボンド 1208 相当品）を塗布するか、純正品の新品に交換してください。

- 1 ドレンボルトを外して古くなったオイルを抜きます。



- 2 取外したドレンボルトに液状ガスケット（スリーボンド 1208 相当品）を塗布したもの、または新品のコーディングボルトを取付けます。

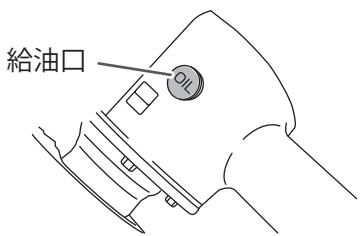
取扱上の注意

- 取外したボルトを再利用する場合は、液状ガスケットを塗布してください。

使いかた

保守・点検

- 3** 規定量のギヤーオイルを給油口から入れます。



- 4** 周囲からオイル漏れがないか確認します。
(オイルシール、パッキンなど)

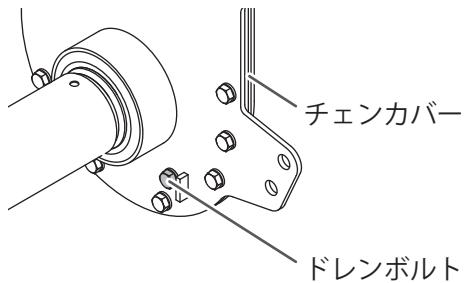
| 部品名 | 規格 | コード |
|-----------------|---------|---------|
| コガタコーディングボルト 2P | M8 × 20 | 4600006 |

■ チェンカバー

| 使用オイル | オイル量 |
|------------|-------|
| ギヤーオイル #90 | 0.6 L |

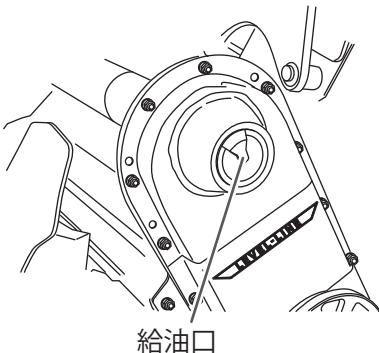
作業機をトラクタに装着したまま、またはキャスター スタンド格納状態で行います。

- 1** ドレンボルトを外してドレンボルトを外して古くなったオイルを抜きます。



- 2** オイルを抜いたら、ドレンボルトをしっかりと締付けます。

- 3** ギヤーオイルを給油口から規定量入れます。

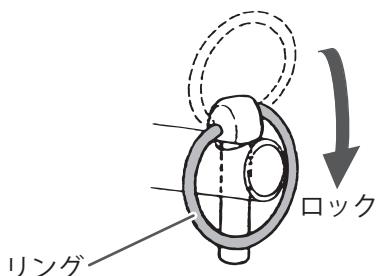


- 4** 周囲からオイル漏れがないか確認します。
(オイルシール、パッキンなど)

各部のボルト・ナットの点検

以下のことを確認してください。

- 各部のボルト・ナット類に緩みはないか、増締めしながら確認
(特に、耕うん爪取付けボルトは緩みやすいため、点検が必要です。)
- ピン類はすべてそろっているか
- リンチピンのリングが確実にロックされているか



グリスアップ・塗布・注油

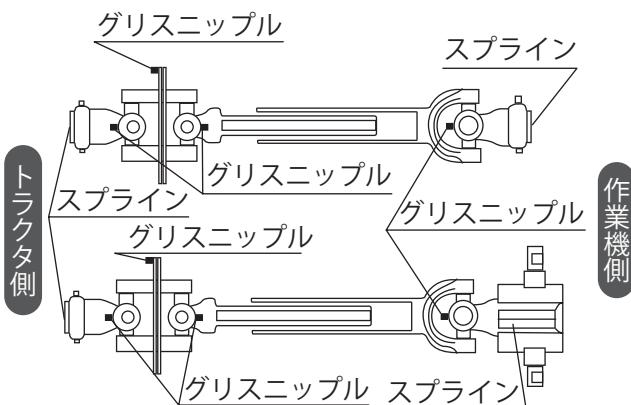
取扱上の注意

- グリスはエピノックグリース AP(N)2 (ENEOS (株)) または同等品 (リチウムグリース) を使用してください。

■ジョイント

＜毎作業前＞

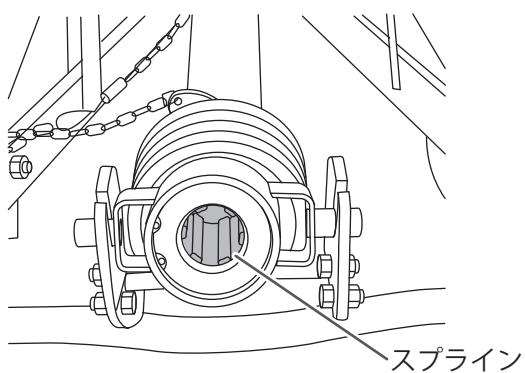
- 1 ジョイントの各部 (グリスニップル、スプライン) にグリスアップします。



- 2 スプライン部を掃除しグリスを塗布します。

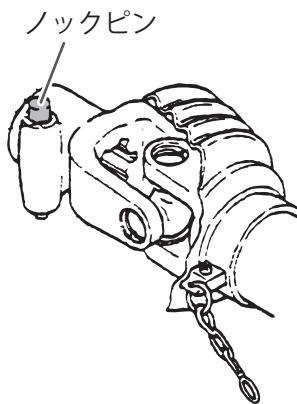
取扱上の注意

- スプライン部がサビたり傷ついたりすると、装着できなくなります。ゴミのかからないようにしてください。

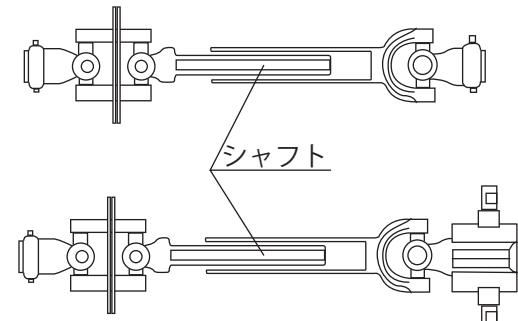


＜毎作業後＞

- 1 ノックピンへグリスを塗布します。



- 2 ジョイントは分解して、シャフト部にグリスを塗布します。

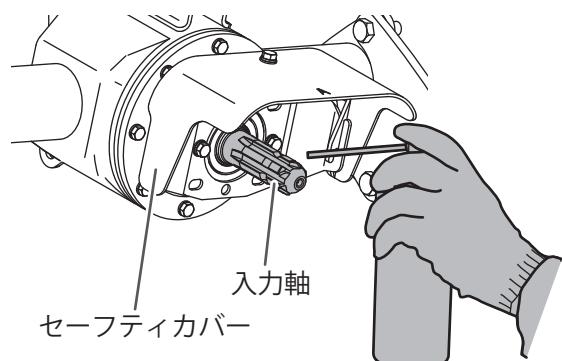


■入力軸

作業機の入力軸にグリスを塗布します。

取扱上の注意

- 格納する場合は、キャップをかぶせてサビないようにしてください。
- 次回、トラクタに装着の際は、キャップを取り外してから使用してください。

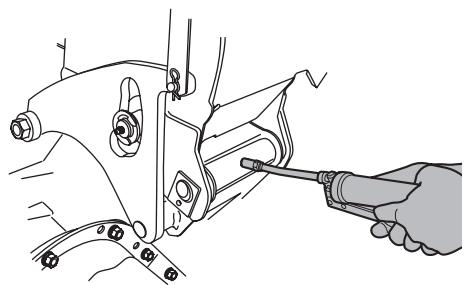


使いかた

保守・点検

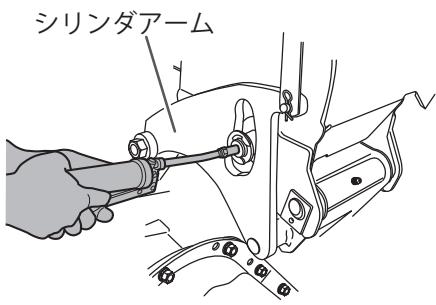
■ 折りたたみ支点

折りたたみ支点のグリスニップルにグリスを注入します。(左右各1か所)



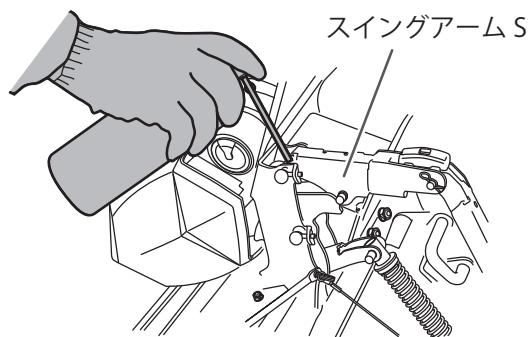
■ シリンダーアーム部

シリンダーアーム部のグリスニップルにグリスを注入します。(左右各1か所)



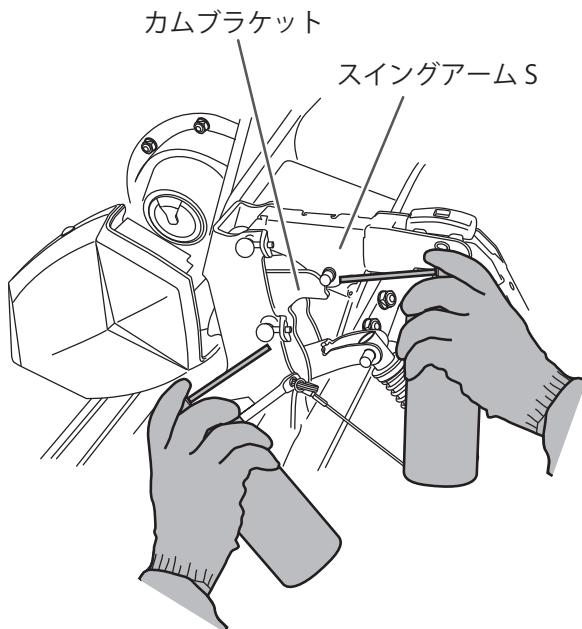
■ スイングアーム S

スイングアーム S の支点にグリスを塗布します。



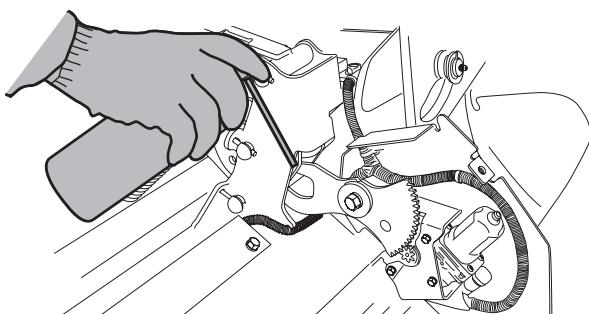
■ カムブラケットとスイングアーム S

カムブラケットの回動支点部と、スイングアーム S との接触部にグリスを塗布します。



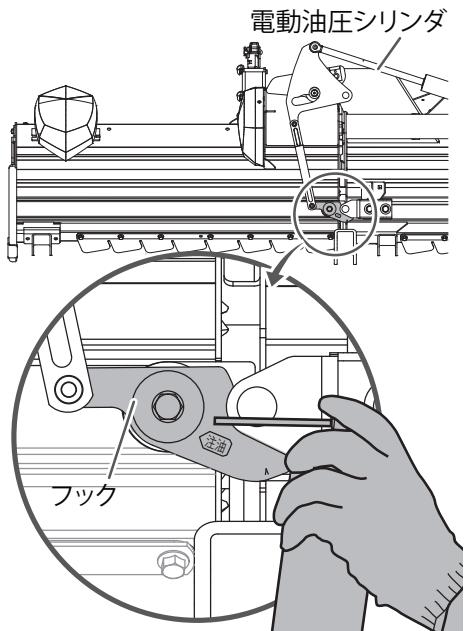
■ カムブラケットとギヤーリンク

カムブラケットとギヤーリンクとの接触部にグリスを塗布します。



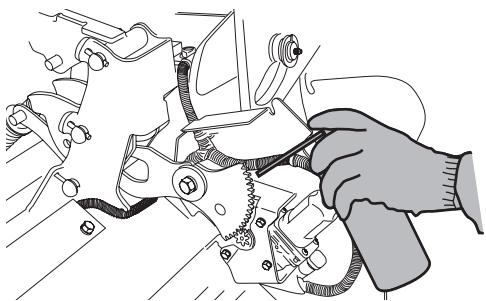
■ フック部

フック支点部にグリスを塗布します。

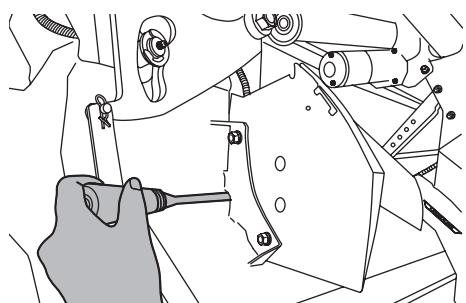


■ ギヤーリンク

ギヤーリンクにグリスを塗布します。

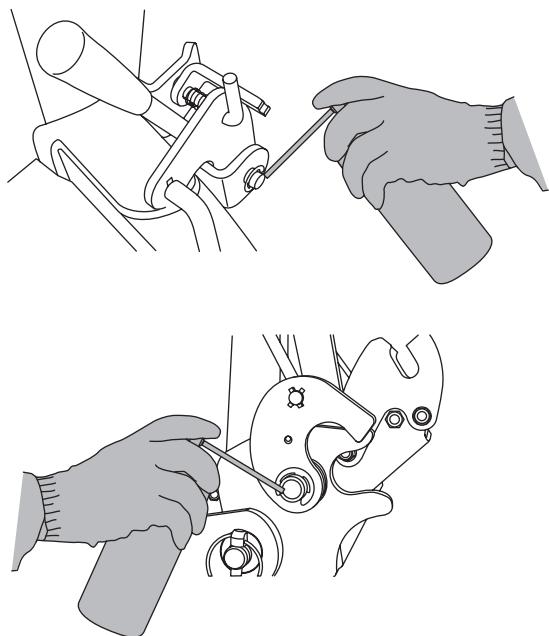


- カバーを取り外して作業を行ってください。
- カバーの取付けはボルト 1 本のため、カバーを取り外す場合はボルトを外し、下図のようにマイナスドライバーなどでカバーの裏側から押し下げるよう丁寧に作業機から取外します。無理に取外さないでください。



■ オートヒッチアームのレバー、フック

オートヒッチアームのレバーとフックの支点部分にオイルを適量塗布します。



■ 支点摺動部

以下支点摺動部にグリスを適量塗布します。

- シリンダアーム溝
- シリンダアームシャフト部根元と先端
- シリンダのボトムのピンと目玉
- 土寄せモータギヤー（※ 1、※ 2）
- ストッパE
- EX レベラのギヤー（※ 1）
- センサーム部
- エプロンヒンジ部
- レベラヒンジ部
- アームガード
- ロッドシテン
- エプロンロックピン
- レベラレンケツピン
- EX レベラヒンジ

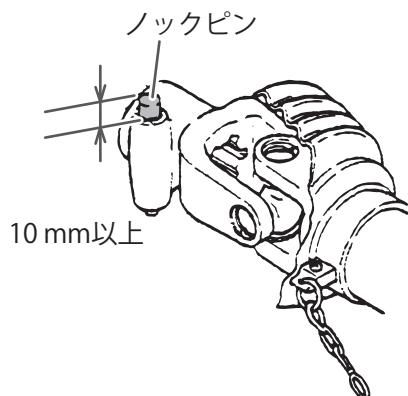
※ 1 カバーを取り外して作業を行ってください。

※ 2 カバーの取付けはボルト 1 本のため、カバーを取り外す場合はボルトを外し、もう一方のカバーの穴を丁寧に作業機から取外します。無理に取外さないでください。

ジョイントのノックピンの点検

トラクタ側と作業機側のノックピンについて、以下のことを確認してください。

- ・ノックピンが正確に軸溝にはまっているか。
- ・ピンの頭が **10 mm 以上** 出ているか。



空転による動作確認

空転させ、各部から異音や異常振動などが発生していないことを確認してください。

ハーネスの点検

⚠ 警告



ハーネスの損傷、端子・接続部の緩みは直ちに交換、修理してください。

必ず実行 * ショートして火災につながる恐れがあります。



ハーネスの周辺部は、作業前に清掃してください。

必ず実行 * ワラくず、枯れ草、燃料の付着があると火災につながる恐れがあります。

以下を確認してください。

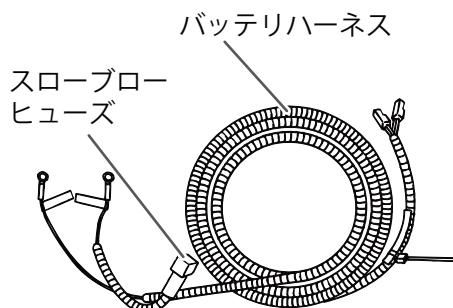
- ・ハーネスやカプラの損傷がないこと
- ・ハーネスの固定に緩みがないこと
- ・ハーネスの可動部への接触、挟み込みがないこと
- ・バッテリターミナルの端子・カプラの接触部に緩みがないこと

スロープローヒューズ

- ・スロープローヒューズは、ショートした場合に配線を保護するためのものです。
- ・もし切れた場合は、速やかに購入された販売店に相談し、切れた原因の確認と処置を行ってください。
- ・交換するときは、必ず純正部品を使用してください。

| 部品名 | 品目コード |
|-------------------|---------|
| スロープローヒューズ 規格 60A | 7662494 |

- ・ヒューズの交換は、必ずエンジンを停止し、マスト部の作業機カプラ 3P (白) を取外してコントローラの電源を切った上で行ってください。
- ・交換後は元通りにカバーを閉じてください。



- ・トラクタの外部電源に接続してショートした場合、トラクタ側のヒューズ交換が必要です。販売店にお問い合わせください。

作業機の水洗い

作業後には、作業機を水洗いし、ゴミや汚れを取り除きます。水洗いが終了後、水分を拭き取ってください。

高圧洗車機を使って水洗いする場合は、十分注意してください。

高圧洗車機の使用方法を誤ると、人をケガさせたり、作業機を破損・損傷・故障させたりすることがあります。高圧洗車機の『取扱説明書』やラベルに従つて、正しく使用してください。

⚠ 注意



高圧洗車機で水洗いする場合

必ず実行
作業機を損傷させないように洗車ノズルは拡散にし、2m以上離して洗車してください。

* 直射や不適切に近距離から洗車すると作業機の破損・損傷・故障や事故につながる恐れがあります。

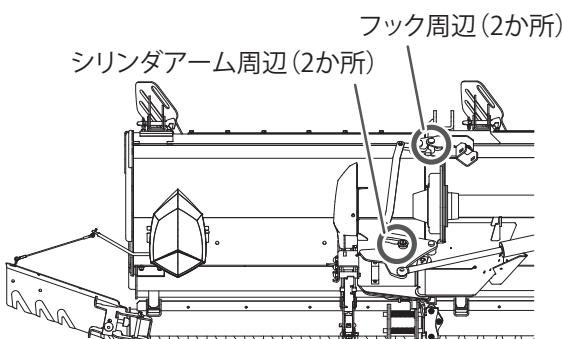
例)

- ・シール・ラベルの剥がれ
- ・樹脂類（カバーなど）の破損
- ・塗装・メッキ皮膜の剥がれ



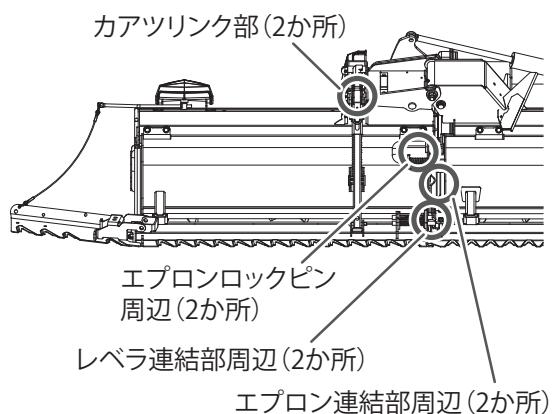
取扱上の注意

- ・下図の丸で囲んだ部分は、特にきれいに清掃してください。



- ・下図の丸で囲んだ部分は、特にきれいに清掃してください。

- ・カツリンク部には、スムーズに作動するようグリスを塗布してください。



- ・土寄せモータ部・加圧モータ部・EX レベラモータ部のカバーを取り外して、カバー内部も清掃してください。

- ・カバー内部の清掃には、高圧洗車機は使用しないでください。
- ・清掃後はギヤーおよび摺動部にグリスを塗布してください。

代かき爪の点検

「代かき爪の取付け」(→ p.74) に従つて、以下のことを確認してください。

- ・取付けボルトの緩みがないか。
- ・代かき爪が摩耗していないか。
- ・代かき爪が変形していないか。

異常が見つかった場合、新しいものと交換してください。

無塗装部へのサビ止め

無塗装部へは、サビ止めのためのグリスを塗布してください。

取扱上の注意

- ・ グリスはエピノックグリース AP(N)2 (ENEOS (株)) または同等品 (リチウムグリース) を使用してください。
- ・ クラッチ部には稻の生育に影響の少ない直物性油脂 (サラダ油) を塗布してください。

警告表示ラベルの点検

「警告表示ラベルと機番プレート」(→ p.12) に従って、警告表示ラベルを点検してください。

- ・ 損傷や破損していないか
- ・ 汚れていないか
- ・ 剥がれていないか

異常が見つかった場合、新しいものと交換してください。

オイルシールの組替え

整備などの目的でギヤーケースなどを分解する場合は、必ず新しいオイルシール、パッキン、液状ガスケットと交換してください。

新しいオイルシール、パッキン、液状ガスケットに交換しないと、オイル漏れの原因になります。

液状ガスケットは、スリーボンド 1208 相当品を使用してください。

消耗品の早期交換

「消耗品一覧」(→ p.87) に記載の消耗品を点検してください。

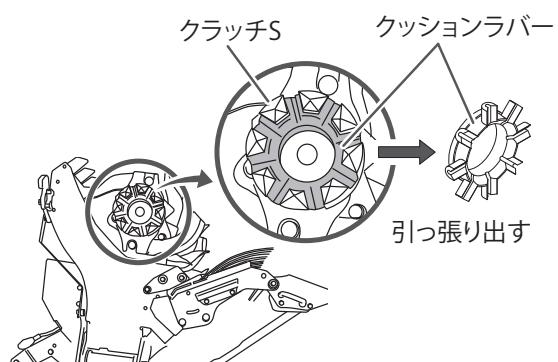
必要に応じて、新しいものと交換してください。
早期の交換をお勧めします。

■ クッションラバー

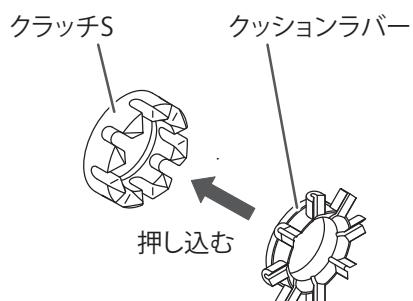
クラッチ部から発生する音を抑えるためにクラッチの噛み合い部にクッションラバーを設定しています。

クッションラバーのへたりや摩耗により音が気になる場合は新品と交換してください。

取外しはクッションラバーを引っ張り、取外してください。



取付けはクッションラバーとクラッチ S の段差部分がはまり合うまでクッションラバーを押し込んでください。



消耗品一覧

消耗部品は早めの交換をお勧めします。

当社では、お客様に迷惑が掛からないよう消耗部品を用意しておりますが、シーズンによっては特定の部品が品薄になる場合があります。シーズン到来前の準備として、消耗部品の事前確認をして、早めの交換をお勧めします。

| 部品名 | 部品コード | 1台分個数 | | | | |
|--|--|---------|---------|--------|------|------|
| | | TXF355 | TXF385 | TXF415 | | |
|  ジクツキシール | 9350015 | 6 | 6 | 6 | | |
| | 4910314 | 4 | 4 | 4 | | |
|  ローラーチェン | 9440092 | 1 | 1 | 1 | | |
|  チェンケースシューズ | 4600020 | 1 | 1 | 1 | | |
|  サポートカバー L | 4600030 | 1 | 1 | 1 | | |
|  サポートカバー R | 4600031 | 1 | 1 | 1 | | |
|  クラッチ C | 4600021 | 2 | 2 | 2 | | |
|  ボアプラグ | 9650002 | 2 | 2 | 2 | | |
|  クラッチ S | 4600024 | 2 | 2 | 2 | | |
|  クッションラバー | 4600025 | 2 | 2 | 2 | | |
|  ツメ | シロカキツメ | F1855L | 45732 | 32 | 36 | 40 |
| | | F1855R | 45731 | 32 | 36 | 40 |
|  | 土寄せ (ストレート) ツメ | GN1860L | 67942 | 8 | 8 | 8 |
| | | GN1860R | 67941 | 8 | 8 | 8 |
|  | ツメボルト ASSY (ボルト+ナット (SW付)) | | 4510132 | 80 | 88 | 96 |
| | (ツメボルト焼ザガネ ASSY) (ツメボルト ASSY+ 焼ザガネ) | | 4510131 | (80) | (88) | (96) |
|  | 整流フラップ | 2L | 4910541 | 1 | - | - |
| | | 2R | 4910542 | 1 | - | - |
| | | 3L | 4910543 | 1 | 2 | 1 |
| | | 3R | 4910544 | 1 | 2 | 1 |
| | | 4L | 4910545 | 2 | 2 | 3 |
| | | 4R | 4910546 | 2 | 2 | 3 |

| 部品名 | | 部品コード | 1台分個数 | | |
|---|-------------|----------------------|---------|--------|--------|
| | | | TXF355 | TXF385 | TXF415 |
|  | スプリングレーキ | 4970121 | 34 | 38 | 40 |
|  | レベラレーキ 100 | 4600082 | 14 | 14 | 16 |
|  | アームガード | 4600121 | 2 | 2 | 2 |
|  | ホゴシート | 4600040 | 2 | 2 | 2 |
|  | ロッドシテン | 4600117 | 2 | 2 | 2 |
|  | レベラ ブッシュ | カラー 14.5 x 22L40 (黒) | 4510081 | 4 | 4 |
| | | カラー 17 x 22L40 | 4510082 | 1 | 1 |
| | | ブッシュ 19 x 26L20.5 | 4510093 | 2 | 2 |
|  | レベラ連 結部 | レンケツピン 14-60 | 4600092 | 2 | 2 |
|  | | レンケツプレート IN | 4600090 | 2 | 2 |
|  | | レンケツプレート OUT | 4600091 | 2 | 2 |
|  | | レンケツウケ L | 4600080 | 1 | 1 |
|  | | レンケツウケ R | 4600081 | 1 | 1 |
|  | クッションボルト | 4600099 | 2 | 2 | 2 |
|  | ロックピン | 4600044 | 4 | 4 | 4 |
|  | ツヨセブラケット FL | 4600042 | 2 | 2 | 2 |
|  | ツヨセブラケット FR | 4600043 | 2 | 2 | 2 |

格納・運搬・保管

格納・運搬・保管するときは、作業機をきれいに清掃し、塗装できない箇所はサビ止めのためにグリスを塗ってください。

注意事項

△ 注意



キャスタースタンドで作業機を移動する場合は、平坦な広い場所で周囲に人がいないことを確認してください。

* 作業機が転倒し、事故・ケガにつながる恐れがあります。



キャスターおよびキャスタースタンドが損傷している場合は、直ちに修理・交換を行ってください。

* 作業機が転倒し、事故・ケガにつながる恐れがあります。



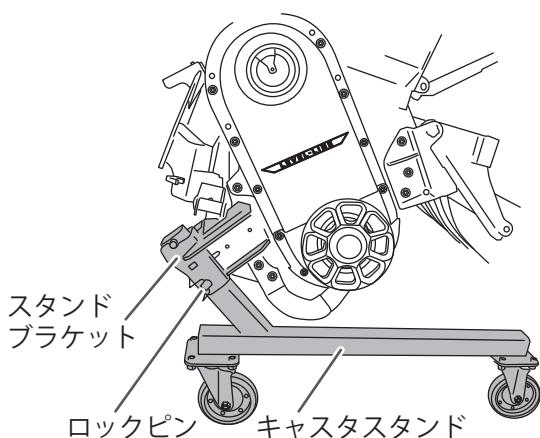
格納後は、みだりに子供などが触れないような処置をしてください。

必ず実行

* 事故・ケガにつながる恐れがあります。

取扱上の注意

- キャスタースタンドは、圃場内での使用や、圃場内への放置はしないでください。泥の侵入により回動しにくくなることがあります。また、泥が侵入して回動しにくくなった場合は、よく洗浄してグリスを塗布してください。



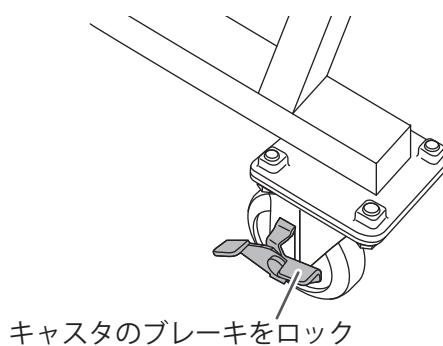
保管・格納

保管・格納するときは、作業機をきれいに清掃し、塗装できない箇所はサビ止めのためのグリスを塗ってください。（「作業機の水洗い」（→ p.85）、「無塗装部へのサビ止め」（→ p.86））

保管・格納場所は、雨や風があたらない、平らで硬いところを選んでください。

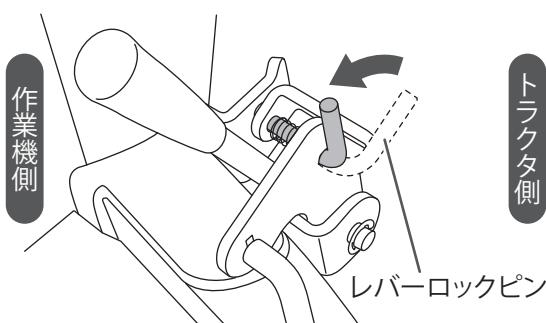
作業手順

- 機体が左右完全に折りたたんであることを確認します。
・屋外での長期保管は作業機の寿命を低下させます。
- 平坦で地盤が強い屋内に作業機を保管します。
- 移動が完了したら、キャスターのブレーキをロックします。



キャスターのブレーキをロック

- オートヒッチアームを作業機に取付けて保管する場合は、レバーロックピンを操作してレバーをロックします。



作業機側

トラクタ側

レバーロックピン

使いかた

格納・運搬・保管

電気配線図

マウントタイ160(a~q)

Ø4.5穴に挿入

※b~pはハーネスF

(カツ・レベラ)に付属

余分なハーネスを束ねる

ソクセンバンドRF250 2か所

ハーネスF(カツ・レベラ)

※耕幅により長さが異なるため注意

加圧モータ左

EXレベラモータ左

q

p

o

m

k

i

n

l

j

h

g

f

e

d

c

b

a

D

ソクセンバンド12か所

余分なハーネスを束ねる

加圧モータ右

余分なハーネスを束ねる

EXレベラモータ右

a

D

作業機が開閉時に引っ張られない

電動油圧シリンダ左

フレームパイプCOMPの長穴に
ハーネスを通す(2か所)

フレームパイプCOMP

マウントタイ170(X~Z)

Ø7穴に挿入

※セイギョボックスTXFに付属

ワイヤハーネスクランプ

マストベースL.COMPの
長穴にハーネスを通す

マストベース
L.COMP

ワイヤハーネスクランプ

Z

Y

X

マストベース
R.COMP

ソクセンバンド

A-A

B-B

ソクセンバンド

h(j)

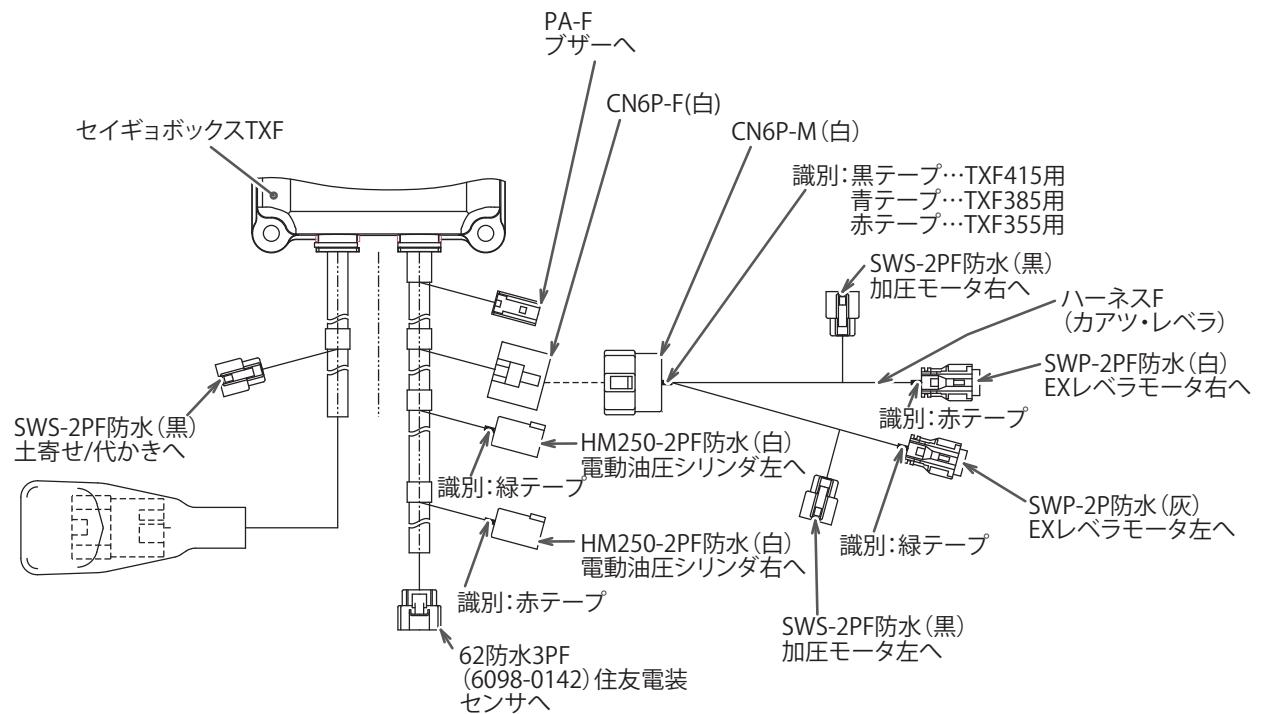
b(n)

d(p)

c(o)

C-C

D

コネクタ接続

主要諸元

各型式の主要諸元について記載しています。

| 型式 | 装着方法 |
|-----------------------------------|--|
| TXF-T-OS TXF-T-OL | JIS 標準 3P ヒッチはオートヒッチ、ジョイントは装備されていません（オートヒッチとジョイントは共用）。2台目用の作業機です。 |
| TXF-T-4S TXF-T-4SD TXF-T-4L | ロアリンク（左右）、トップリンクの3点とジョイントが同時に装着できる JIS 標準 3P ヒッチの4点オート装着方式です。 |
| TXF-T | トラクタへの取付けがワンタッチでできる JIS 特殊 3P オートヒッチ、A-2 形を採用しています。オートヒッチとジョイントはトラクタメーカー純正品を使用します。 |
| TXF-U、MU | トラクタへの取付けがワンタッチでできる JIS 特殊 3P オートヒッチ、B 形を採用しています。オートヒッチとジョイントはトラクタメーカー純正品を使用します。 |
| TXF-T-K -Y -I -M | JIS 標準 3P ヒッチで、各トラクタメーカーの純正ロータリと同様の取付けができます。オートヒッチとジョイントはトラクタメーカー純正品を使用します。 |
| TXF-S、-SC | トラクタへの取付けがワンタッチでできる JIS 特殊 3P オートヒッチ、A-1 形を採用しています。オートヒッチとジョイントはトラクタメーカー純正品を使用します。 |

| 型式 | | TXF355T-0S | TXF385T-0S | TXF415T-0S | | |
|------------------------|--------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--------------------------------------|--|--|
| 機体寸法 | 全長 (mm) | 1244 (927) | | | | |
| | 全幅 (mm) | 2160 (3575 : EX レベラ閉 4219 : EX レベラ開) | 2160 (3845 : EX レベラ閉 4669 : EX レベラ開) | 2160 (4145 : EX レベラ閉 4969 : EX レベラ開) | | |
| | 全高 (mm) | 1612 {1452 : サイバーハンド取外し時} (943) | | | | |
| 総質量 (kg) ^{注1} | | 468 | 487 | 510 | | |
| 適応 トラクタ | (KW) | 22.1 ~ 39.7 | 22.1 ~ 44.1 | 27.2 ~ 44.1 | | |
| | (PS) | 30 ~ 54 | 30 ~ 60 | 37 ~ 60 | | |
| 作用部型式 | | 爪式 | | | | |
| 標準耕幅 (cm) | | 347 | 375 | 405 | | |
| 標準作業速度 (km/h) | | 1.0 ~ 5.0 | | | | |
| 耕うん作業能率 (分 / 10a) | | 5 ~ 22 | 4 ~ 20 | 4 ~ 19 | | |
| 代 か き 爪 | 本数 (左・右) | F1855 GN1860 | 32・32 8・8 | 36・36 | | |
| | 爪軸回転速度 (rpm) | | 302 | | | |
| | 回転外径 (mm) | | 382 | | | |
| | 取付け方法 | | ホルダタイプ | | | |
| 駆動方法 | | 中央部サイドドライブ爪軸駆動 | | | | |
| 入力軸回転速度 (rpm) | | 540 | | | | |
| 装着方法 | | JIS 標準 3P O・I 形 (S ヒッチ) | | | | |

※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

() 内寸法は作業時の寸法を示す。

耕うん作業能率は効率 0.8 の計算値です。

注 1 : スタンド 18 kg 含む。

| 型式 | | TXF355T-4SD | TXF385T-4SD | TXF415T-4SD |
|------------------------|--------------|---|---|---|
| 機 体 寸 法 | 全長 (mm) | 1430 (927) | | |
| | 全幅 (mm) | 2160 (3575 : EX レベラ閉 4219 : EX レベラ開) | 2160 (3845 : EX レベラ閉 4669 : EX レベラ開) | 2160 (4145 : EX レベラ閉 4969 : EX レベラ開) |
| | 全高 (mm) | 1612 {1452 : サイバーハンド取外し時} (1074) | | |
| 総質量 (kg) ^{注1} | | 504 | 528 | 551 |
| 適応 トラクタ | (KW) | 22.1 ~ 39.7 | 22.1 ~ 44.1 | 27.2 ~ 44.1 |
| | (PS) | 30 ~ 54 | 37 ~ 60 ^{注2} | 37 ~ 60 |
| 作用部型式 | | 爪式 | | |
| 標準耕幅 (cm) | | 347 | 375 | 405 |
| 標準作業速度 (km/h) | | 1.0 ~ 5.0 | | |
| 耕耘作業能率 (分 /10a) | | 5 ~ 22 | 4 ~ 20 | 4 ~ 19 |
| 代 か き 爪 | 本数 (左・右) | F1855 GN1860 | 32・32 8・8 | 36・36 |
| | 爪軸回転速度 (rpm) | | 302 | |
| | 回転外径 (mm) | | 382 | |
| | 取付け方法 | ホルダタイプ | | |
| 駆動方法 | | 中央部サイドドライブ爪軸駆動 | | |
| 入力軸回転速度 (rpm) | | 540 | | |
| 装着方法 | | JIS 標準 3P 0・I 形 (S ヒッチ) | | |

※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

() 内寸法は作業時の寸法を示す。

耕耘作業能率は効率 0.8 の計算値です。

注 1 : スタンド 18 kg 含む。

注 2 : 36PS 以下は適用不可です。

TXF385T-4S は KHC ジョイント仕様のため、36PS 以下のトラクタではジョイント切断が必要になる場合があり、ジョイントの有効長が足りなくなるためです。

必要に応じて

主要諸元

| 型式 | | | TXF385T-0L | TXF415T-0L |
|------------------------|-------------|---|-----------------------|------------|
| 機体寸法 | 全長 (mm) | 1265 (927) | | |
| | 全幅 (mm) | 2160 (3845 : EX レベラ閉 4669 : EX レベラ開) | | |
| | 全高 (mm) | 1612 {1452 : サイバーハンド取外し時} (955) | | |
| 総質量 (kg) ^{注1} | | 493 | 516 | |
| 適応 トラクタ | (KW) | 27.2 ~ 44.1 | 27.2 ~ 44.1 | |
| | (PS) | 37 ~ 60 | 37 ~ 60 | |
| 作用部型式 | | | 爪式 | |
| 標準耕幅 (cm) | | | 375 | |
| 標準作業速度 (km/h) | | | 1.0 ~ 5.0 | |
| 耕うん作業能率 (分 /10a) | | | 4 ~ 20 | 4 ~ 19 |
| 代かき爪 | 本数 (左・右) | F1855 GN1860 | 36・36 | 40・40 |
| | 8・8 | | | |
| | 302 | | | |
| | 382 | | | |
| 取付け方法 | | | ホルダタイプ | |
| 駆動方法 | | | 中央部サイドドライブ爪軸駆動 | |
| 入力軸回転速度 (rpm) | | | 540 | |
| 装着方法 | | | JIS 標準 3P I 形 (L ヒッチ) | |

| 型式 | | | TXF385T-0LA | TXF415T-0LA |
|------------------------|-------------|---|-----------------------|-------------|
| 機体寸法 | 全長 (mm) | 1265 (927) | | |
| | 全幅 (mm) | 2160 (3845 : EX レベラ閉 4669 : EX レベラ開) | | |
| | 全高 (mm) | 1612 {1452 : サイバーハンド取外し時} (955) | | |
| 総質量 (kg) ^{注1} | | 493 | 516 | |
| 適応 トラクタ | (KW) | 27.2 ~ 44.1 | 27.2 ~ 44.1 | |
| | (PS) | 37 ~ 60 | 37 ~ 60 | |
| 作用部型式 | | | 爪式 | |
| 標準耕幅 (cm) | | | 375 | |
| 標準作業速度 (km/h) | | | 1.0 ~ 5.0 | |
| 耕うん作業能率 (分 /10a) | | | 4 ~ 20 | 4 ~ 19 |
| 代かき爪 | 本数 (左・右) | F1855 GN1860 | 36・36 | 40・40 |
| | 8・8 | | | |
| | 302 | | | |
| | 382 | | | |
| 取付け方法 | | | ホルダタイプ | |
| 駆動方法 | | | 中央部サイドドライブ爪軸駆動 | |
| 入力軸回転速度 (rpm) | | | 540 | |
| 装着方法 | | | JIS 標準 3P I 形 (L ヒッチ) | |

※この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

() 内寸法は作業時の寸法を示す。

耕うん作業能率は効率 0.8 の計算値です。

注1：スタンド 18 kg 含む。

| 型式 | | | TXF385T-4L | TXF415T-4L | | |
|------------------------|--------------|---|-----------------------|---|--|--|
| 機体寸法 | 全長 (mm) | 1665 (1135) | | | | |
| | 全幅 (mm) | 2160 (3845 : EX レベラ閉 4669 : EX レベラ開) | | 2160 (4145 : EX レベラ閉 4969 : EX レベラ開) | | |
| | 全高 (mm) | 1612 {1452 : サイバーハンド取外し時} (1200) | | | | |
| 総質量 (kg) ^{注1} | | | 551 | 574 | | |
| 適応 トラクタ | (KW) | 27.2 ~ 44.1 | | 27.2 ~ 44.1 | | |
| | (PS) | 37 ~ 60 | | 37 ~ 60 | | |
| 作用部型式 | | | 爪式 | | | |
| 標準耕幅 (cm) | | | 375 | 405 | | |
| 標準作業速度 (km/h) | | | 1.0 ~ 5.0 | | | |
| 耕耘作業能率 (分 /10a) | | | 4 ~ 20 | 4 ~ 19 | | |
| 代 か き 爪 | 本数 (左・右) | F1855 GN1860 | 36・36 | 40・40 | | |
| | 爪軸回転速度 (rpm) | | 8・8 | | | |
| | 回転外径 (mm) | | 302 | | | |
| | 取付け方法 | | 382 ホルダタイプ | | | |
| 駆動方法 | | | 中央部サイドドライブ爪軸駆動 | | | |
| 入力軸回転速度 (rpm) | | | 540 | | | |
| 装着方法 | | | JIS 標準 3P I 形 (L ヒッチ) | | | |

| 型式 | | | TXF355TA-K、Y、I、M | TXF385TA-K、Y、I、M | TXF415TA-K、Y、I、M | | |
|------------------------|--------------|---|---|---|---|--|--|
| 機体寸法 | 全長 (mm) | 1244 (927) | | | | | |
| | 全幅 (mm) | 2160 (3575 : EX レベラ閉 4219 : EX レベラ開) | | 2160 (3845 : EX レベラ閉 4669 : EX レベラ開) | 2160 (4145 : EX レベラ閉 4969 : EX レベラ開) | | |
| | 全高 (mm) | 1612 {1452 : サイバーハンド取外し時} (943) | | | | | |
| 総質量 (kg) ^{注1} | | | 468 | 487 | 510 | | |
| 適応 トラクタ | (KW) | 22.1 ~ 39.7 | | 22.1 ~ 44.1 | 27.2 ~ 44.1 | | |
| | (PS) | 30 ~ 54 | | 30 ~ 60 | 37 ~ 60 | | |
| 作用部型式 | | | 爪式 | | | | |
| 標準耕幅 (cm) | | | 347 | 375 | 405 | | |
| 標準作業速度 (km/h) | | | 1.0 ~ 5.0 | | | | |
| 耕耘作業能率 (分 /10a) | | | 5 ~ 22 | 4 ~ 20 | 4 ~ 19 | | |
| 代 か き 爪 | 本数 (左・右) | F1855 GN1860 | 32・32 | 36・36 | 40・40 | | |
| | 爪軸回転速度 (rpm) | | 8・8 | | | | |
| | 回転外径 (mm) | | 302 | | | | |
| | 取付け方法 | | 382 ホルダタイプ | | | | |
| 駆動方法 | | | 中央部サイドドライブ爪軸駆動 | | | | |
| 入力軸回転速度 (rpm) | | | 540 | | | | |
| 装着方法 | | | JIS 標準 3P 0・I 形 (TA-I 以外はカラーなし) (S ヒッチ) | | | | |

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

() 内寸法は作業時の寸法を示す。

耕耘作業能率は効率 0.8 の計算値です。

注 1：スタンド 18 kg 含む。

| 型式 | | | TXF355-UA | TXF385-UA | TXF415-UA |
|------------------------|--------------|---|---|---|-----------|
| 機体寸法 | 全長 (mm) | | 1181 (927) | | |
| | 全幅 (mm) | 2160 (3575 : EX レベラ閉 4219 : EX レベラ開) | 2160 (3845 : EX レベラ閉 4669 : EX レベラ開) | 2160 (4145 : EX レベラ閉 4969 : EX レベラ開) | |
| | 全高 (mm) | 1612 {1452 : サイバーハンド取外し時} (959) | | | |
| 総質量 (kg) ^{注1} | | 460 | 479 | 502 | |
| 適応 トラクタ | (KW) | 22.1 ~ 39.7 | 22.1 ~ 44.1 | 27.2 ~ 44.1 | |
| | (PS) | 30 ~ 54 | 30 ~ 60 | 37 ~ 60 | |
| 作用部型式 | | | 爪式 | | |
| 標準耕幅 (cm) | | | 347 | 375 | 405 |
| 標準作業速度 (km/h) | | | 1.0 ~ 5.0 | | |
| 耕うん作業能率 (分 /10a) | | | 5 ~ 22 | 4 ~ 20 | 4 ~ 19 |
| 代かき爪 | 本数 (左・右) | F1855 GN1860 | 32・32 | 36・36 8・8 | 40・40 |
| | 爪軸回転速度 (rpm) | | 302 | | |
| | 回転外径 (mm) | | 382 | | |
| | 取付け方法 | | ホルダタイプ | | |
| | 駆動方法 | | 中央部サイドドライブ爪軸駆動 | | |
| 入力軸回転速度 (rpm) | | | 540 | | |
| 装着方法 | | | JIS 特殊 3P B | | |

| 型式 | | | TXF355-TA | TXF385-TA |
|------------------------|--------------|---|---|------------|
| 機体寸法 | 全長 (mm) | | 1222 (927) | |
| | 全幅 (mm) | 2160 (3575 : EX レベラ閉 4219 : EX レベラ開) | 2160 (3845 : EX レベラ閉 4669 : EX レベラ開) | |
| | 全高 (mm) | 1612 {1452 : サイバーハンド取外し時} (957) | | |
| 総質量 (kg) ^{注1} | | 464 | 483 | |
| 適応 トラクタ | (KW) | 22.1 ~ 39.7 | 22.1 ~ 44.1 | |
| | (PS) | 30 ~ 54 | 30 ~ 60 | |
| 作用部型式 | | | 爪式 | |
| 標準耕幅 (cm) | | | 347 | 375 |
| 標準作業速度 (km/h) | | | 1.0 ~ 5.0 | |
| 耕うん作業能率 (分 /10a) | | | 5.0 ~ 22.0 | 4.0 ~ 20.0 |
| 代かき爪 | 本数 (左・右) | F1855 GN1860 | 32・32 8・8 | 36・36 |
| | 爪軸回転速度 (rpm) | | 302 | |
| | 回転外径 (mm) | | 382 | |
| | 取付け方法 | | ホルダタイプ | |
| | 駆動方法 | | 中央部サイドドライブ爪軸駆動 | |
| 入力軸回転速度 (rpm) | | | 540 | |
| 装着方法 | | | JIS 特殊 3P A2 | |

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

() 内寸法は作業時の寸法を示す。

耕うん作業能率は効率 0.8 の計算値です。

注1：スタンド 18 kg 含む。

| 型式 | | | TXF355-SA | TXF385-SA | | |
|------------------------|--------------|---|----------------|---|--|--|
| 機体寸法 | 全長 (mm) | 1181 (927) | | | | |
| | 全幅 (mm) | 2160 (3575 : EX レベラ閉 4219 : EX レベラ開) | | 2160 (3845 : EX レベラ閉 4669 : EX レベラ開) | | |
| | 全高 (mm) | 1612 {1452 : サイバーハンド取外し時} (959) | | | | |
| 総質量 (kg) ^{注1} | | | 462 | 491 | | |
| 適応 トラクタ | (KW) | 22.1 ~ 39.7 | | 22.1 ~ 44.1 | | |
| | (PS) | 30 ~ 54 | | 30 ~ 60 | | |
| 作用部型式 | | | 爪式 | | | |
| 標準耕幅 (cm) | | | 347 | 375 | | |
| 標準作業速度 (km/h) | | | 1.0 ~ 5.0 | | | |
| 耕うん作業能率 (分/10a) | | | 5 ~ 22 | 4 ~ 20 | | |
| 代かき爪 | 本数 (左・右) | F1855 GN1860 | 32・32 | 36・36 | | |
| | 爪軸回転速度 (rpm) | | 8・8 | | | |
| | 回転外径 (mm) | | 302 | | | |
| | 取付け方法 | | 382 ホルダタイプ | | | |
| 駆動方法 | | | 中央部サイドドライブ爪軸駆動 | | | |
| 入力軸回転速度 (rpm) | | | 540 | | | |
| 装着方法 | | | JIS 特殊 3P A1 | | | |

| 型式 | | | TXF355-SCA | TXF385-SCA | | |
|------------------------|--------------|---|-------------------------|---|--|--|
| 機体寸法 | 全長 (mm) | 1276 (927) | | | | |
| | 全幅 (mm) | 2160 (3575 : EX レベラ閉 4219 : EX レベラ開) | | 2160 (3845 : EX レベラ閉 4669 : EX レベラ開) | | |
| | 全高 (mm) | 1612 {1452 : サイバーハンド取外し時} (953) | | | | |
| 総質量 (kg) ^{注1} | | | 468 | 487 | | |
| 適応 トラクタ | (KW) | 22.1 ~ 39.7 | | 22.1 ~ 44.1 | | |
| | (PS) | 30 ~ 54 | | 30 ~ 60 | | |
| 作用部型式 | | | 爪式 | | | |
| 標準耕幅 (cm) | | | 347 | 375 | | |
| 標準作業速度 (km/h) | | | 1.0 ~ 5.0 | | | |
| 耕うん作業能率 (分/10a) | | | 5 ~ 22 | 4 ~ 20 | | |
| 代かき爪 | 本数 (左・右) | F1855 GN1860 | 32・32 | 36・36 | | |
| | 爪軸回転速度 (rpm) | | 8・8 | | | |
| | 回転外径 (mm) | | 302 | | | |
| | 取付け方法 | | 382 ホルダタイプ | | | |
| 駆動方法 | | | 中央部サイドドライブ爪軸駆動 | | | |
| 入力軸回転速度 (rpm) | | | 540 | | | |
| 装着方法 | | | JIS 特殊 3P A1 (115mm 延長) | | | |

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

() 内寸法は作業時の寸法を示す。

耕うん作業能率は効率 0.8 の計算値です。

注 1: スタンド 18 kg 含む。

| 型式 | | | TXF355MUA | TXF385MUA |
|------------------------|--------------|---|----------------|-----------|
| 機 体 寸 法 | 全長 (mm) | 1181 (927) | | |
| | 全幅 (mm) | 2160 (3575 : EX レベラ閉 4219 : EX レベラ開) | | |
| | 全高 (mm) | 1612 {1452 : サイバーハンド取外し時} (959) | | |
| 総質量 (kg) ^{注1} | | 460 | 479 | |
| 適応 トラクタ | (KW) | 22.1 ~ 39.7 | 22.1 ~ 44.1 | |
| | (PS) | 30 ~ 54 | 30 ~ 60 | |
| 作用部型式 | | | 爪式 | |
| 標準耕幅 (cm) | | | 347 | |
| 標準作業速度 (km/h) | | | 1.0 ~ 5.0 | |
| 耕うん作業能率 (分 /10a) | | | 5 ~ 22 | 4 ~ 20 |
| 代 か き 爪 | 本数 (左・右) | F1855 GN1860 | 32・32 | 36・36 |
| | 爪軸回転速度 (rpm) | | | 8・8 |
| | 回転外径 (mm) | | | 302 |
| | 取付け方法 | | | 382 |
| 駆動方法 | | | ホルダタイプ | |
| 入力軸回転速度 (rpm) | | | 中央部サイドドライブ爪軸駆動 | |
| 装着方法 | | | 540 | |

※ この主要諸元は改良のため予告なく変更することがあります。

() 内寸法は作業時の寸法を示す。

耕うん作業能率は効率 0.8 の計算値です。

注1：スタンド 18 kg 含む。

トラクタ別装着表

この表はあくまで装着表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で使用してください。また、この作業機のトラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が載っていない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

△ 注意



装着表記載の寸法からトップリンク長などを変更する場合は、作業機を上下させてジョイントの抜け・突きがないことを十分確認してから作業を行ってください。

必ず実行



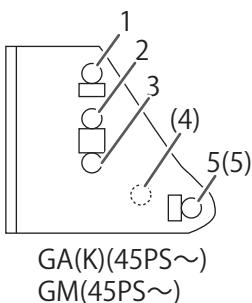
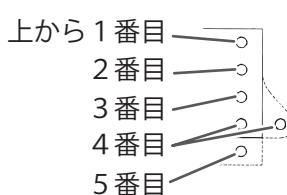
ジョイントの抜け・突きがある場合は、ジョイントの切断・交換をしてから作業を行ってください。

* ケガ・破損につながる恐れがあります。

必ず実行

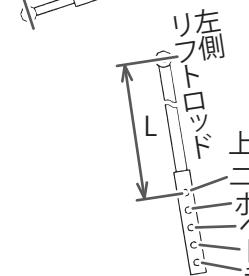
S ヒッチ (TXF355T-4S)

トップリンク取付け穴

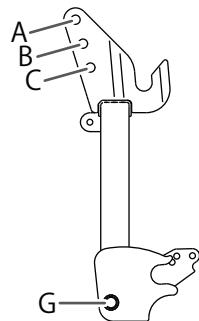


GA(K)(45PS～)
GM(45PS～)

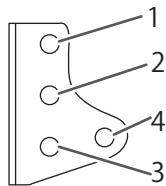
トップリンク・リフトロッド調整



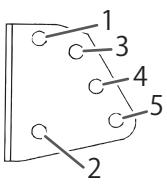
作業機側



ドラフトなし仕様

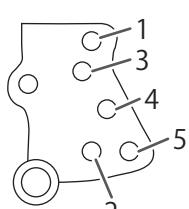


SL (~35PS)



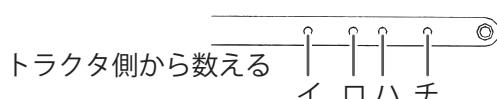
SL (38PS～)

ドラフト仕様



SL (ドラフト仕様)

ロアリンク取付け穴



トラクタ側から数える

必要に応じて

トラクタ別装着表

トラクタ別装着表 (TXF355T-4S)

■株式会社クボタ

| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | ジョイント 切断寸法 (mm) T-4S TC71M | 備 考 |
|----------------------|--------------------|-------------------|--------------------|----------------------|--------------------|-------------------|--|-----|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ(mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| | | | | | | | | |
| SL320・350・33Limited | 2 | イ | ヘ | 710 | C | G | | |
| SL320PC | 2 | 口 | ヘ | 670 | C | G | | |
| SL350PC・33Limited PC | 4 | 口 | ヘ | 660 | A | G | TC84M に 交換 | |
| SL350PC (ドラフト) | 5 | 口 | ト | 630 | A | G | TC84M に 交換 | |
| SL380・410・450 | 5 | イ | ヘ | 680 | A | G | | |
| SL380PC・410PC・450PC | 5 | イ | ヘ | 670 | A | G | | |
| SL480・540 | 5 | イ | ホ | 710 | A | G | | |
| SL480PC・540PC | 5 | イ | ホ | 690 | A | G | | |

■ヤンマーホールディングス株式会社

| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | ジョイント 切断寸法 (mm) T-4S TC71M | 備 考 |
|------------------|--------------------|-------------------|--------------------|----------------------|--------------------|-------------------|--|-----|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ(mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| | | | | | | | | |
| YT330A・333A | 3 | イ | ホ | 610 | A | G | | |
| YT333AD | 3 | イ | ホ | 580 | A | G | | |
| YT338A・345A・352A | 3 | イ | ホ | 620 | A | G | | |
| YT338AD・345AD | 3 | イ | ホ | 570 | A | G | | |

トラクタ別装着表 (TXF355T-4S)

■井関農機株式会社

| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | ジョイント 切断寸法 (mm) T-4S TC71M | 備 考 |
|---------------------------------|-------------------------------|-------------------|--------------------|----------------------|--------------------|-------------------|--|----------------------|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ(mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| | NTA335(L)・365 NT335・365(L) | 3 | イ | ホ | 580 | A | G | |
| NTA335A・365A NT335A・365A | 3 | イ | ホ | 550 | C | G | | A : ショートホ イルベース仕様 |
| NT335C・365C | 3 | イ | ホ | 560 | A | G | | |
| NTA435・465・505 NT435・465・505 | 4 | イ | ホ | 660 | A | G | | |
| NT435C・465C・505C | 4 | イ | ホ | 660 | A | G | | |

■三菱マヒンドラ農機株式会社

| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | ジョイント 切断寸法 (mm) T-4S TC71M | 備 考 |
|---------------|--------------------|-------------------|--------------------|----------------------|--------------------|-------------------|--|----------------------------------|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ(mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| | GA302・332・362 | 2 | イ | ホ | 670 | A | G | TC74M に 交換 |
| GA452・502 | 3 | イ | ニ | 650 | A | G | TC74M に 交換 | |
| GAK332・362 | 2 | イ | ヘ | 670 | A | G | TC74M に 交換 | |
| GAK452・502 | 3 | イ | ホ | 670 | A | G | TC74M に 交換 | |
| GM302・332・362 | 3 | イ | ホ | 690 | A | G | | |
| GM452・502 | 4 (5) | イ | ニ | 540 | A | G | | トップリンク穴は 4つ穴の場合…4 5つ穴の場合…5 |

■ NEW HOLLAND

| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | ジョイント 切断寸法 (mm) T-4S TC71M | 備 考 |
|--------|--------------------|-------------------|--------------------|----------------------|--------------------|-------------------|--|------------------|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ(mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| | T2.450 | 5 | イ | ヘ | 680 | A | G | |
| T2.540 | 5 | イ | ホ | 710 | A | G | | クボタ OEM SL540 |

必要に応じて

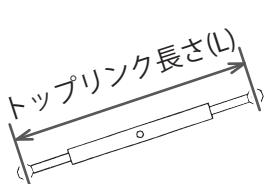
トラクタ別装着表

S ヒッチ (TXF385・415T-4SD)

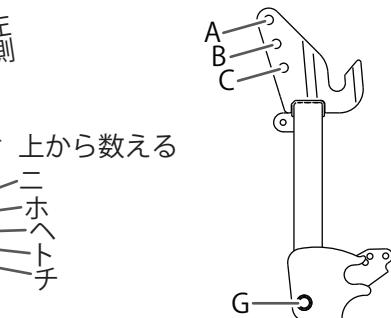
トップリンク取付け穴



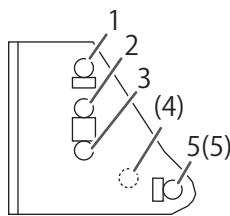
トップリンク・リフトロッド調整



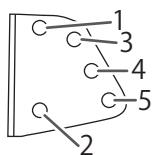
作業機側



ドラフトなし仕様

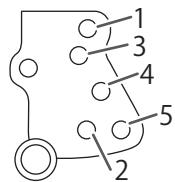


GA(K)(45PS～)
GM(45PS～)



SL(38PS～)

ドラフト仕様



SL(ドラフト仕様)

ロアリンク取付け穴



トラクタ側から数える

■株式会社クボタ

| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | ジョイント 切断寸法 (mm) | 備 考 |
|---------------------|--------------------|-------------------|--------------------|----------------------|--------------------|-------------------|-----------------------|-----|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ(mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| | | | | | | | | |
| SL380・410・450 | 5 | イ | ヘ | 680 | A | G | T-4SD | |
| SL380PC・410PC・450PC | 5 | イ | ヘ | 670 | A | G | KHC79M | |
| SL480・540・600 | 5 | イ | ホ | 710 | A | G | | |
| SL480PC・540PC・600PC | 5 | イ | ホ | 690 | A | G | | |

■ヤンマーホールディングス株式会社

| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | ジョイント 切断寸法 (mm) | 備 考 |
|-----------------------|--------------------|-------------------|--------------------|----------------------|--------------------|-------------------|-----------------------|-----|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ(mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| | | | | | | | | |
| YT338A・345A・352A・357A | 3 | イ | ホ | 620 | A | G | T-4SD | |
| YT338AD・345AD・357AD | 3 | イ | ホ | 570 | A | G | KHC79M | |
| | | | | | | | 50 | |

トラクタ別装着表 (TXF385・415T-4SD)

■井関農機株式会社

| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | ジョイント 切断寸法 (mm) 備 考 | |
|---|--------------------|-------------------|--------------------|----------------------|--------------------|-------------------|------------------------------|--|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ(mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| | | | | | T-4SD | | | |
| | | | | | KHC79M | | | |
| NTA435・465・505・555・605 NT435・465・505・555・605 | 4 | イ | ホ | 660 | A | G | 30 | |
| NTA435C・465C・505C・605 | 4 | イ | ホ | 660 | A | G | 30 | |

■三菱マヒンドラ農機株式会社

| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | ジョイント 切断寸法 (mm) 備 考 | |
|-------------------|--------------------|-------------------|--------------------|----------------------|--------------------|-------------------|------------------------------|----------------------------------|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ(mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| | | | | | T-4SD | | | |
| | | | | | KHC79M | | | |
| GA452・502・552 | 3 | イ | 二 | 650 | A | G | | |
| GAK452・502・552 | 3 | イ | ホ | 670 | A | G | | |
| GM452・502(ET)・552 | 4 (5) | イ | 二 | 540 | A | G | 70 | トップリンク穴は 4つ穴の場合…4 5つ穴の場合…5 |

■ MASSY FERGUSON と NEW HOLLAND

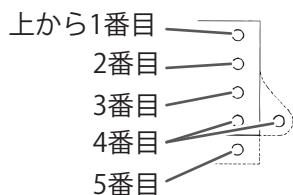
| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | ジョイント 切断寸法 (mm) 備 考 | |
|--------------------|--------------------|-------------------|--------------------|----------------------|--------------------|-------------------|------------------------------|-----------------------------|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ(mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| | | | | | T-4SD | | | |
| | | | | | KHC79M | | | |
| MF2855E MF2860M | 4 | イ | ホ | 660 | A | G | 30 | 井関農機 OEM NT555 NTA605 |
| T2.450 | 5 | イ | ヘ | 680 | A | G | | クボタ OEM SL450 |
| T2.540 | 5 | イ | ホ | 710 | A | G | | クボタ OEM SL540 |

必要に応じて

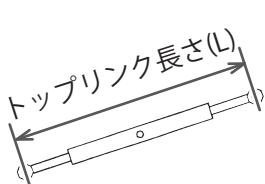
トラクタ別装着表

Lヒッチ (TXF385・415T-4L)

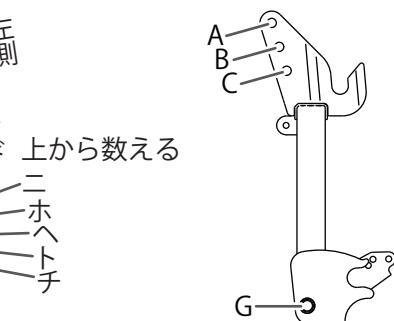
トップリンク取付け穴



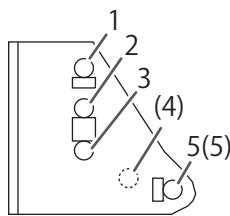
トップリンク・リフトロッド調整



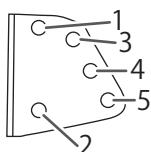
作業機側



ドラフトなし仕様

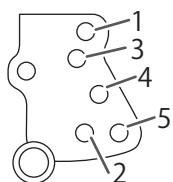


GA(K)(45PS～)
GM(45PS～)



SL(38PS～)

ドラフト仕様



SL(ドラフト仕様)

ロアリンク取付け穴



トラクタ側から数える

■株式会社クボタ

| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | ジョイント 切断寸法 (mm) | 備 考 |
|---------------------|--------------------|-------------------|--------------------|----------------------|--------------------|-------------------|-----------------------|--------------------|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ(mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| | T-4L | KHC79M | | | | | | |
| SL380・410・450 | 5 | イ | ヘ | 720 | C | G | | |
| SL380PC・410PC・450PC | 5 | イ | ヘ | 710 | C | G | | ロアピン内向き、 上昇規制必要 |
| SL480・540・600 | 5 | 口 | ヘ | 720 | C | G | | |
| SL480PC・540PC・600PC | 5 | 口 | ト | 690 | C | G | | |

■ヤンマーホールディングス株式会社

| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | ジョイント 切断寸法 (mm) | 備 考 |
|-----------------------|--------------------|-------------------|--------------------|----------------------|--------------------|-------------------|-----------------------|--------------------|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ(mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| | T-4L | KHC79M | | | | | | |
| YT338A・345A・352A・357A | 3 | 口 | ヘ | 650 | A | G | | |
| YT338AD・345AD・357AD | 3 | 口 | ヘ | 590 | A | G | | ロアピン内向き、 上昇規制必要 |

トラクタ別装着表 (TXF385・415T-4L)

■井関農機株式会社

| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | ジョイント 切断寸法 (mm) T-4L KHC79M | 備 考 |
|------------------------|---|-------------------|--------------------|----------------------|--------------------|-------------------|---|--------------------|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ(mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| | NTA435・465・505・555・605 NT435・465・505・555・605 | 4 | 口 | へ | 670 | A | G | ロアピン内向き |
| NTA435C・465C・505C・605C | 4 | 口 | へ | 620 | A | G | | ロアピン内向き、 上昇規制必要 |

■三菱マヒンドラ農機株式会社

| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | ジョイント 切断寸法 (mm) T-4L KHC79M | 備 考 |
|-------------------|--------------------|-------------------|--------------------|----------------------|--------------------|-------------------|---|--|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ(mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| | GA452・502・552 | 3 | 口 | ホ | 650 | A | G | |
| GAK452・502・552 | 3 | 口 | ホ | 620 | A | G | | |
| GM452・502(ET)・552 | 4 (5) | イ | ホ | 540 | C | G | | トップリンク穴は 4つ穴の場合…4 5つ穴の場合…5 ロアピン内向き、 上昇規制必要 |

■ MASSY FERGUSON と NEW HOLLAND

| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | ジョイント 切断寸法 (mm) T-4L KHC79M | 備 考 |
|--------|--------------------|-------------------|--------------------|----------------------|--------------------|-------------------|---|--|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ(mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| | MF2855E MF2860E | 4 (5) | 口 | へ | 670 | A | G | |
| T2.450 | 5 | イ | へ | 720 | C | G | | クボタ OEM SL450 ロアピン内向き、 上昇規制必要 |
| T2.540 | 5 | 口 | へ | 720 | C | G | | クボタ OEM SL540 ロアピン内向き、 上昇規制必要 |

必要に応じて

トラクタ別装着表

クボタ W3P 用トラクタ装着表

この表はあくまで装着表であり、トラクタ適応馬力を示すものではありません。トラクタ適応馬力の範囲内で使用してください。また、この作業機のトラクタ別装着表にお客様のトラクタ型式が記載していない場合は、お買い求めの販売店へお問い合わせください。

△ 注意



装着表記載の寸法からトップリンク長などを変更する場合は、作業機を上下させてジョイントの抜け・突きがないことを十分確認してから作業を行ってください。

必ず実行 * ケガ・破損につながる恐れがあります。



OS 規格の作業機を装着する場合は、作業機のガイドカラーとトップマストカラーを取り外し、トラクタ付属の延長シャフトを作業機の入力軸に取付けてください。

必ず実行 * ケガ・破損につながる恐れがあります。



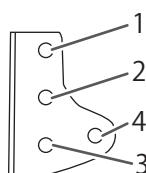
純正ロータリを装着する場合は、必ずジョイントホルダと 5P オート金具の位置を変更し、トップリンク長を正規寸法へ戻してください。

必ず実行 * ケガ・破損につながる恐れがあります。

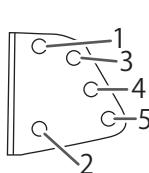
クボタ／New Holland W3P A フレーム (TA-K)

トップリンク取付け穴

ドラフトなし仕様

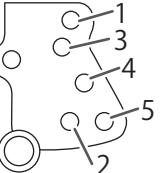


SL (~35PS)
T2.35



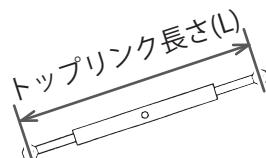
SL (38PS～)
T2.45

ドラフト仕様

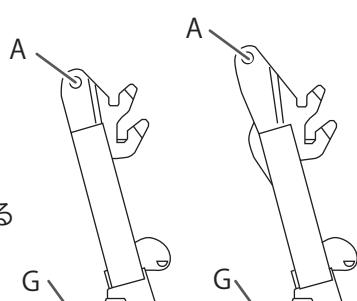


SL(ドラフト仕様)

トップリンク・リフトロッド調整



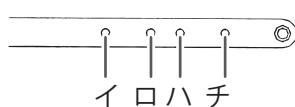
作業機側



SL (~35PS)
T2.35

SL (38PS～)
T2.45

ロアリンク取付け穴



トラクタ側から数える

トラクタ別装着表 (クボタ／New Holland W3P A フレーム (TA-K))

■株式会社クボタ

| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | 純正ロータリ トップリンク 長さ (mm) | 備 考 |
|---------------------|--------------------|-------------------|--------------------|-----------------------|--------------------|-------------------|-----------------------------|--------------|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ (mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| SL320・350・33L | 4 | イ | 二 | 715 | A | G | 605 | |
| SL320PC | - | - | - | - | - | - | - | 最下げ不足により適応不可 |
| SL350PC・33LPC | - | - | - | - | - | - | - | |
| SL350PC (ドラフト) | - | - | - | - | - | - | - | |
| SL380・410・450 | 5 | イ | 二 | 720 | A | G | 615 | |
| SL380PC・410PC・450PC | - | - | - | - | - | - | - | 最下げ不足により適応不可 |
| SL480・540・600 | 5 | イ | 二 | 730 | A | G | 635 | |
| SL480PC・540PC・600PC | - | - | - | - | - | - | - | 最下げ不足により適応不可 |

■ NEW HOLLAND

| トラクタ型式 | トラクタ部の調整 | | | | 作業機側 | | 純正ロータリ トップリンク 長さ (mm) | 備 考 |
|--------|--------------------|-------------------|--------------------|-----------------------|--------------------|-------------------|-----------------------------|------------------|
| | トップ リンク 取付け穴 | ロア リンク 取付け穴 | リフト ロッド 取付け穴 | トップ リンク 長さ (mm) | トップ リンク 取付け穴 | ヒッチ ピン 取付け穴 | | |
| T2.450 | 5 | イ | 二 | 720 | A | G | 615 | クボタ OEM SL450 |
| T2.540 | 5 | イ | 二 | 720 | A | G | 635 | クボタ OEM SL540 |

必要に応じて

トク
ラボ
クタ
W3P
装着用
表

フロントウェイト装着表

このフロントウェイト装着表は、作業性能を発揮するための必要ウエイト量を示します。

作業機を装着して道路走行する際は、表示のウエイト以上に必要な場合があるため注意してください。

作業機を装着して道路走行する場合のウエイト量は下記ホームページより確認してください。

一般社団法人 日本農業機械工業会ホームページアドレス <http://www.jfmma.or.jp/>

下表には作業性能に必要なフロントウェイト枚数を示しています。

また、"-"はフロントウェイト不要、グレー部は適用外を示します。

トラクタメーカーによってはバランス基準が異なります。必ず下記の適正フロントウェイト重量を搭載してください。

トラクタ型式によっては、オプションウェイト台が必要になります。詳しくはお買い求めの販売店へお問い合わせください。

■株式会社クボタ

| トラクタ型式 | | シングルA フレーム /-UA | | | W3P A フレーム /-UA | | | W3P A フレーム /TA-K | | | T-4S | | |
|--------|---------------------------------------|--------------------|----------------|-----|--------------------|----------------|-----|---------------------|----------------|-----|----------------|-----|-----|
| | | 355 | 385 | 415 | 355 | 385 | 415 | 355 | 385 | 415 | 355 | 385 | 415 |
| SL | 320・350 | - | 25 kgx0 (1) | | 25 kgx0 (1) | 25 kgx0 (1) | | 25 kgx2 (2) | 25 kgx2 (2) | | 25 kgx2 (2) | | |
| | 380・410・ 450 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 480・540 | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - | - |
| | 600 | | - | - | | - | - | | - | | - | - | - |
| | 320PC | | | | 25 kgx1 (1) | 25 kgx1 (2) | | | | | 25 kgx2 (3) | | |
| | 350PC | | | | 25 kgx1 (1) | 25 kgx1 (2) | | | | | 25 kgx1 (2) | | |
| | 350PC (ドラフト) | | | | 25 kgx1 (1) | 25 kgx1 (2) | | | | | 25 kgx1 (2) | | |
| | 380PC・410PC・ 450PC・480PC・ 540PC | | | | - | - | - | | | | - | - | - |
| | 600PC | | | | - | - | - | | | | - | - | - |

■ ヤンマーホールディングス株式会社

| トラクタ型式 | | 特殊 3P クイック /-TA | | | 標準 3P クイック /TA-Y | | | T-4S | | |
|--------|-----------------|--------------------|----------------|-----|---------------------|-----------------|----------------|-----------------|----------------|----------------|
| | | 355 | 385 | 415 | 355 | 385 | 415 | 355 | 385 | 415 |
| YT | 330A・333A | 30 kgx2 (3) | 30 kgx3 (4) | | 30 kgx3 (4) | 30 kgx4 (5) | | 30 kgx4 (5) | | |
| | 333AD | 30 kgx5 (5) | 30 kgx5 (6) | | 30 kgx6 (6) | 30 kgx6 (※5) | | 30 kgx6 (※5) | | |
| | 338A・345A | | | | 30 kgx2 (2) | 30 kgx3 (3) | 30 kgx3 (4) | 30 kgx2 (3) | 30 kgx3 (3) | 30 kgx3 (4) |
| | 352A | | | | 30 kgx1 (1) | 30 kgx1 (1) | 30 kgx2 (2) | 30 kgx1 (1) | 30 kgx1 (1) | 30 kgx2 (2) |
| | 357A | | | | | 30 kgx1 (1) | 30 kgx2 (2) | | 30 kgx1 (1) | 30 kgx2 (2) |
| | 338AD・ 345AD | | | | 30 kgx4 (5) | 30 kgx5 (5) | 30 kgx5 (6) | 30 kgx5 (5) | 30 kgx5 (5) | 30 kgx6 (6) |
| | 357AD | | | | | 30 kgx3 (3) | 30 kgx4 (4) | | 30 kgx3 (3) | 30 kgx4 (4) |

※はトラクタオプションのデザインバンパ (50 kg) 装着が必要。

■井関農機株式会社

| トラクタ型式 | | 特殊 3P D ヒッチ /-SA (-SCA) | | | 標準 3P PD ヒッチ /TA-I | | | T-4S | | |
|-----------|-----------|----------------------------|----------------|-----|-----------------------|----------------|-----|----------------|----------------|----------------|
| | | 355 | 385 | 415 | 355 | 385 | 415 | 355 | 385 | 415 |
| NTA NT | 335・365 | - | - | | 25 kgx2 (2) | 25 kgx2 (3) | | 25 kgx2 (2) | | |
| | 435 | | | | - | - | - | - | 25 kgx0 (1) | 25 kgx0 (1) |
| | 465 | | | | - | - | - | - | - | - |
| | 505・555 | | | | | | | - | - | - |
| | 605 | | | | | | | - | - | - |
| NT | 335C・365C | 25 kgx2 (2) | 25 kgx3 (3) | | 25 kgx4 (4) | 30 kgx5 (5) | | 30 kgx4 (4) | | |
| | 435C・465C | | | | - | - | - | - | - | - |
| | 505C・555C | | | | | | | - | - | - |
| NTA | 605C | | | | | | | - | - | - |

必要に応じて

装着口表ントウエイト

■三菱マヒンドラ農機株式会社

| トラクタ 型式 | | 特殊 3P スーパー・ヒッチ -MUA | | | デュアルヒッチ /-MUA | | | デュアルヒッチ /TA-M | | | 標準 3P スーパー・ヒッチ /TA-M | | | T-4S | | |
|------------|---------------------|---------------------------|----------------|-----|------------------|----------------|-----|------------------|----------------|-----|----------------------------|----------------|----------------|----------------|----------------|----------------|
| | | 355 | 385 | 415 | 355 | 385 | 415 | 355 | 385 | 415 | 355 | 385 | 415 | 355 | 385 | 415 |
| GA | 302・ 332 | - | 30 kgx0 (1) | | 30 kgx0 (1) | 30 kgx0 (1) | | 30 kgx1 (2) | 30 kgx2 (3) | | | | | 30 kgx2 (3) | | |
| | 362 | - | - | | 30 kgx0 (1) | 30 kgx0 (1) | | 30 kgx1 (2) | 30 kgx2 (3) | | | | | 30 kgx1 (2) | | |
| | 452・ 502・ 552 | | | | | | | | | | - | - | - | - | - | 30 kgx0 (1) |
| GM | 302・ 332・ 362 | 30 kgx1 (1) | 30 kgx1 (1) | | 30 kgx1 (1) | 30 kgx2 (2) | | 30 kgx3 (3) | 30 kgx4 (4) | | | | | 30 kgx3 (3) | | |
| | 452 | | | | | | | | | | - | 30 kgx0 (1) | 30 kgx0 (1) | - | 30 kgx0 (1) | 30 kgx0 (1) |
| | 502・ 552 | | | | | | | | | | - | - | 30 kgx0 (1) | - | - | 30 kgx0 (1) |
| GAK | 332・ 362 | 30 kgx2 (2) | 30 kgx2 (3) | | | | | | | | | | | 30 kgx3 (4) | | |
| | 452・ 502 | | | | | | | | | | - | - | 30 kgx2 (2) | 30 kgx1 (1) | 30 kgx2 (2) | 30 kgx3 (3) |
| | 552 | | | | | | | | | | - | - | 30 kgx2 (2) | 30 kgx1 (1) | 30 kgx2 (2) | 30 kgx3 (3) |

フロントウェイト装着表 (L ヒッチ)

このフロントウェイト装着表は、作業性能を発揮するための必要ウエイト量を示します。

作業機を装着して道路走行する際は、表示のウエイト以上に必要な場合があるため注意してください。

作業機を装着して道路走行する場合のウエイト量は下記ホームページより確認してください。

一般社団法人 日本農業機械工業会ホームページアドレス <http://www.jfmma.or.jp/>

下表には作業性能に必要なフロントウェイト枚数を示しています。

また、"-"はフロントウェイト不要、グレー部は適用外を示します。

トラクタメーカーによってはバランス基準が異なります。必ず下記の適正フロントウェイト重量を搭載してください。

トラクタ型式によっては、オプションウェイト台が必要になります。詳しくはお買い求めの販売店へお問い合わせください。

■ 株式会社クボタ

| トラクタ型式 | | L ヒッチ (T-4L) | |
|--------|-------------------|----------------|----------------|
| | | 385 | 415 |
| SL | 380・410・450 | 25 kgx2 (3) | 25 kgx3 (4) |
| | 480・540・600 | 25 kgx2 (3) | 25 kgx3 (4) |
| | 380PC・410PC・450PC | 25 kgx1 (2) | 25 kgx1 (2) |
| | 480PC・540PC・600PC | 25 kgx0 (2) | 25 kgx1 (2) |

■ ヤンマーホールディングス株式会社

| トラクタ型式 | | L ヒッチ (T-4L) | |
|--------|-------------|-----------------|-----------------|
| | | 385 | 415 |
| YT | 338A・345A | 30 kgx5 (5) | 30 kgx6 (6) |
| | 352A | 30 kgx4 (5) | 30 kgx6 (6) |
| | 357A | 30 kgx3 (4) | 30 kgx3 (4) |
| | 338AD・345AD | *30 kgx6 (6) | *30 kgx6 (6) |
| | 357AD | 30 kgx5 (6) | *30 kgx5 (5) |

*はトラクタオプションのデザインバンパ (50 kg) 装着が必要。

■井関農機株式会社

| トラクタ型式 | | L ヒッチ (T-4L) | |
|-----------|----------------|----------------|----------------|
| | | 385 | 415 |
| NTA NT | 435・465 | 25 kgx1 (2) | 25 kgx2 (3) |
| | 505・555・605 | 25 kgx1 (1) | 25 kgx2 (3) |
| | 435C・465C | 25 kgx3 (3) | 25 kgx4 (4) |
| | 505C・555C・605C | 25 kgx1 (1) | 25 kgx2 (2) |

■三菱マヒンドラ農機株式会社

| トラクタ型式 | | L ヒッチ (T-4L) | |
|--------|-------------|----------------|----------------|
| | | 385 | 415 |
| GM | 452・502・552 | 30 kgx3 (3) | 30 kgx4 (4) |
| | 502ET | 30 kgx4 (4) | 30 kgx5 (5) |
| GA | 452・502・552 | 30 kgx2 (3) | 30 kgx3 (4) |
| GAK | 452・502・552 | 30 kgx4 (4) | 30 kgx5 (5) |

■ NEW HOLLAND

| トラクタ型式 | | L ヒッチ (T-4L) | |
|--------|-----|----------------|----------------|
| | | 385 | 415 |
| T2 | 450 | 25 kgx2 (3) | 25 kgx3 (4) |
| | 540 | 25 kgx2 (3) | 25 kgx3 (4) |

■ MASSEY FERGUSON

| トラクタ型式 | | L ヒッチ (T-4L) | |
|--------|-------------|----------------|----------------|
| | | 385 | 415 |
| MF | 2855E・2860M | 25 kgx1 (1) | 25 kgx2 (3) |

異常診断一覧表

使用中あるいは使用後の点検時に下表の異常が発生した場合、そのままにしておきますと故障、事故の原因となります。

再使用せず、直ちに対策を行ってください。部品の交換、修理については販売店にお問い合わせください。

| 本体各部 | 症 状 | 原 因 | 対 策 |
|------------|--------------|---------------------|--------------------------------------|
| ギヤー ケース | 異音の発生 | ベアリングの損傷 | ベアリングの交換 |
| | | ギヤーの損傷 | ギヤーの交換 |
| | | ギヤーの噛み合い不良 | シムで調節 |
| | オイル漏れ | 入力軸：軸受け部オイルシールの損傷 | オイルシールの交換 |
| | | パッキンの劣化、損傷 | 液体パッキンの交換 |
| | | ケース取付けボルトの緩み | ボルトの増締め |
| | 異常な高温の 発生 | オイル量の不足 | オイルの補給 |
| | | ベアリングの損傷 | ベアリングの交換 |
| チェン ケース | 異音の発生 | チェンの破損 | チェンの交換 |
| | | テンショナの破損 | テンショナの交換 |
| | | スプロケットの損傷 | スプロケットの交換 |
| | | ベアリングの損傷 | ベアリングの交換 |
| | オイル漏れ | 軸付きシール、パッキンの劣化、損傷 | 軸付きシール、パッキンの 交換 |
| | | チェンカバー取付けボルトの緩み | ボルト増締め |
| | 異常な高温の 発生 | オイル量の不足 | オイルの補給 |
| | | ベアリングの損傷 | ベアリングの交換 |
| 代かき軸 | 異音の発生 | 軸受け部のベアリングの損傷 | ベアリングの交換 |
| | | 代かき爪取付けボルトの緩み | ボルトの締付け |
| | | 代かき爪の変形によるカバーとの干渉 | 代かき爪の交換 |
| | | クラッチの損傷 | クラッチの交換 |
| | | クッションラバーの損傷 | クッションラバーの交換 |
| | | | フックブラケット位置の調整 ※詳細は販売店にお問い合わせください。 |
| | | | |
| | 振動の発生 | 代かき爪の曲がり | 代かき爪の交換 |
| | | 代かき爪、爪軸へのワラ、草などのかかり | ワラ、草などの除去 |
| | | 代かき爪の配列不良 | 爪配列の点検 |
| | 刈りムラの発生 | フレール爪の摩耗、折損 | フレール爪の交換 |
| | | フレール爪の配列不良 | 爪配列の点検 |
| | 軸回転不良 | チェンの切損 | チェンの交換 |
| | | 駆動軸の折損 | 駆動軸の交換 |
| | | ギヤーの破損 | ギヤーの交換 |
| | | クラッチの摩耗、破損 | クラッチの交換 |

| 本体各部 | 症 状 | 原 因 | 対 策 |
|-------|---------------------|--------------------------|--|
| 代かき軸 | オイル漏れ | オイルシールの損傷 | オイルシールの交換 |
| | | パッキン劣化、損傷 | パッキンの交換 |
| | 残耕の発生 | 代かき爪の摩耗、折損 | 代かき爪の交換 |
| | | 代かき爪の配列不良 | 爪配列の点検 |
| | 異常な土寄りの発生 | 代かき爪の配列不良 | 爪配列の点検 |
| | 折たたみ作動不良 (動きが遅い) | 電動油圧シリンダの損傷、故障 | 電動油圧シリンダの交換 |
| | 折たたみ作動不良 (動かない) | シリンダアーム部グリス切れ | グリスニップルにグリス注入 |
| | | 折りたたみ支点部グリス切れ | グリスニップルにグリス注入 |
| | | 左右作業部への泥などの付着 | 左右作業部周辺の清掃 (泥などの除去) |
| | | 作業機マッチング時の持ち上げ高さが高すぎる | 作業機を下げ、低い位置で操作する。 ※作業機が接地しないようにしてください。 |
| | 左右作業部が完全に開かない | 電動油圧シリンダや制御ボックスなどの故障 | 故障部品の交換 ※左右の電動油圧シリンダとハーネスカプラを入れ替えてつなぐなどして、故障部品を特定し交換してください。 |
| | | 左右作業部への泥などの付着 | 左右作業部周辺の清掃 (泥などの除去) |
| | | クラッチ部への泥、草などの付着 | クラッチ部の清掃 (泥、草などの除去) |
| | | エプロン連結部への泥、草などの付着 | エプロン連結部の清掃 (泥、草などの除去) |
| | | エプロン連結部の位置不良 | エプロンストッパの位置調整を行う ※詳細は販売店にお問い合わせください。 |
| | | クラッチ先端の山同士の干渉 | 作業機を折りたたんだ状態で爪軸を回し、再度開く |
| | | クラッチの噛み合い不良 | クラッチの噛み合い調整 ※詳細は販売店にお問い合わせください。 |
| フレーム部 | 左右作業部が閉じない | クラッチ部への泥、草などの噛み込み | クラッチ部の清掃 (泥、草などの除去) |
| | | 爪軸をわずかに回転させた後、再度閉じる操作を行う | |
| | 左右作業部を開いてもフックが掛らない | フックブラケットの位置調整 | ※詳細は販売店にお問い合わせください。 |

| 本体各部 | 症 状 | 原 因 | 対 策 |
|-------|---------------------------|----------------------------------|-------------------------------------|
| フレーム部 | レベラの連結不良 | レベラ連結部への泥、草などの付着 | レベラ連結部周辺の清掃(泥、草などの除去) |
| | | レベラシテンボルト部ブッシュの摩耗 | ブッシュの交換 |
| | | 左右レベラのアンダストッパ調整不良 | アンダストッパの位置調整 ※詳細は販売店にお問い合わせください。 |
| | EX レベラが接地しない、または土にもぐってしまう | クッションボルトの調整不良 | クッションボルト長さの調整 |
| | 加圧状態にならない | 加圧動作部品周辺に泥、草などの付着 | 加圧動作部品周辺の清掃と注油(グリス塗布) |
| | | 左右作業部が片側のみ開いた状態になっている、または両側閉じている | 左右作業部を両方開く |
| | 土寄せ状態にならない | レベラへの泥などの付着 | レベラ周辺の清掃(泥などの除去) |
| | | 左右作業部が片側のみ開いた状態になっている | 左右作業部を両方開く、または両方閉じる |
| ジョイント | 異音の発生 | グリス切れ | グリスアップ |
| | | ジョイント折れ角が不適格 | マッチング姿勢の矯正 |
| | | 作業機の上げすぎ | リフト量の規制 |
| | たわみ発生 | シャフトの噛み合い幅不足 | 長いものと交換 |
| | スライド部のガタ | ノックピンとヨークの摩耗 | ノックピンとヨークの交換 |
| 電装関係 | 電源が入らない | バッテリハーネスのヒューズ切れ | ヒューズの交換 ※ヒューズ切れの原因追究を行ってください。 |
| | | ハーネスの断線(ショート) | ハーネスの交換 |
| | | バッテリ電圧の低下 | 電源(バッテリ)電圧が10V以下の場合は、充電またはバッテリの交換 |
| | | トラクタ外部電源のヒューズ切れ | キー連動電源を使用の場合、トラクタ『取扱説明書』を参照 |
| | | 電源ハーネスの接続不良 | 正しい接続に修正 |
| | | 電源カプラの接触不良、端子抜け | 電源カプラをしっかりと差込み、接触不良、端子抜けがないか確認 |
| | | 電源ハーネスとバッテリの(+)と(-)を間違えて取付けている | (+)と(-)の接続を正しい接続に修正 |
| | | コバシ製以外の電源ハーネスを使用している | コバシ純正部品に交換 |

| 本体各部 | 症 状 | 原 因 | 対 策 |
|------|------------|----------------------------|-----------------------------------|
| 電装関係 | 操作中に動作が止まる | 電源ハーネスとバッテリターミナルの接触部が汚れている | 電源ハーネスとバッテリターミナルの接触部を清掃 |
| | | 電源カプラの接触不良、端子抜け | 電源カプラをしっかりと差込み、接触不良、端子抜けがないか確認 |
| | | | 電源（バッテリ）電圧が10V以下の場合は、充電またはバッテリの交換 |
| | 操作ができない | カルコンに関するトラブルがある | 詳しくは「カルコンのトラブルシューティング」を参照 |
| | | カルコンや制御ボックスの破損 | カルコン、制御ボックスを交換 |
| | | ハーネスの断線（ショート） | ハーネスの交換 |

カルコンのトラブルシューティング

カルコンの操作がうまくいかない場合は、故障と思う前に下記項目で確認してください。

| 症状 | 確認事項 | 対応方法 |
|---|---------------------------------------|---|
| 電源を入れても数秒でOFFになる。 | 電池が消耗している。 | 充電してください。 |
| 電源が入らない。 (「電源」ランプが点灯していない) | 電池が切れている。 | 充電してください。 |
| | 充電池の不良 | 新しい充電池に交換してください。 |
| | カルコンが故障している。 | カルコンを新品と交換してください。 |
| | 「電源」ボタンを押す時間が短い。 | 「電源」ボタンを1秒以上押し続けてください。 |
| 「充電」ランプが点滅している。 | 電池が消耗している。 | 充電してください。 |
| DC プラグを挿し込んでも充電されない。 | 十分充電されている。 | 正常な状態です。 電池が消耗した状態で充電されるか確認してください。 「充電」ランプは十分充電されていても30秒点灯してから消えます。 |
| | ヘンカンハーネスを逆向きに接続している。 | 正しく接続してください。 ヘンカンハーネスは接続方向が決まっています。 |
| | 充電ケーブルが損傷している。 | 充電ケーブルを交換してください。 |
| | 充電プラグからの供給電圧が異常である。 | 供給電圧が正常か確認してください。 接続できるバッテリ電圧は12Vです。 |
| | 指定外の充電池を使用している。 | 指定の充電池を使用してください。 |
| 「電源」ランプと「充電」ランプが交互に点滅している。 | 電池電圧が使用範囲外である。 | DC プラグの抜き差し、またはカルコンの電源を入れ直してください。 ランプの点滅が継続する場合は指定の充電池に交換し再度充電してください。 アルカリ電池は充電できません。 |
| | 充電エラーが起きている。 高温になるなど充電可能温度から外れている。 | 充電可能温度(0~40°C)にしてから充電し直してください。 |
| カルコンの「電源」ボタンを押しても、制御ボックスのスタンバイ状態を示す「ピ、ピ」というブザー音がしない。 カルコンをONにしても「電源」ランプが点滅し、操作ができない。 | 電源ハーネスなどが正しく接続されていない。 | 正しく接続し直してください。 |
| | 電源ハーネスとバッテリの(+)と(-)を間違えて取付けている。 | (+)と(-)を正しく接続し直してください。 |
| | 電源カプラの挿入不良、接触不良を起こしている。 | 正しく接続し直してください。 |
| | 電源ハーネスとバッテリターミナルの接触部が汚れている。 | 電源ハーネスとバッテリターミナルの接触部の清掃を行ってください。 |
| | バッテリハーネスのヒューズが切れている。 | ヒューズの交換をしてください。 ヒューズ切れの原因追究を行ってください。 |

| 症状 | 確認事項 | 対応方法 |
|--|------------------------------|---|
| | トラクタ外部電源のヒューズが切れている。 | トラクタ外部電源のヒューズを交換してください。 |
| | バッテリが消耗している。 | バッテリの充電、交換をしてください。 |
| | 制御ボックスの電源が入っていない。 | <ul style="list-style-type: none"> トラクタのキー連動電源を使用している場合は、トラクタのキーを ON の状態にしてください。制御ボックスの電源が入ると「ピッ」とブザー音がします。 トラクタ外部電源のヒューズが切れている場合は、ヒューズを交換してください。 バッテリターミナル部の接触不良の場合は、電源ハーネスとバッテリターミナルの接触部の清掃を行ってください。 バッテリの (+) と (-) を間違えている場合は、(+) と (-) の接続を正しく接続し直してください。 カプラ接続不良の場合は、電源カプラを正しく接続してください。 バッテリハーネスのヒューズが切れている場合は、ヒューズを交換してください。 |
| <ul style="list-style-type: none"> カルコンの「電源」ボタンを押しても、制御ボックスのスタンバイ状態を示す「ピ、ピ」というブザー音がない。 カルコンを ON にしても「電源」ランプが点滅し、操作ができない。 | カルコンと制御ボックスの間で通信障害を起こしている。 | <ul style="list-style-type: none"> 距離が遠い場合は、カルコンを制御ボックスに近づけ無線通信を確立させてください。 遮蔽物が原因の場合は、カルコンと制御ボックス間の遮蔽物を除去し見通しが良い状態にしてください。 妨害電波が原因の場合は、妨害電波のない状況で操作してください。 <p>※妨害電波について テレビ塔や発電所、放送局、空港などの設備の近く、無線機や携帯電話などの無線通信機器と一緒に携帯している場合など、それらが発する電波により通信障害を起こします。 場所を変えるか時間をおいて操作を行ってください。</p> |
| | 他の作業機用など異なる組合わせのカルコンを使用している。 | <p>正しい組合せのカルコンを使用してください。 カルコンと制御ボックス（作業機）は安全のためペアになっています。 作業機に付属のカルコンを使用してください。</p> |
| | 同機種で混信をしている。 | <p>周囲に電源の入った同機種がないか確認してください。 周囲に電源の入った同機種がある場合は、離れてから再操作を行ってください。</p> |
| | 正常な組合せや状況で使用しても操作できない。 | カルコンや制御ボックスの交換をしてください。 |

| 症状 | 確認事項 | 対応方法 |
|---|---------------------------------------|---|
| カルコンの電源ボタンを押し「ピ、ピ」というブザー音がしたが、ボタン操作しても作動しない。 | 電源ハーネスなどが正しく接続されていない。 | 正しく接続してください。 バッテリの(+)接続が不十分な場合、このような状態になることがあります。 また、発電機などに接続せずバッテリに接続してください。 |
| | バッテリが消耗している。 | バッテリの充電、交換をしてください。 |
| トラクタのキーを OFF になると、カルコンの「電源」ランプが点滅する。 | 制御ボックスの電源が切れている(キー連動電源接続している場合)。 | 通信エラーを示している状態であり、正常です。 制御ボックスの電源を入れ通信を確立するか、作業終了の場合はカルコンの電源を OFF してください。 |
| カルコンと制御ボックスを極端に近づけないと操作できない。 | 通信障害を起こしている。 | 妨害電波や遮蔽物など通信障害の原因のない状況で操作してください。 |
| 操作中に動作が止まり、「電源」ランプが点滅している。 | いずれかのボタン操作を行う。 | 正常な状態です。 安全のため、どのボタンを押しても動作が止まる仕様となっています。 |
| | 無線通信が途切れる。 | 無線通信が確立し続けた状態で使用してください。 安全のため、通信障害を起こすと動作が停止する仕様としています。 |
| 操作中に動作が止まり、カルコンの電源が OFF になってしまう。 | 電池が消耗している。 | 電池の充電。 |
| 操作中に動作が止まり、「ピー」と連続音がする。 | 過電流を検知して非常停止している。 | 非常停止のため最低 10 秒間は操作ができません。 トラクタのキーを OFF するなどして、電源供給を止め、作業機や制御ボックス配線などに異常がないか確認してください。 また、作業機に大量の土が付着している場合は除去してください。 問題がなければ再度電源を ON し操作してください。 |
| ボタン操作によりブザー音はするが、作業機が動作しない。 | モータなどの作動機器への電線カプラが外れている、または電線が破損している。 | カプラを確実に接続してください。 電線が破損している場合は、交換してください。 |
| | 制御ボックスが故障している。 | 制御ボックスを交換してください。 |
| 開閉動作が完了してもしばらく「ピー、ピー」と動作を示すブザー音が続いている。 | 制御ボックスが作業機の状態を認識中である。 | 正常な状態です。 この作業機は、モータなどの作動機器の電流値を検知して作業機が開いているのか閉じているのかなどを判断しています。 開閉動作などの途中でボタン操作などにより停止した場合、再度動作させたときには認識に時間が長くかかる場合があります。 |
| カルコンの電源を切っても、トラクタのキーを OFF にしても制御ボックスから「ピー」と小さな連続音がする。 | 接続端子の腐食や短絡している。 | カプラ周辺の清掃をしてください。 制御ボックス周辺のカプラに泥水などが詰まり接続端子部に異常が発生しています。 連続音が止まらない場合は、販売店にお問い合わせください。 |

| 症状 | 確認事項 | 対応方法 |
|--|--|--|
| EX レベラが開かない。 | 左右作業部がそれぞれ「開いた状態」にあることを制御ボックスが認識できていない。 ・・・ | 1) EX レベラを操作したい側の作業機「ひらく」ボタンを押します。 2) 「作業機状態表示」ランプが開いた状態を示す「点灯」もしくは「フラッシュ点滅」状態になってから操作します。 ※ 点灯パターンと作業機の状態の関係については「カルコンについて」を参照してください。 |
| 加圧状態にならない。 | 左右作業部がともに「開いた状態」、または「閉じた状態」にあることを制御ボックスが認識できていない。 ・・・ | 1) 作業機「ひらく」ボタンを押します。 2) カルコンの「作業機状態表示」ランプを「点灯」状態にします。 3) 「加圧」ボタンを押します。 |
| 土寄せ状態にならない。 | 左右作業部がともに「開いた状態」にあることを制御ボックスが認識できていない。 ・・・ | 1) 作業機「ひらく」もしくは「とじる」ボタンを押します。 2) 「作業機状態表示」ランプを「点灯」もしくは「消灯」状態にします。 3) 「土寄せ」ボタンを押します。 ※ 左右作業部がともに閉じているか開いている状態のときのみ土寄せ状態にできます。 左右作業部のいずれか片側のみ開いた状態では土寄せ状態になりません。 |
| 「作業機状態表示」ランプが点滅している。 | 作業機開閉動作が途中で停止している。 | 作業機の開閉動作が完了していません。 ※ 詳細は「カルコンについて」を参照してください。 |
| 「作業機状態表示」ランプがフラッシュ点滅している。 | 左右いずれかの作業機開閉動作を行った。 | 正常な状態 ※ 詳細は「カルコンについて」を参照してください。 |
| 「レベリングアイコン」ランプ表示を調整したい。 (作業機姿勢に合わせてランプ表示を調整したい) | — | 詳細は「レベリングアイコン調整モード」を参照してください。 |
| 変形、破損などによる各種部品交換を行いたい。 | 各部が単独で動かない。 | 詳細は「メンテナンスモード」を参照してください。 |

廃棄について

廃棄物などの不適切な処理は、法律により処罰されることがあります。保守時に発生した廃棄物の処置は、適切な処理をしてください。

注意事項

この作業機やその保守時に発生する廃棄物の処分は、国、または地方行政の法令の規制対象となるものがあります。

廃棄する際は、国または地方行政の法令に従い産業廃棄物処理業者に依頼するなど適切な処理をしてください。

△ 注意



- 必ず実行
- この作業機やその保守時に発生した廃棄物を廃棄するときは、国または地方行政の法令に従ってください。
 - * 間違った廃棄を行うと、作業機からオイルが漏れ、川・海に流れだし汚染することがあります。

用語解説

ここでは用語について解説します。

お知らせ

- この取扱説明書に記載していない用語もあります。

オートヒッチ

トラクタに乗ったままワンタッチで作業機を装着できるヒッチ

3点リンク

トラクタに作業機を装着するための3点で支持を行なうリンク

ジョイント

トラクタの動力を作業機へ伝達するための軸

ポジションコントロールレバー

作業機を上げ下げするために使用するレバー

チェックチェン

トラクタに対し作業機が左右に振れる量を規制するチェン

トップリンク

作業機を装着する3点のリンクのうち、作業機の上部を吊り下げているリンク

揚力

トラクタが作業機を上昇させるための力

リフトロッド

トラクタが作業機を上げるためロアリンクと連結しているロッド

ロアリンク

作業機を装着する3点リンクのうち、作業機の下部を吊り下げているリンクで、左右1本ずつある

MEMO

MEMO

KOBASHI

小橋工業株式会社

〒701-0292 岡山市南区中畦684

インターネットでも弊社の情報がご覧いただけます。

<http://www.kobashiindustries.com>

- | | | | |
|---------|-----------|-----------------------|------------------|
| ■北海道営業所 | 〒071-1248 | 北海道上川郡鷹栖町8線西2号6番 | ☎ (0166) 49-0070 |
| ■東北営業所 | 〒024-0004 | 岩手県北上市村崎野13地割35-1 | ☎ (0197) 71-1160 |
| ■関東営業所 | 〒321-3325 | 栃木県芳賀郡芳賀町芳賀台47-1 | ☎ (028) 687-1600 |
| ■岡山営業所 | 〒701-0165 | 岡山市北区大内田727 | ☎ (086) 250-1833 |
| ■九州営業所 | 〒861-2236 | 熊本県上益城郡益城町広崎1586-8 2F | ☎ (096) 286-0202 |